

第4「放課後子供教室推進事業」 とは



上手になったね音読
田間宮小学校放課後子ども教室（鴻巣市）

「放課後子供教室推進事業」について

1 概要

(1) 趣旨

全ての子供を対象として、放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用し、安全・安心な子供の活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子供たちに勉強やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供することにより、子供たちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。

また、土曜日等において社会人や企業の参画を得て、土曜日ならではの多様なプログラムを子供たちに提供し、教育支援体制の構築を図るとともに、未来を担う子供たちを健やかに育むため、地域の人材を活用し、学習が遅れがちな中学生等に対して学習支援を行う。

(2) 事業の内容

ア 指導者研修等の実施（県）

(ア) 推進委員会の設置

実施方針の検討、指導者研修の企画、事業実施後の検証・評価等を行う推進委員会を設置

(イ) 指導者研修の実施

コーディネーター等の資質向上や情報交換・情報共有を図るための研修を実施

(ウ) 市町村が実施する「放課後子供教室」「土曜日の教育支援」「中学生学力アップ教室」への支援

市町村への補助金の交付、各種会議等による情報提供

イ 「放課後子供教室」「土曜日の教育支援」「中学生学力アップ教室」の実施（市町村）

(ア) 「放課後子供教室」の実施

教育活動サポーターやボランティアを配置し、スポーツ・文化活動等の様々な体験活動や地域住民との交流活動等の取組を実施

また、教育活動推進員を配置し、補習等の学習活動の取組を実施

(イ) 「土曜日の教育支援」の実施

土曜教育推進員やボランティアを配置し、体系的・継続的なプログラムを企画・実施

(ウ) 「中学生学力アップ教室」の実施

学習支援員やボランティアを配置し、中学生を対象とした学習支援を実施

(エ) 運営委員会の設置

(オ) コーディネーターの配置

2 実施状況等

(1) 実施状況

年 度	19	20	21	22				
実施市町村数	20	31	38	38				
実施箇所数（※1）	139	214	247	277				
年 度	23	24	25	26	27	28	29	
実施市町村数	45	45	45	46	46	48	49	
対象学校数（※4）	327	351	375	382	594	705	746	

※1 平成19～22年度は実施箇所数、平成23年度以降は対象学校数にて表記

※2 平成26年度より新規事業として「土曜日の教育支援」を開始

※3 平成27年度より新規事業として「中学生学力アップ教室」を開始

※4 平成29年度の「対象学校数」の内訳は、（2）のア、イ、ウに記載

(2) 平成29年度実施市町及び対象学校数

ア 放課後子供教室 対象学校数：46市町404校（うち補助対象学校数：39市町363校）

南部地区		西部地区		北部地区		東部地区	
川口市	23	所沢市	11	熊谷市	29	行田市	4
鴻巣市	13	東松山市	8	秩父市	13	春日部市	18
草加市	21	狭山市	15	横瀬町	1	羽生市	6
蕨市	7	入間市	16	小鹿野町	4	久喜市	23
戸田市	12	富士見市	11	上里町	5	三郷市	19
志木市	8	坂戸市	3	寄居町	6	蓮田市	4
和光市	9	鶴ヶ島市	8			杉戸町	3
新座市	9	日高市	6			松伏町	1
桶川市	7	ふじみ野市	13			越谷市	19
〃	1	毛呂山町	4			加須市	3
北本市	8	嵐山町	3			八潮市	10
伊奈町	4	小川町	1			幸手市	1
		川島町	6			吉川市	1
		吉見町	2				
		ときがわ町	3				
		越生町	2				
小計	11市町122校	小計	16市町112校	小計	6市町58校	小計	13市町112校

イ 土曜日の教育支援 対象学校数：18市町260校（うち補助対象学校数：15市町219校）

南部地区		西部地区		北部地区		東部地区	
上尾市	33	所沢市	1	熊谷市	45	三郷市	27
蕨市	7	東松山市	2	深谷市	19	春日部市	8
朝霞市	10	坂戸市	12	横瀬町	1		
新座市	17	鶴ヶ島市	8				
北本市	12	ふじみ野市	19				
草加市	32	毛呂山町	4				
		越生町	3				
小計	6市111校	小計	7市町49校	小計	3市町65校	小計	2市35校

ウ 中学生学力アップ教室 対象学校数：12市町83校（うち補助対象学校数：11市町82校）

南部地区		西部地区		北部地区		東部地区	
川口市	26	越生町	1	熊谷市	16	加須市	8
北本市	4			秩父市	8	久喜市	3
				深谷市	10		
				小鹿野町	1		
				上里町	2		
				寄居町	3		
				横瀬町	1		
小計	2市30校	小計	1町1校	小計	7市41校	小計	2市11校

- ※1 政令指定都市（さいたま市）を除く。
- ※2 網掛け：県の補助を受けずに単独事業として実施している市町。
- ※3 「対象学校数」とは、各事業に参加可能な子供が在籍する学校の数を表す。

平成29年度「放課後子供教室」実施状況一覧表

※ 網掛けは、県の補助を受けずに独自に類似事業を実施している市町

市町村 (小学校数)	実施 教室数	対象 学校数	対象学校区	主な活動 場所	活動曜日	時間帯	放課後児童クラブ との連携状況	
							一体型 教室数	連携型 教室数
川口市 (52校)	23	23	原町小、朝日東小、戸塚南小、神保小、青木北小、芝小、新堀小、新仲小、安行東小、鳩ヶ谷小、中居小、辻小、里小、桜町小、南鳩ヶ谷小、本町小、荻家小、差間小、芝中央小、東本郷小、領家小、並木小、東領家小	小学校:23教室	月・土曜日:1教室(月2回) 月曜日:19教室(月2回、17教室、月1回:2教室) 木曜日:2教室(毎週:1教室) 土曜日:1教室(月2回)	平日 15:00~17:00(冬季 15:00~16:30):22教室 (うち 平日の他 土曜日 10:00~11:30:1教室) 土曜日 13:00~15:00:1教室	13	0
鴻巣市 (19校)	13	13	鴻巣東小、松原小、下忍小、原塚小、鴻巣北小、赤見台第二小、大戸小、並原小、鴻巣南小、常光小、小谷小、吹上小、田間宮小	小学校:12教室 公民館:1教室	月・火曜日(毎週):1教室 月・木曜日(毎週):3教室 月・水曜日(毎週):4教室 月・金曜日(毎週):2教室 火・木曜日(毎週):1教室 水・金曜日(毎週):1教室 木曜日(毎週):1教室	平日 14:30~17:00:13教室	7	4
草加市 (21校)	21	21	草加小、高砂小、新田小、谷塚小、栄小、川崎小、西野小、新里小、花葉南小、八幡小、新栄小、清門小、稲荷小、水川小、八幡北小、長栄小、青柳小、高野田小、松原小、瀬崎小、小山小	小学校:21教室	平日毎日及び長期休業日(平日毎日):1教室 月・火・金曜日及び土曜日(毎週):1教室 月曜日(毎週):3教室 月曜日(毎週)及び土曜日(月1回):1教室 火曜日(毎週):3教室 水曜日(毎週):4教室 水・金曜日(毎週):1教室 木曜日(毎週):3教室 金曜日(毎週):4教室	平日 放課後~17:00(冬季~16:30)、長期休業日 9:00~12:00:1教室 平日 放課後~17:00(冬季~16:30):18教室 平日 放課後~17:00(冬季~16:30)、土曜日 10:00~12:00:2教室	20	1
蕨市 (7校)	7	7	東小、西小、南小、北小、中央小、中央東小、塚越小	小学校:7教室	月曜日(毎週):7教室 ただし、祝日・春夏冬休み等を除く。	15:00~17:00(冬季 15:00~16:30):7教室	7	0
戸田市 (12校)	12	12	戸原小、美谷小、新管小、喜沢小、笹目小、戸田東小、戸田第一小、新管北小、戸田南小、笹目東小、美女木小、戸田第二小	小学校:12教室	平日週1回 火・木:1教室 平日週1回 月:1教室 木:4教室 平日月2~3回 月:1教室 火:1教室 月・水:1教室 木:1教室 平日月1回 月:2教室	15:00~16:00:1教室 15:00~16:45:1教室 15:00~17:00:2教室 15:00~17:00(冬季 15:00~16:30):8教室	12	0
志木市 (8校)	6	8	志木小、志木第二小、志木第三小、志木第四小、宗岡小、宗岡第二小、宗岡第三小、宗岡第四小	小学校:6か所	月・水・木曜日(毎週):1か所 月曜日(毎週):5か所 (不定期で土・日開催:2か所)	月・水・木曜日 14:30~17:00(冬季16:30):1か所 月曜日14:30~17:00:5か所	6	0
和光市 (9校)	12	9	白子小、新倉小、第三小、第四小、第五小、広沢小、北原小、本町小、下新倉小	小学校:9教室	平日月2回~3回:9教室	15:30~16:45:9教室	8	1
新座市 (17校)	9	9	東野小、石神小、東北小、新倉小、第四小、野寺小、栗原小、新堀小、大和田小	小学校:9教室	給食のある平日及び長期休業日(夏・冬・春休み)の平日:3教室	給食のある平日 放課後~17:00 長期休業日(夏・冬・春休み)の平日 9:00~12:00:3教室	2	1
桶川市 (7校)	7	7	桶川東小、日出谷小、桶川西小、朝日小、桶川小、加納小、川田谷小	小学校:7教室	月~金曜日(毎日):7教室	15:00~16:30:7教室	7	0
北本市 (8校)	1	1	朝日小	小学校:1教室	各月第3土曜日(ただし8月を除く):1教室	10:00~12:00:1教室	0	0
伊奈町 (4校)	8	8	西小、南小、東小、中丸小、石戸小、北小、中丸東小、栄小	小学校:8教室	給食のある月~金曜日(毎週):8教室	月~金曜日 14:45~16:50:8教室	8	0
伊奈町 (4校)	5	4	小室小、小針小、南小、小針北小	小学校:4教室 総合センター:1教室	平日(不定期):4教室 土曜日(不定期5月~2月):1教室	平日(不定期) 放課後~16:00:4教室 土曜日 9:30~15:30の間で、1教室2時間程度:1教室	0	0
所沢市 (32校)	11	11	所沢小、北小、松井小、清達小、明徳小、若松小、北秋津小、林小、若狭小、南小、中富小	小学校:11教室	月~金曜日(毎週):11教室	放課後~18:00(希望者のみ19:00まで):1教室 放課後~17:45:1教室 放課後~17:30:4教室 放課後~16:30:1教室 4~9月(~17:45)10~3月(~17:00):1教室 4~9月(~18:00)10~3月(~17:30):2教室 4~9月(~17:30)10~3月(~17:00):1教室	1	3
東松山市 (11校)	8	8	青島小、新堀小、野本小、市の川小、新明小、桜山小、大岡小、唐子小	小学校:8教室	月・金曜日(毎週):8教室	放課後(15:00頃)~16:30:8教室	0	0
狭山市 (15校)	16	15	入間川小、入間川東小、幸七見小、南小、山王小、入間野小、御狩場小、堀兼小、狭山台小、新狭山小、奥富小、柏原小、水富小、広瀬小、世井小	小学校:11教室 公民館:4教室 高校:1教室	月曜日(毎週、5月~10月):1教室 月曜日(月1回):6教室 金曜日(月2回):1教室 金曜日(月1回):2教室 土曜日(年7~8回):2教室 日曜日(月2回):2教室 日曜日(年7回):1教室 不定期:2教室(広域出張事業)	月曜日 放課後~17:30(冬季17:00):1教室 月曜日 放課後~17:00:1教室 月曜日 放課後~17:00(冬季は16:30又は16:15):5教室 金曜日 15:00~17:00(冬季は短縮):1教室 金曜日 放課後~17:00(冬季16:30):2教室 土曜日 9:30~11:30:2教室 日曜日 10:00~12:00:2教室 不定期(広域出張事業含む):2教室	9	0
入間市 (16校)	22	16	豊岡小、東金子小、金子小、幸手小、藤沢小、狭山小、西成小、藤沢南小、長須小、厩小、藤沢東小、藤沢北小、仏子小、新久小、東町小、高倉小	小学校:20教室 公民館:2教室	土曜日(長期休業日を除く毎週):16教室 週2日(原則授業給食のある日):2教室 週1日(原則授業給食のある日):4教室	土曜日 9:00~12:00:16教室 平日 放課後~16:45:6教室	5	17
富士見市 (11校)	11	11	水谷小、関沢小、水谷東小、南畑小、勝浦小、ふじみ野小、針ヶ谷小、諏訪小、つるせ台小、みずほ台小、鶴瀬小	小学校:10教室 公民館:1教室	月曜日(月1回程度):4教室 月曜日(月2回)及び土曜日(月1回程度):1教室 土曜日(月1~2回):2教室 不定期(年6~10回):3教室 月・火・金曜日(週2~3回):1教室	平日 放課後~16:30(冬季は16:00):8教室 平日 放課後~17:00(冬季は時間短縮):1教室 土曜日 10:00~12:00:2教室	11	0
坂戸市 (12校)	3	3	三芳野小、勝呂小、片柳小	小学校:3教室	月曜日(授業給食のある毎週):2教室 火曜日(授業給食のある毎週):1教室	月曜日 15:00~16:30:2教室 火曜日 15:00~16:30:1教室	2	1
鶴ヶ島市 (8校)	13	8	鶴ヶ島第一小、鶴ヶ島第二小、新町小、杉下小、長久保小、栄小、藤小、南小	小学校:9教室 市民センター:4教室	月曜日(授業給食のある毎週):3教室 火曜日(授業給食のある毎週):1教室 水曜日(授業給食のある毎週):1教室 月~金曜日(原則授業給食のある週):8教室 ※夏休みは一部実施	月曜日 15:00~17:00:3教室 火曜日 15:00~17:00:1教室 水曜日 15:00~17:00:1教室 月~金曜日 原則15:00~17:00:8教室 ※夏休みは午前	9	4
日高市 (6校)	6	6	高萩北小、高萩小、高根小、高萩小、武蔵台小、高麗川小	小学校:6教室	月曜日(月1回程度):3教室 火曜日(月1回程度):1教室 金曜日(月1回程度):2教室	月曜日 15:00~17:00:1教室 月曜日 15:00~17:00(冬季15:00~16:30):2教室 火曜日 15:00~16:30:1教室 金曜日 15:00~16:30:1教室 金曜日 15:00~17:00(冬季15:00~16:30):1教室	5	1
ふじみ野市 (13校)	13	13	西原小、東台小、さぎの森小、三角小、東原小、元福小、西小、大井小、亀久保小、福岡小、上野台小、鶴ヶ丘小	小学校:13教室	月曜日(給食のある毎週):7教室 火曜日(給食のある毎週):1教室 水曜日(給食のある毎週):1教室 木曜日(給食のある毎週):2教室 金曜日(給食のある毎週):2教室	放課後~17:00(冬季16:30まで):13教室	13	0
毛呂山町 (4校)	2	4	毛呂山小、川角小、光山小、泉野小	公民館:1教室 図書館:1教室	土曜日(月3回程度):1教室 木曜日(月3回程度):1教室	土曜日 10:00~15:00:1教室 木曜日 15:00~17:30:1教室	1	0
嵐山町 (3校)	1	3	菅谷小、七郷小、志賀小	嵐山町ふれあい交流センター:1教室	月曜日(月3回程度、1.2.4.8月を除く)、土・日曜日及び長期休業日(不定期):1教室	月曜日(16:00~17:00)、土・日曜日及び長期休業日(午前又は午後):1教室	0	1
小川町 (6校)	1	1	大河小学校	小学校:1教室	月曜日(授業給食のある日):1教室	14:50~16:45:1教室	0	1
川島町 (6校)	6	6	中山小、伊草小、三保谷小、出丸小、八ツ保小、小見野小	公民館:6教室	土・日曜日・休日(月1回程度):6教室	9:00~12:00:4教室 13:00~16:00:2教室	1	5
吉見町 (6校)	2	2	南小、北小	公民館:2教室	月・金曜日(毎週):2教室	放課後~17:00:2教室	0	0
ときがわ町 (3校)	2	3	明登小、萩ヶ丘小、玉川小	小学校:1教室 公民館:1教室	月~金曜日(給食のある毎週):1教室 土曜日(不定期(年12年)):1教室	月~金曜日(給食のある毎週) 放課後~16:00:1教室 土曜日(不定期) 11:00~12:00:1教室	0	1
越生町 (2校)	1	2	越生小、梅園小	郷土資料室:1教室	土・日曜日・祝日及び長期休業日:1教室	4/1~9/30 13:00~17:00、10/1~3/31 13:00~16:30:1教室		

第4「放課後子供教室」推進事業とは

平成29年度「放課後子供教室」実施状況一覧表

※ 網掛けは、県の補助を受けずに独自に類似事業を実施している市町

市町村 (小学校数)	実施 教室数	対象 学校区数	対象学校区	主な活動 場所	活動曜日	時間帯	放課後児童クラブ との連携状況	
							一体型 教室数	連携型 教室数
熊谷市 (29校)	29	29	熊谷東小、熊谷西小、石原小、大森小、大幡小、佐谷田小、大塚小、玉井小、久下小、熊谷南小、中泉小、吉岡小、別府小、三反小、森原小、藤原小、桜木小、龍原小、新堀小、吉見小、市田小、長井小、秦小、妻沼小、男沼小、太田小、妻沼南小、江南南小、江南北小	小学校：29教室	①月(月2回)土曜日・長期休業日(不定期 年6回)：1教室 ②月～金(不定期 年22回)土曜日・長期休業日(不定期 年3回)：1教室 ③月(月2回)長期休業日(年4回)：1教室 ④月～金(不定期 年19回)金・土・日曜日・長期休業日(不定期 年16回)：1教室 ⑤月(月2回)金(毎週)、日曜日・長期休業日(不定期 年23回)：1教室 ⑥月(月2回)月・水・土曜日(不定期 年5回)：1教室 ⑦月(月2回)土・日曜日・長期休業日(年5回)：1教室 ⑧月(月2回)木・土曜日(毎週)長期休業日(年15回)：1教室 ⑨月(月2回)金・土曜日(不定期 年3回)：1教室 ⑩月(月2回)土曜日(不定期 年3回)：1教室 ⑪月(月2回)土曜日(不定期 年4回)：1教室 ⑫月(月2回)月・土曜日・長期休業日(不定期 年4回)：1教室 ⑬月(月2回)火・水・金・土・日曜日・長期休業日(不定期 年22回)：1教室 ⑭金(月2回)土・日曜日(不定期 年4回)：1教室 ⑮月(月2回)平日4回、土曜日(毎週)長期休業日(年2回)：1教室 ⑯金(月2回)月～日曜日(不定期 月4回程度)長期休業日(年3回)：1教室 ⑰金(月2回)月・火・木・金曜日(不定期 年7回)土曜日(毎週)、長期休業日(年16回)：1教室 ⑱月(月2回)月～日曜日(期間限定 年10回)長期休業日(不定期 年2回程度)：1教室 ⑲月(月2回)金・土・日曜日(毎週)・長期休業日(年5回)：1教室 ⑳月(月2回)土曜日(不定期 年5回)：1教室 ㉑月(月2回)土曜日(月1回)：1教室 ㉒木(月2回)土曜日(月2回)長期休業日(年2回)：1教室 ㉓火(月2回)長期休業日(年1回)：1教室 ㉔木(月2回)土・日曜日(年4回)長期休業日(年7回)：1教室 ㉕木(月2回)土曜日(毎週)長期休業日(年2回)：1教室 ㉖水(月2回)土曜日(月1回程度)長期休業日(年3回)：1教室 ㉗月(月2回)土曜日(不定期 年3回)：1教室 ㉘月(月2回)土曜日(不定期 年4回)：1教室	①月(15:00～16:00)土(9:00～12:00)長期休業日(9:00～11:00、10:30～11:30)：1教室 ②月～金(16:00～17:00)土(10:00～11:30)長期休業日(6:00～11:00、9:00～21:30)：1教室 ③月(15:15～16:15)長期休業日(6:30～13:00、13:30～15:00)：1教室 ④月～金(14:30～15:30)金(18:30～20:30)土(9:30～12:30)日(9:00～12:00、13:00～15:00)長期休業日(9:30～10:30、11:30～22:00)：1教室 ⑤月(15:00～16:30)金(16:30～18:30)日(10:00～13:00)長期休業日(10:00～12:00)：1教室 ⑥月(15:00～16:00)月・水(15:00～16:30)土(9:30～11:30)：1教室 ⑦木(15:30～16:30)土(9:00～22:00)日(8:00～12:00)長期休業日(6:00～10:00、12:00～21:00)：1教室 ⑧月(15:00～16:00)木・長期休業日(18:00～20:00)土(9:00～11:30)：1教室 ⑨月(15:15～16:15)金(19:00～20:00)土(9:00～12:00)：1教室 ⑩月(15:00～16:00)土・日(9:00～12:00)：1教室 ⑪月(14:30～15:30)土(9:00～12:00)：1教室 ⑫月(18:00～18:45、15:00～16:00)土(9:00～13:00)長期休業日(9:00～12:00)：1教室 ⑬月(15:00～16:00)火・水・金(15:00～17:00)土・日(8:30～11:30)長期休業日(9:00～12:00)：1教室 ⑭金(16:00～17:00)土・日(9:30～12:00)：1教室 ⑮木(15:20～16:20)火・水・木・金(16:00～21:00)土・日(9:00～12:00)長期休業日(16:00～21:00)：1教室 ⑯月(15:05～15:50)火・金(14:00～16:00)長期休業日(15:30～20:30)：1教室 ⑰金(16:00～17:00)月～金(13:00～14:00)土・日(9:00～11:00)長期休業日(9:00～14:00)：1教室 ⑱月(15:00～16:00)月・火・水・金(16:00～18:00)土・長期休業日(13:00～17:00)：1教室 ⑲月(15:00～16:00)月～日(17:00～19:00)長期休業日(9:00～12:00)：1教室 ⑳月(15:15～16:15)金(16:00～17:00)土・日曜日(9:00～11:00)：1教室 ㉑月(15:00～16:00)土(9:00～10:00、9:00～11:00)：1教室 ㉒月(15:00～16:00)土(9:30～11:30)：1教室 ㉓木(16:00～17:00)土(9:30～11:30)長期休業日(6:00～11:30、18:00～22:00)：1教室 ㉔火(16:00～17:00)長期休業日(9:00～12:00)：1教室 ㉕木(15:00～16:00)火(16:00～17:00)土・日(9:00～12:00)長期休業日(8:15～9:45)：1教室 ㉖木(16:00～17:00)土(9:00～11:00)長期休業日(8:30～21:00、6:30～12:00)：1教室 ㉗火(16:00～17:00)土(10:00～12:00)長期休業日(5:30～9:30、15:00～21:30)：1教室 ㉘月(15:00～16:00)土(8:00～12:00)：1教室 ㉙月(15:00～15:45)土(9:00～11:00)：1教室	24	4
秩父市 (13校)	13	13	秩父第一小、花の木小、西小、南小、尾田町小、原谷小、久那小、高橋小、大田小、影森小、吉田小、荒川東小、荒川西小	小学校：13教室	月～土曜日及び長期休業日：13教室	平日 放課後～16:30、長期休業日 9:00～16:30：13教室	8	0
横瀬町 (1校)	1	1	横瀬小	小学校：1教室	月～金曜日(毎週)、長期休業日：1教室	月～金曜日 放課後～17:30、長期休業日(月～金曜日) 8:00～17:30：1教室	0	0
小鹿野町 (4校)	4	4	小鹿野小、長若小、三田川小、両神小	文化センター：1教室 小学校：3教室	夏季休業日(6日間)・土曜日(月1日)：1教室 火曜日(毎週)：2教室 金曜日(毎週)：1教室 月・木曜日(年50回)：2教室 火・金曜日(年50回)：3教室 火～土曜日(年1回)：じゃじゃ～ん！わんぱく合宿塾 不定期(年4回)：チャレンジクラブ	夏季休業日・土曜日 9:30～11:00：1教室 火曜日 14:55～15:30：2教室 金曜日 13:45～14:30：1教室 月・木曜日 放課後～17:00：2教室 火・金曜日 放課後～17:00：3教室 火～土曜日 火曜日の放課後～土曜日の13:30：じゃじゃ～ん！わんぱく合宿塾 不定期：チャレンジクラブ	2	2
上里町 (5校)	5	5	上里東小、神保原小、賀美小、長橋小、七本木小	小学校：3教室 公民館等：2教室	月・木曜日(年50回)：2教室 火・金曜日(年50回)：3教室 火～土曜日(年1回)：じゃじゃ～ん！わんぱく合宿塾 不定期(年4回)：チャレンジクラブ	月・木曜日 放課後～17:00：2教室 火・金曜日 放課後～17:00：3教室 火～土曜日 火曜日の放課後～土曜日の13:30：じゃじゃ～ん！わんぱく合宿塾 不定期：チャレンジクラブ	5	0
寄居町 (6校)	6	6	寄居小、桜沢小、用土小、折原小、鉢形小、男衾小	小学校：6教室	5～3月初旬 火曜日(年29回)：3教室 水曜日(年29回)：1教室 金曜日(年29回)：2教室	14:45～15:30：4教室 14:50～15:35：1教室 14:55～15:40：1教室	0	0
行田市 (16校)	4	4	北小、北河原小、西小、太田東小	小学校：3教室 地域文化センター：1教室	月曜日(隔週)：1教室 木曜日(毎週)：3教室	15:00～16:40：4教室	2	0
加須市 (22校)	3	3	①騎西小、田ヶ谷小 ②不動岡小	①小学校：2教室 ②小学校・公民館：1教室	①不定期(年2～3回)：2教室 ※各校の一斉下校の日に合わせて実施 ②月曜日(年5回)・土曜日(年4回)：1教室	①月曜日 15:00～16:30：2教室 ②月曜日 15:15～16:45、土曜日 9:30～11:30：1教室(イベントにより時間帯変更)	3	0
春日部市 (24校)	18	18	内牧小、幸松小、桜川小、宮川小、正善小、緑小、武蔵南小、藤塚小、宝珠花小、武里小、立野小、年島小、八木崎小、上沖小、中野小、豊春小、武里西小、南桜井小	小学校：18教室	月曜日のみ 年2～14回：7教室 水曜日のみ 年3回：1教室 不定期(年4回～20回)：10教室	放課後～17:00までの間：18教室	17	0
羽生市 (11校)	6	6	羽生北小、新郷第一小、若瀬小、井泉小、手子林小、羽生南小	小学校：1教室 公民館：1教室 小学校集会所：1教室 教室	木曜日(月3回)：1教室 月・土曜日(毎週)：1教室 月曜日(毎週)：4教室 ※会場等の都合により休み有り	木曜日 15:45～17:45：1教室 月曜日 放課後～17:00(5月～10月)、放課後～16:00(11月～3月)、 不定期の講座実施時には17:00まで(5月～3月) 土曜日 10:00～12:00：1教室 月曜日 15:00～17:00：4教室	4	1
越谷市 (30校)	18	19	越ヶ谷小、大沢小、新方小、大塚小、荻島小、出羽小、藤生小、南越谷小、藤生第二小、東越谷小、大沢北小、養生南小、弥栄小、大間野小、豊後小、明正小、桜井南小、花田小、城ノ上小	小学校：12教室 公民館：1教室 地区センター：2教室 公園：1教室 公民館：4教室 公民館：1教室 科学技術センター：1教室	月曜日 毎週：2教室 月3回：1教室 月2回：5教室 月1回：1教室 水曜日 毎週：1教室 月2回：1教室 木曜日 毎週：2教室 土曜日 月2回：4教室 月2回：1教室	月曜日 15:00～16:30：2教室 15:00～16:45：1教室 15:00～17:00：5教室 15:00～17:00(夏季)、15:00～16:30(冬季)：1教室 水曜日 15:00～16:45：1教室 15:00～17:00：1教室 木曜日 15:00～17:00：1教室 15:00～17:00(夏季)、15:00～16:30(冬季)：1教室 土曜日 9:15～11:30：1教室 9:30～11:30：1教室 10:00～15:00：1教室 13:00～15:30：1教室 13:30～16:00：1教室	0	0
久喜市 (23校)	23	23	久喜小、太田小、江面第一小、江面第二小、清久小、本町小、青葉小、青毛小、久喜東小、久喜北小、葛原小、小林小、三箇小、柏岡小、蒲澤小、栗橋西小、栗橋南小、栗橋小、鷲宮小、桜田小、上内小、砂原小、東鷲宮小	小学校：23教室	月曜日(月2～3回)・土曜日(月2～3回)：2教室 月曜日(月1～2回)・土曜日(月1～2回)：4教室 月曜日(月1～2回)・土曜日(月1～2回)：3教室 月曜日(月2～3回)・土曜日(年1回)：1教室 月曜日(月1～2回)・土曜日(年2回)：4教室 月曜日(月1～2回)・土曜日(年1回)：3教室 月曜日(年4回)・火曜日(年6回)：1教室 木曜日(月2～3回)・土曜日(月1～2回)：1教室 木曜日(月2～3回)・土曜日(年5回)：1教室 木曜日(月1～2回)・土曜日(年3回)：1教室 金曜日(月1～2回)・土曜日(年2回)：1教室 土曜日(年7回)：1教室	平日 15:00～16:30(冬季 15:00～16:15)と土曜日 9:30～11:30：21教室 平日 15:00～16:30(冬季 15:00～16:15)：1教室 土曜日 9:30～11:30：1教室	18	5
八潮市 (10校)	10	10	八條小、瀬止小、八種小、大菅根小、松之木小、中川小、八坂北小、大瀬小、大原小、柳之登小	小学校：10教室	土曜日(原則第1、第3)：10教室	9:00～12:00：10教室	0	0
三郷市 (19校)	4	19	早稲田小、八木郷小、戸ヶ崎小、彦成小、高州小、吹上小、桜小、鹿野小、新和小、幸房小、立花小、藤奈小、前谷小、高州東小、藤野小、丹後小、前間小、堀木小、後谷小	地区文化センター：2教室 市民センター：1教室 小学校：1教室	火・木曜日(毎週)：1教室 月・水・金・土曜日(毎週)：1教室 土曜日(毎週)：1教室 平日・土曜日(月1回程度)：1教室	平日 15:00～17:00(4月～9月) 15:00～16:30(10月～3月) 土曜日 13:30～17:00(4月～9月) 13:30～16:30(10月～3月)	1	0
蓮田市 (8校)	4	4	黒浜南小、黒浜小、平野小、蓮田北小	小学校：4教室	水曜日(年22回)：1教室 長期休業日(年6回)：1教室 水曜日(年27回)・金曜日(年23回)：1教室 不定期(年6回)：1教室	水曜日 14:30～15:35までの間：1教室 長期休業日 9:30～11:30：1教室 水・金曜日 放課後～17:30までの間：1教室 不定期 16:00～17:00：1教室	4	0
幸手市 (9校)	1	1	吉田小	小学校：1教室	①第1～第3月曜日 ②火・木曜日(毎週)	①15:00～16:30 ②15:45～16:30	0	0
吉川市 (8校)	1	1	三輪野江小	小学校：1教室	月曜日(月3～4回程度)	15:05～16:30：1教室	1	0
杉戸町 (6校)	3	3	杉戸第三小、杉戸第二小、泉小	小学校：3教室	月・水曜日(月3～4回程度)：1教室 月・金曜日(月2～4回程度)：1教室 月曜日(月1～2回程度)：1教室	月・水曜日 15:00～17:00：1教室 月・金曜日 15:00～16:00：1教室 月曜日 15:00～16:00：1教室	3	0
松伏町 (3校)	1	1	金杉小学校	小学校：1教室	課業日の月、木(年間54回)	15:00～16:30：1教室	1	0
合計	396	404					249	53

「第4」放課後子供教室
推進事業」とは

平成29年度「土曜日の教育支援」実施状況一覧表

※ 網掛けは、県の補助を受けずに独自に類似事業を実施している市町

市町村	学校数	実施教室数	対象学校区数	対象学校区	主な活動場所	活動曜日	時間帯	運営委員会	研修の実施
上尾市	33	6	33	市内全小中学校	公民館：6教室	土曜日及び長期休業日(不定期)：6教室	土曜日及び長期休業日：10:00～15:00のうちの2時間：6教室	7月2月	無
草加市	32	25	32	市内全小中学校	小学校：21教室 公民館等：4教室	土曜日(年13回) 平成29年 6/24 7/22 8/5 8/26 9/16 10/14 10/28 11/25 12/9 12/16 平成30年 1/27 2/10 2/24	土曜日 9:00～11:00：21教室 土曜日 9:30～11:30：4教室	4月3月	無
蕨市	10	7	7	東小、西小、南小、北小 中央小、中央東小、塚越小	小学校：7教室	土曜日(隔週)：7教室 ただし、春冬休み等を除く。	9:30～11:30：7教室	2月	無
朝霞市	15	6	10	第一小、第二小、第三小 第四小、第五小、第六小 第七小、第八小、第九小 第十小	小学校：6教室	土曜日(全12回)：6教室	9:30～11:30：6教室	7月3月	無
新座市	23	17	17	大和田小、西堀小、片山小、 第四小、八石小、東北小、 野火止小、野寺小、池田小、 新堀小、東野小、栄小、 石神小、新開小、栗原小、 陣屋小、新座小	小学校：16教室 児童センター：1教室	土曜日(月2回程度)：17教室	土曜日 10:00～12:00：17教室	5月	無
北本市	12	12	12	中丸小、石戸小、南小、栄小、 北小、西小、東小、中丸東小、 北本中、東中、西中、宮内中	小学校：8教室 中学校：4教室	土曜日の午前中(10回)：12教室	9:00～12:00：12教室	4月	無
所沢市	47	1	1	所沢小	小学校：1教室	土曜日及び長期休暇(毎週)：1教室	土曜日 9:00～12:00 長期休業日 夏 13:00～18:00 冬 13:00～17:00 春 13:00～17:30 (希望者のみ19:00まで)：1教室	5月	有
東松山市	16	2	2	唐子小、桜山小	市民活動センター：1教室 小学校：1教室	土曜日(月2回程度)：2教室	土曜日 9:30～11:30：2教室	5月	無
坂戸市	19	12	12	坂戸小、三芳野小、勝呂小、 入西小、大家小、浅野野小、 千代田小、片柳小、南小、 上谷小、城山小、桜小	公民館：9教室 交流センター：2教室 勤労女性センター：1教室	土曜日(年18回)：8教室 土曜日(年16回)：4教室	9:30～11:30：12教室	5月 11月 2月	無
鶴ヶ島市	13	1	8	鶴ヶ島第一小、鶴ヶ島第二小、 新町小、杉下小、長久保小、 栄小、藤小、南小	図書館：1教室	土曜日：1教室	9:00～12:00：1教室	7月1月	無
ふじみ野市	19	6	19	市内全小・中学校	小学生コース 小学校：2教室 市民交流プラザ、保健 センター：2教室 中学校コース 公民館：1教室 まちづくり会館：1教室	小学生コース：土曜日(8月最終週・1回)：4教室 中学生コース：土曜日(9～11月・月1回)：2教室	土曜日 9:00～12:00：6教室	7月	無
毛呂山町	6	2	4	毛呂山小、川角小、光山小 泉野小	中央公民館：1教室 歴史民俗資料館：1教室	土曜日：2教室	9:30～11:30：2教室	6月3月	無
越生町	3	2	3	越生小・梅園小・越生中	小学校、中学校、高 校、公民館、コミュニ ティセンター：1教室 小学校、公民館、地域 交流センター、公会 堂：1教室	平成29年 6/17 7/2 7/29 8/5 8/6 8/9 8/19 8/20 8/21(12回)：1教室 平成29年 8/21 8/22 8/23 8/24 8/25(5回)：1教室	土曜日及び夏季休業中の14:00～15:30、9:30～11:30、 13:30～15:30：1教室 夏季休業中の9:15～10:15：1教室	7月	無
熊谷市	45	18	45	熊谷東小、熊谷西小、石原小、 成田小、大幡小、佐谷田小、 大幡生小、玉井小、久下小、 熊谷南小、中条小、吉岡小、 別府小、三尻小、奈良小、 星室小、桜木小、龍原小、 新堀小、吉見小、市田小、 長井小、桑小、妻沼小、 男沼小、太田小、妻沼南小、 江南南小、江南北小、荒川中、 宮土屋中、大原中、熊谷東中、 玉井中、大幡生中、中条中、 吉岡中、別府中、三尻中、 奈良中、大幡中、大里中、 妻沼東中、妻沼西中、江南中	小・中学校	土曜日または日曜日：18教室	8:30～16:40：1教室 9:00～11:30：1教室 9:00～11:40：1教室 9:00～11:45：1教室 9:00～12:00：10教室 10:00～12:00：1教室 10:00～15:00：1教室 13:00～15:00：1教室 13:00～15:30：1教室	5月	無
深谷市	21	19	19	明戸小、幡羅小、深谷小、 桜ヶ丘小、大寄小、藤沢小、 深谷西小、常盤小、八基小、 上柴西小、上柴東小、豊里小、 岡部小、樺沢小、本郷小、 岡部西小、川本北小、 川本南小、花園小	小学校：19教室	土曜日：19教室 各小学校で年30回程度実施	9:15～11:30：19教室	4月	有
横瀬町	2	1	1	横瀬小	小学校：1教室	土曜日(年6回)：1教室	土曜日 9:00～11:30：1教室	5月 9月 1月	無
春日部市	37	8	8	宮川小、武里南小、藤塚小、 武里小、牛島小、八木崎小、 上沖小、南桜井小	小学校：8教室	不定期：8教室	9:00～15:00までの間：8教室	12月 3月	有
三郷市	27	5	27	早稲田小、八木郷小、 戸ヶ崎小、彦成小、高州小、 吹上小、桜小、鹿野小、 新和小、幸房小、立花小、 彦糸小、前谷小、高州東小、 彦郷小、丹後小、前開小、 瑞木小、後谷小 (中学校) 南中、北中、栄中、彦成中、 彦糸中、前川中、早稲田中、 瑞穂中	おもしろ遊学館 ：4教室 (中学校) おもしろ遊学館及び 東和東地区文化セン ター：1教室	おもしろ遊学館 土曜日(年14回)・日曜日(年7回)：1教室 土曜日(年11回)・日曜日(年9回)：1教室 土曜日(年5回)・日曜日(年10回)：1教室 土曜日(年4回)・日曜日(年4回)：1教室 (中学校) おもしろ遊学館及び東和東地区文化センター：1教室 土曜日・日曜日 9:30～12:00の2時間(10～11月) 土曜日・日曜日 9:10～15:40の5.5時間(12月)	おもしろ遊学館 土曜日・日曜日 10:00～15:00の1.5時間：2教室 土曜日・日曜日 10:00～15:00の1時間：2教室 (中学校) おもしろ遊学館及び東和東地区文化センター：1教室 土曜日・日曜日 9:30～12:00の2時間(10～11月) 土曜日・日曜日 9:10～15:40の5.5時間(12月)	毎月	無
合計	380	150	260						

第4「放課後子供教室
推進事業」とは

平成29年度「中学生学カアップ教室」実施状況一覧表

※ 網掛けは、県の補助を受けずに独自に類似事業を実施している市町

市町村	学校数	実施教室数	対象学校区数	対象学校区	主な活動場所	活動曜日	時間帯	運営委員会	研修の実施
川口市	26	26	26	東中、西中、南中、北中、青木中、芝中、元郷中、上青木中、幸並中、十二月田中、仲町中、安行中、芝東中、芝西中、岸川中、株松中、小谷場中、神根中、箱家中、戸塚中、在家中、安行東中、戸塚西中、鳩ヶ谷中、八幡木中、里中	中学校：26教室	10月～2月の土曜日もしくは日曜日と冬季休業日から13回（実施日は各校が決定）：26教室	9:30～11:30又は13:00～15:00：26教室	7月	有
北本市	4	2	4	北本中、東中、西中、宮内中	公民館：2教室	土曜日：2教室（公民館）	17:00～19:00：2教室（公民館）	無	無
越生町	1	1	1	越生中	中学校：1教室	長期休業日等：1教室	午前中：1教室	7月	無
熊谷市	16	16	16	荒川中、富士見中、大原中、熊谷東中、玉井中、大塚生中、中条中、吉岡中、別府中、三尻中、奈良中、大幡中、大里中、妻沼東中、妻沼西中、江南中	中学校：16か所	月曜日：1教室 火曜日：1教室 木曜日：5教室 土曜日：9教室	月曜日15:15～17:15：1教室 火曜日16:30～18:30：1教室 木曜日16:00～18:00：2教室 木曜日16:30～18:30：1教室 木曜日18:00～20:00：1教室 木曜日19:00～21:00：1教室 土曜日9:00～11:00：1教室 土曜日9:30～11:30：1教室 土曜日13:00～15:00：3教室 土曜日13:30～15:30：1教室 土曜日14:00～16:00：2教室 土曜日16:00～18:00：1教室	2月	有
秩父市	8	1	8	市内全中学校	公民館：1教室	木曜日（月2回）：1教室	木曜日18:30～20:30：1教室	2月	有
深谷市	10	10	10	市内全中学校	各中学校：10教室	月～金曜日、土曜日（隔週）、長期休業日：1教室 月・火曜日、土曜日（隔週）、長期休業日：1教室 月・水曜日、土曜日（隔週）、長期休業日：2教室 月・木曜日、土曜日（隔週）、長期休業日：4教室 月・金曜日、土曜日（隔週）、長期休業日：2教室	月曜日15:05～16:05：1教室 15:30～16:30：1教室 15:10～16:00：1教室 火曜日16:00～17:00：1教室 水曜日16:00～17:00：1教室 16:20～17:20：1教室 木曜日16:00～17:00：1教室 16:10～17:00：1教室 15:30～16:30：2教室 金曜日16:00～17:00：2教室 土曜日10:30～11:30：1教室 8:30～11:30：2教室 9:00～12:00：2教室 15:00～18:00：1教室 長期休業日 8:30～10:30：1教室 8:00～9:30：1教室 7:00～8:30：1教室 15:20～16:20：4教室 15:10～16:10：3教室 16:10～17:10：1教室 16:10～17:10：1教室 16:20～17:20：1教室 16:15～17:45：1教室 8:00～10:00：2教室 8:00～9:30：1教室 8:30～11:00：1教室 8:00～10:00：2教室 9:00～12:00：5教室	4月	有
横瀬町	1	1	1	横瀬中	中学校：1教室	12月（3日間）：1教室	冬季休業日8:40～11:50：1教室	5月 9月 1月	無
小鹿野町	1	1	1	小鹿野中	文化センター：1教室	土曜日（月2回）：1教室	8:45～11:45：1教室	毎月2 回程度	無
上里町	2	1	2	上里中、上里北中	公民館：1教室	月・木曜日（毎週）：1教室	月・木曜日17:00～19:00：1教室	7月 3月	無
寄居町	3	1	3	寄居中、城南中、男衾中	寄居町役場：1教室	7月～2月の 原則土曜日又は日曜日（毎週）：1教室（年間30回）	午前（9:30～11:50）又は午後（13:00～15:20） ：1教室	7月 1月	無
加須市	22	5	8	昭和、加須西中、加須東中、加須北中、加須平成中、駒西中、北川辺中、大利根中	公民館：1教室 文化・学習センター：1教室 総合支所：1教室 コミュニティセンター：2教室	土曜日又は日曜日：5教室	9:45～11:45又は13:30～15:30：5教室	5月 6月 8月 11月 3月	無
久喜市	11	3	3	久喜南中学校、菖蒲中学校、鷲宮西中学校	各中学校：3教室	月曜日：2教室 木曜日：1教室	15:10～17:10：3教室	6月 2月	無
合計	105	68	83						

第4「放課後子供教室
推進事業」とは

(3) 成果

ア 子供たちに関する成果

- 異学年での交流や地域の大人との交流をとおして、協調性や社会性が育まれている。
- 高学年の児童が低学年の児童の学習の手伝いをしたり、思いやりのある行動をしたりする場面が見られ、児童の成長を感じた。
- 学校では体験できない雰囲気を楽しみながら、積極的にのびのびと活動しており、子供たちの成長した姿が見受けられた。
- 地域とのつながりが深くなり、学校、地域で挨拶ができるようになった。
- 学習する習慣が身につく、家庭でも計画的に学習するようになった。

イ 保護者に関する成果

- 地域の方々と触れ合いながら活動できる場はなかなか無いので、人間性や社会性を広げる良い機会になった。
- 違う学年の子供を持つ保護者同士が、交流できる貴重な場となった。
- 保護者がスタッフに相談をしたり、学校外でも挨拶をしたりするなど、地域内のコミュニケーションが高まった。

ウ 指導者や地域に関する成果

- 地域の子供たちの健やかな成長の一翼を担っているという実感がわき、やりがいを感じている。
- 様々な団体に関わることで大人同士の交流が生まれ、地域のコミュニティづくりにつながっている。
- 「地域の子供は地域が育てる」という意識が高まり、地域の教育力の向上が図られている。
- 地域に子供たちと親しくなり、身近に感じられるようになった。

(4) 課題

- コーディネーター・ボランティア等の人材の確保及び育成
- 高学年の児童も参加できるような企画・運営
- 「学校応援団」「放課後児童クラブ」との連携
- 開催日数や活動場所の確保
- 広報活動の充実

第5「放課後子供教室推進事業」 の実践事例 （実施市町の取組）



ムラサキイモのケーキづくり
小鹿野小学校放課後子供教室

放課後子供教室（一体型事例）

市町村名	川口市			
実施教室数	23 教室	登録	コーディネーター数	30 人
（うち一体型・連携型での実施教室数）	13 教室	スタッフ数	ボランティア数	200 人
平均年間開催日数	20 日			

【活動事例の紹介】

教室名	安行東ときめきひろば				
登録児童数	149 人	登録 スタッフ数	12 人	児童クラブ 連携状況	一体型
開催日	指定月曜日 <small>（うち一体型）</small>	年間開催日数	20 日 <small>（うち一体型）</small>	平均参加者数	94 人 <small>（うち児童クラブ参加者）</small>
	同上		同上		26 人

一体型で実施の取組内容

- 事前に企画したプログラムに沿って活動している。教室のルールや約束事を楽しみながら身につけるゲームから始まり、参加児童全体で行う各種じゃんけんゲームや工作のほか、竹とんぼ等の昔遊び、パズル、ドミノ、将棋、フラフープ、豆つかみ等、参加児童が各自で希望するものを自由に選択する時間も設け、希望児童は宿題に取り組むこともできる。
- 活動は地域の環境保全団体、民生委員、主任児童委員等がボランティアとして協力している。加えて、近隣中学校の生徒、外部講師を招いて実施している。
- 夏休み中には、地域住民や市内の他の放課後子供教室のスタッフ等の協力を得て、カレーライスづくり体験、ヨーヨー釣り、ゴム鉄砲、手作り知恵の輪等の昔遊び体験のできる夏祭りを開催した。学校の協力により、家庭科室や校庭等を広く使うことができ、放課後子供教室に登録していない児童やその保護者が多く参加したものの、円滑な運営をすることができた。



【夏祭り（カレーづくり体験）】



【竹とんぼ体験】



【児童クラブへの引き渡し】

実施までの流れ・ポイント

- コーディネーターが事前に、放課後子供教室の登録児童名簿を作成する。
- 放課後子供教室の開催日当日の朝、担任がクラスごとに参加カードを回収し、登録児童名簿を確認し、参加の有無を把握する。
- 各クラスの担任が教頭を通して放課後子供教室と放課後児童クラブに児童名簿を渡し、放課後児童クラブのスタッフは、放課後児童クラブ登録児童の当日の参加の有無とあわせて放課後子供教室の参加の有無を把握する。
- 放課後児童クラブを利用する児童で、放課後子供教室に参加する児童は、活動終了後に放課後子供教室のスタッフが放課後児童クラブへ児童を引き渡している。その際に児童についての情報共有を行っている。

成果・今後の展望

- 放課後児童クラブを利用している児童も放課後子供教室に参加できるため、多くの児童が遊びや体験活動等様々な選択肢から選ぶことができる。また児童は地域住民と交流する機会が増え、地域の行事等でも挨拶を交わす関係を築いている。
- 今後の展望として、放課後子供教室と放課後児童クラブが活動プログラムや遊具等を共有し、それらの有効活用と児童同士の交流促進の場をつくりたい。
- より良い一体型の教室運営のため、放課後子供教室、放課後児童クラブ、学校が情報を共有し、それぞれの立場から意見を出し合い協議する場を設ける必要がある。

放課後子供教室（一体型事例）

市町村名	草加市			
実施教室数	21 教室	登録	コーディネーター数	15 人
(うち一体型・連携型での実施教室数)	21 教室	スタッフ数	ボランティア数	257 人
平均年間開催日数	45 日			

【活動事例の紹介】

教室名	新田小ハッピー（自由な遊びと学習の見守り）				
登録児童数	95 人	登録 スタッフ数	10 人	児童クラブ 連携状況	一体型
開催日	毎週木曜日 <small>(うち一体型)</small>	年間開催日数	34 日 <small>(うち一体型)</small>	平均参加者数	59 人 <small>(うち児童クラブ参加者)</small>
	同上		同上		20 人

一体型で実施の取組内容

(1) 実施内容

新田小放課後子ども教室「新田小ハッピー」は平成23年5月に開設された教室であり、毎週木曜日に開催している。

放課後児童クラブの児童も放課後子ども教室の児童とともに校庭で一緒に遊んでいて、主にかげっこやドッジボール、竹馬、一輪車などのあそびが盛んである。

(2) 日頃の活動の様子

放課後児童クラブの児童は、学校終了後、児童クラブに登室した後、外遊びの時間になると校庭で一緒に遊ぶとともに、放課後子ども教室で用意しているあそび道具も一緒に使用している。

なお、校庭での活動の際は、放課後児童支援員も付き添い、放課後子ども教室の児童サポーターと一緒に子ども達を見守っている。

実施までの流れ・ポイント

- 放課後子ども教室のコーディネーター及び児童サポーターと放課後児童支援員は、日頃から気づいたことやお互いのあそびのルール確認などコミュニケーションを取っている。
- 放課後児童クラブの児童の参加にあたっては、事業の性質の違いがあるため、初めに放課後子ども教室とはどのような事業であるかということや児童クラブとのルールの違いについての説明を保護者と児童に行い、放課後子ども教室参加時の注意事項等を記載する参加のしおりを配布し、周知を行っている。



【上手に竹馬乗れるかな？】

成果・今後の展望

- 校庭では大きな事故や問題もなく、放課後子ども教室と放課後児童クラブの各関係者が、連携して活動している。
- 今後は、放課後子ども教室のスタッフ（子ども育成課職員、コーディネーター、児童サポーター代表）と放課後児童クラブのスタッフ（子ども育成課職員、放課後児童支援員）が出席する、新田小放課後子ども総合プラン連絡会を軸に、細かいあそびのルールの確認、校庭以外での連携の活動場所（校舎内のスペース等）の確保、共通プログラムの実施などについて、話し合いを進めていく。

放課後子供教室（一体型事例）

市町村名	蕨市			
実施教室数 <small>（うち一体型・連携型での実施教室数）</small>	7 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	7 人 182 人
平均年間開催日数	32 日			

【活動事例の紹介】

教室名	中央東小学校区放課後子ども教室				
登録児童数	92 人	登録 スタッフ数	23 人	児童クラブ 連携状況	一体型
開催日	毎週月曜日 <small>（うち一体型）</small>	年間開催日数	32 日 <small>（うち一体型）</small>	平均参加者数	90 人 <small>（うち児童クラブ参加者）</small>
	同上		同上		40 人

一体型で実施の取組内容

（1）実施内容

子供たちの自由な遊びと学びを支援するために、施設の使用については学校と調整、体験活動については、スタッフ会議で話し合っている。留守家庭児童指導室のスタッフとは、毎回、スタッフが出欠席等の打ち合わせを行ったり、情報交換をしたりしている。

○時間：授業終了後から17時まで（冬季は16時30分）

○活動場所：一時的余裕教室、体育館、校庭等

○主な活動：スポーツ活動（ドッジボール・キンボール等）、文化活動（万華鏡づくり・押し花・昔の遊び等）、季節ごとの行事を実施、その他PTAまつりに参加

○協力団体：小学校、PTA、町会、コミュニティ委員、民生委員児童委員等

（2）当日の様子

授業終了後、体育館に集合して自由遊びをしながら始まりの会を待つ。その後、宿題をする部屋（一時的余裕教室や図書室）に移動して学習活動を行い、体験活動や自由遊びに移る。それが終わると、体育館で終わりの会を行う。留守家庭児童指導室の入室の有無に関わらず、子供同士は学校生活の延長で楽しく遊んでいる様子が見られる。

留守家庭児童指導室に入室している児童は、スタッフが2か所の施設に送り届ける。その際、スタッフから留守家庭児童指導室のスタッフに申し送りを行う。特に、ケガをした時などはメモを渡し、保護者に渡してもらうようお願いをする。その他の児童は、荷物を持ち昇降口で班ごとに保護者等の迎えを待つ。保護者は、児童の名札と引き換えることで、迎えに来たことがわかるシステムにすることで、コミュニケーションを図る機会としている。



【紙コップけん玉大会】

実施までの流れ・ポイント

開設当初は、留守家庭児童指導室との連携を図ることが難しいこともあったが、放課後子ども教室のスタッフが頻繁に足を運ぶことで良好な関係を築くことができた。開設10年を迎え、お互いの活動趣旨を理解し、連携を図ることができている。課題としては、ケガをした場合など、留守家庭児童指導室に入室している保護者と連絡が取りにくいことが挙げられる。スタッフは自宅に帰宅後も保護者に入電したり、メールをしたり連絡を入れることもある。



【自由工作（タイル貼り）】

成果・今後の展望

保護者に対して、毎月、活動の様子がわかる写真や予定を掲載した「放課後だより」を発行している。保護者からは、お迎えが必須のため高学年になると参加しにくいとの声をいただいている。年度初めは、一人で留守家庭児童指導室に行ってしまうこともあったので、今度、低学年でもわかりやすいシステムを構築していきたいと考えている。

放課後子供教室（一体型事例）

市町村名	戸田市			
実施教室数 (うち一体型・連携型での実施教室数)	12 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	12 人 188 人
平均年間開催日数	24 日			

【活動事例の紹介】

教室名	新曽北小学校放課後子ども教室				
登録児童数	148 人	登録 スタッフ数	38 人	児童クラブ 連携状況	一体型
開催日	月2回 (うち一体型) 同上	年間開催日数	22 日 (うち一体型) 同上	平均参加者数	55 人 (うち児童クラブ参加者) 14 人

一体型で実施の取組内容

(1) 一体型での実施方法

放課後子供教室事業を小学校の体育館や空き教室、放課後児童クラブ事業を学校敷地内に設置した学童保育室で実施しており、学童保育室入室児童も登録をすれば放課後子ども教室へ参加できる。放課後子ども教室開催日は、学童保育室入室児童も直接放課後子ども教室の活動場所に行き、参加するが、活動終了後は学童保育室の指導員が活動場所まで入室児童を迎えに行くことで、安全に移動できるように連携している。

(2) 実施内容

新曽北小学校では、1年生と2～6年生で開催日を分けて、それぞれ月1回ずつ開催しており、コーディネーターを中心に毎月様々な活動を行っている。

通常の開催日では、活動内容により参加児童が自由に活動場所を選べるようにしており、その中の特色のある活動の一つとして、「絵手紙教室」を実施した。

(3) 当日の様子

12月に開催したため、絵手紙のテーマを、季節感があり、児童に親しみのある「サンタクロース」とし、見本の人形を各テーブルに置いた。

参加児童は、講師の説明をしっかりと聞き、その人形を見ながら、下書きから彩色、文字入れまで真剣に取り組み、絵手紙を仕上げている。

実施までの流れ・ポイント

- スタッフから他の活動で絵手紙教室を開催している講師の紹介があり、コーディネーターからの声かけで実施に至った。
- 活動場所となる空き教室のスペース等の関係もあり、事前に3つのグループに振り分け、グループ毎の交代制とすることで、より多くの児童が参加できるようにした。
- 低学年の児童が多かったが、テーブルごとに講師を付けたため、参加児童一人ひとりに丁寧に説明・サポートを行え、無事に作品を完成させることができた。また、講師以外のスタッフで分担して、絵の具の交換や用紙の補給を行ったためスムーズに次のグループに移行できた。



【絵手紙制作中の様子】

成果・今後の展望

- 講師のきめ細やかな指導により、世界で一枚だけの絵手紙が完成し、完成後は絵手紙を参加児童同士で楽しそうに見せ合ったり、講師からの講評をもらったりしていた。
- 初めて絵手紙作りを体験した児童も多く、絵と短い文章で表現し、伝えることの楽しさを感じていたようだった。
- スタッフからも、新しい活動を取り入れることで、児童が興味を持って取り組み、また完成した物があると、児童が保護者に見せることもできるので、より達成感のある良い活動となったと好評だった。
- 今後、他校においても様々な体験ができる機会を作れるよう、コーディネーター会議等で情報共有し、地域住民との協働による活動を広めていきたい。

放課後子供教室（一体型事例）

市町村名	和光市				
実施教室数（毎日型）	3 教室	実施教室数（非毎日型）	9 教室		
（うち一体型・連携型実施での教室数）	3 教室	（うち一体型・連携型実施での教室数）	9 教室		
平均年間開催日数	（毎日型）	219 日	登録	コーディネーター数	8 人
	（非毎日型）	24 日	スタッフ数	ボランティア数	424 人

【活動事例の紹介】

教室名	北原小学校わこうっこクラブ（毎日型）				
登録児童数	273 人	登録スタッフ数	17 人	児童クラブ連携状況	一体型
開催日	給食のある平日	年間開催日数	143 日	平均参加者数	29 人
	長期休業日の平日 （うち一体型）		（うち一体型）		（うち児童クラブ参加者）
	同上		同上		11 人

一体型で実施の取組内容

（1）活動内容

毎日開催型の子ども教室として、北原小学校では平成 29 年 5 月に開設した。給食のある放課後に学習や室内遊び・外遊び等を行っている。また、月に 2～3 回のペースで工作教室やスポーツ教室等のプログラムを実施している。

（2）児童クラブとの関わり（以下の 2 つのケースがある）

① 児童クラブからわこうっこクラブへの参加

プログラムの有無に関わらず、児童クラブからの参加を受け入れている。

② 児童クラブとわこうっこクラブのスペースの共有

児童クラブが校庭の一角に立地しているため、児童クラブからわこうっこクラブに参加しなくても、双方の児童が自由遊びの時間に校庭で共に遊ぶことができる。

（3）当日の様子

授業の妨げにならないよう、6 時間目終了までは室内で過ごしているが、児童は外遊びの時間になるのが待ち遠しい様子である。ドッジボールが人気で、異学年の児童が一緒に遊ぶ機会となっている。またプログラム以外にも、スタッフが得意とする吹き矢や読み聞かせ等も児童に人気があり、スタッフが児童に囲まれながら遊びを教え、和やかに過ごしている。



【元気に外遊び】

実施までの流れ・ポイント

- 一般の児童は、わこうっこクラブの参加カードに保護者が押印をして参加する。
- 児童クラブ児童は、参加のパターンは次の 2 通りとしている。
 - a) 児童クラブに登所してからわこうっこクラブに参加して、終了後に児童クラブに戻る
 - b) わこうっこクラブに直接参加して、わこうっこクラブから帰宅する
- また、児童クラブからわこうっこクラブに参加する場合の主なルールとして、
 - ・保護者は、前日までに参加日と児童クラブ登所の有無を児童クラブに連絡する。
 - ・児童クラブは、参加カードに確認印を押し、わこうっこクラブに送り出す。（上記 a の場合）
- 校庭等で児童クラブと活動スペースを共有する際は、それぞれのスタッフ間で、見守りのあり方や光化学スモッグへの対応等、随時調整しながら進めている。
- 年 2 回開催する子ども教室実行委員会に、児童クラブの主任支援員も出席しており、わこうっこクラブでの過ごし方や課題等について協議している。

成果・今後の展望

- 参加した児童の声として「校庭や体育館で遊べる」「宿題を済ますことができる」といったメリットが多く聞かれた。（平成 29 年 9 月実施アンケートより）
- 児童クラブからの参加が多い日には、児童クラブ支援員の協力を希望する声がスタッフからあがっている。
- わこうっこクラブを平成 32 年度までに市内全 9 小学校に設置予定である。現時点では、児童クラブとは異なる事業として、双方歩み寄りながら実施していく方向である。

放課後子供教室（一体型事例）

市町村名	新座市			
実施教室数 (うち一体型・連携型での実施教室数)	9 教室 9 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	20 人 165 人
平均年間開催日数	219 日			

【活動事例の紹介】

教室名	新座市子どもの放課後居場所づくり事業（大和田ココフレンド）				
登録児童数	491 人	登録 スタッフ数	22 人	児童クラブ 連携状況	一体型
開催日	月～金 (うち一体型) 同上	年間開催日数	190 日 (うち一体型) 同上	平均参加者数	55 人 (うち児童クラブ参加者) 5 人

一体型で実施の取組内容

- 実行委員会（各学校学期に1回程度開催）や各実行委員会の代表者等で構成される運営委員会（年3回開催）において、情報・意見交換を行っている。このほか日々の活動中に学校や放課後児童保育室と情報交換をし、配慮が必要な児童に連携して対応するようにしている。
- 市内にある十文字学園女子大学の協力により、ココフレンドの児童と放課後児童保育室の児童合同で、フライングディスクを使った「アルティメット」というニュースポーツを実施した。学生には授業の一環として、ルール説明や審判等で携わっていただいた。（1～3年生の児童 計80名、大学生12名が参加）

実施までの流れ・ポイント

（1）日々の取組

- 平成29年6月から開室し、給食のある日の放課後から午後5時まで毎日活動している。夏休み等の長期休業日は、午前8時45分～午後4時45分（冬季のみ午後4時30分）まで活動している。
- 前半は学習時間、後半は自由時間と、活動にリズムを付けている。
- 地域のボランティアスタッフで見守りを行い、スタッフの得意分野を生かして、読み聞かせやぶんぶんゴマづくり、どんぐり工作などを取り入れた。

（2）長期休業日の取組

- 長期休業日は、各自昼食用の弁当を持参すれば一日を通して参加できるようにした。
- 一日の開室時間が長いので、午前、午後とも学習時間、自由時間を設けたり、イベントを取り入れることにより、活動に変化を持たせた。



【学習の様子】

成果・今後の展望

（1）日々の取組

- 保護者が仕事がある場合や、PTA等の活動の際の児童の居場所にもなっている。
- 児童が学年や学級を越えて人間関係をつくるようになってきた。
- 地域でもスタッフと児童が顔を合わせると声をかけるなど、つながりが深まってきた。

（2）長期休業日の取組

- 夏季休業日の午後は、外部委託により学生スタッフを配置した。学生スタッフは児童との年齢が近く、なじみやすいという良さがあった。一方、学生が活動に慣れるまでに時間がかかった。委託会社によるイベントは、ボランティアスタッフだけではできないものもあり、活動に変化を付けることができた。

放課後子供教室（一体型事例）

市町村名	桶川市			
実施教室数 (うち一体型・連携型での実施教室数)	7 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	15 人 115 人
平均年間開催日数	141 日			

【活動事例の紹介】

教室名	桶川小学校放課後子供教室				
登録児童数	45 人	登録 スタッフ数	24 人	児童クラブ 連携状況	一体型
開催日	月曜日～金曜日 (平常授業で給 食がある日) (うち一体型) 定期イベント時	年間開催日数	157 日 (うち一体型) 8 日	平均参加者数	21 人 (うち児童クラブ参加者) 5 人

一体型で実施の取組内容

(1) 実施内容

- ・ 月1回の合同プログラムの実施を目標に連携を行っている。
- ・ 写真は「校庭で遊ぼう！」と「みんなで歌おう！」という内容で合同プログラムを実施した日の様子である。

(2) 当日の様子

- ・ 「校庭で遊ぼう！」は放課後児童クラブの子供が3名参加した。校庭でのびのびと大縄跳びやゲームを行った。
- ・ 「みんなで歌おう！」は放課後児童クラブの子供が4名参加した。スタッフも混ざり、仲良く合唱をした。
- ・ 合同プログラムでは、いつも放課後子供教室の子供と放課後児童クラブの子供は仲良く、楽しく活動している。



【校庭で遊ぼう！】

実施までの流れ・ポイント

- 4月から5月の間に1度、放課後子供教室のコーディネーター、放課後児童クラブの支援員及び各担当職員で打ち合わせを行い、1年間の連携がスムーズに進むように調整している。また、全員で共通認識を持つために、毎年必ずケガや事故時の対応方法の確認を行っている。
- 合同プログラムで実施する内容は放課後子供教室のコーディネーターが企画し、放課後児童クラブの支援員と相談してから決定している。
- 合同プログラムを実施する1ヶ月前頃に、放課後児童クラブの活動場所にプログラムの内容を掲示してもらい、参加を希望する子供の保護者に申込書を記入してもらおう。その後、放課後子供教室のコーディネーターが取りまとめ、当日の連携がスムーズに進むよう、調整を行う。
- 合同プログラムを実施する日は、放課後子供教室のスタッフが参加する子供を放課後児童クラブへ迎えに行き、終わり次第、放課後児童クラブへ送っていき、安全面の確保を行い、混乱を招かないようにしている。



【みんなで歌おう！】

成果・今後の展望

- 参加した子供や保護者からは、「普段はできないことができよかった。」という声もあり、スタッフも達成感を感じた。
- 今後も合同プログラムの実施を増やし、参加者が増えるように工夫をしていく。

放課後子供教室（一体型事例）

市町村名	北本市			
実施教室数 (うち一体型・連携型での実施教室数)	8 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	19 人 178 人
平均年間開催日数	153 日			

【活動事例の紹介】

教室名	東小放課後子ども教室				
登録児童数	46 人	登録 スタッフ数	20 人	児童クラブ 連携状況	一体型
開催日	平日	年間開催日数	156 日	平均参加者数	25 人
	(うち一体型) 学期に1回		(うち一体型) 3 日		(うち児童クラブ参加者) 11 人

一体型で実施の取組内容

- 北本市の放課後子ども教室と学童保育室は同一の小学校の敷地内に設置しており全ての小学校でそれぞれ一体型の共通プログラムを実施している。また、内容や準備などについては、打合せの上、児童の興味・関心の高いものや学童保育室の児童が普段経験しない遊びを中心に実施できるよう進めている。
- 放課後子ども教室は全員参加であるが、学童保育室の児童は希望者が参加するかたちで実施している。1回目の7月13日に放課後子ども教室で「中型郷土カルタ大会」を行い、2回目の11月28日は体育館で「ドッジボール大会」行った。3回目は体育館で2月頃にグループごとに分かれて競う「ホールインワン」「ラダーゲッター」「ディスコン」3種類のゲームを行う予定である。

実施までの流れ・ポイント

6月に「北本市放課後子ども総合プラン」連絡協議会（以下、「連絡協議会」）を開催した。学童保育室の指導員、放課後子ども教室のコーディネーター、福祉部子ども課と教育部生涯学習課の計46名が出席し、本年度の計画として学期に1回程度の共通プログラムを実施することを目標として設定した。

その後、各小学校に分かれ、「北本市放課後子ども総合プラン」の方針確認や申込用紙のチラシ作り、保護者や児童への周知、学童保育室の参加申込みなどの打合せを行った。12月に第2回連絡協議会を開催し、成果と課題を中心に検証を行い次年度の取組について話し合いを行った。



【中型郷土カルタ大会】



【グループに分かれてゲーム】

成果・今後の展望

- 実施回数の経過 H28：1回/年、H29：3回/年、H30：6回/年（予定）
- 共通プログラム実施時は、各事業で加入している保険でそれぞれ対応している。
- 事務局では実施状況や工夫したことなどの調査及び活動状況の参観等を行い活動事例の紹介や各小学校の活動状況を参観し、助言を行っている。
- 1回目の共通プログラムは1年生対象であったが、2回目は学年の対象を1～3年生に広げことで学童保育室からの参加児童が増えたため、共通プログラムへの理解が広がってきた。子供からは「大勢で遊べて楽しかった。」「また、遊びたい。」「気持ちよかった。」等の感想があった。
- 2回目は開始時間が遅れ、子供たちにもう少し活動させようと学童保育室へ時間延長を申し出たが、学童保育室のおやつの時間があるため断念した。学童保育室の参加人数が事前に分かればよりスムーズに活動できたと思う。教室だよりでも知らせてはいるが、保護者も児童も共通プログラムの仕組みをよく理解できていないようだ。他の曜日にも実施し、理解が広がるよう努めたい。学童保育室と放課後子ども教室との一日のスケジュールの違いから時間設定が課題である。スムーズに活動できるようお互いの協力や理解が必要である。

放課後子供教室（一体型事例）

市町村名	狭山市			
実施教室数 (うち一体型・連携型での実施教室数)	※16 教室 9 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	2 人 180 人
平均年間開催日数	12 日			

※連絡会による広域教室を含む。

【活動事例の紹介】

教室名	台小放課後クラブ				
登録児童数	116 人	登録 スタッフ数	16 人	児童クラブ 連携状況	一体型
開催日	毎週月 (5～10月) (うち一体型) 通常開催時	年間開催日数	16 日 (うち一体型) 11 日	平均参加者数	70 人 (うち児童クラブ参加者) 15 人

一体型で実施の取組内容

(1) 実施内容

5月から10月までの毎週月曜日の放課後(下校時～17時)、地域のボランティアや保護者が運営している。校庭や体育館で思いっきり遊べ、違う学年の子とも遊べる放課後教室、通常の教室開催(年11回)の外に、保護者会開催時(年4回)とPTA総会開催時に、児童(1・2年生)の見守り(保育)を行っている。

(2) 当日の様子

一足早く体育館で自由に思いっきり遊んでいるのは1年生。宿題・工作をしている子もいる。全学年揃ったら「始めの会」をして校庭へ一目散、一輪車・野球・サッカー・遊具等でみんな元気に遊ぶ。楽しく遊んだ後は帰り支度をし、「終わりの会」をして、学童保育室の子は学童保育室へ、1・2年生は保護者のお迎えで、3年生以上は教室の下校班で帰宅する。子供たちが帰った後にスタッフの反省会を開催している。

(3) 教室への参加方法

年度当初に募集し、年間の登録メンバーとなる。今年度の登録児童数は全校児童491人中116名(内学童保育室の利用児童は27名)。各回の参加方法は、1年生は給食後、ピロティに集まり、教室スタッフが体育館に連れて来る。2年生以上は各自で体育館へ集合。必ず「参加カード(保護者の承認)」を持参し参加する。教室終了後は、1・2年生は保護者が迎えに来る。3～6年生は下校班と一緒に帰宅する。学童保育室へは教室スタッフが連れて行く。



【ドミノ遊びも人気です】

実施までの流れ・ポイント

- 年度当初に教職員、学童保育室スタッフとの3者で打合せを行い、募集方法、送迎方法、日程等を確認し合う。また、3者は日常的に連絡を取り合っている。
- 教室スタッフは、13時半に校内のPTA室に集合し、遊び道具の点検や備品の準備を行うことから始まり、教室終了後には、毎回、スタッフ会議を開催し、スタッフ全員で情報を共有し、学校や学童保育室と行き違い等がないようにしている。
- 当市は、15の教室の連絡会「狭山市地域子ども教室連絡会 Tie」に事業を委託し、それぞれの教室運営は、スタッフの自主性に任されている面が大きく、必要に応じて、2名のコーディネーターが調整に当たっている。

成果・今後の展望

- 学校の状況の変化や、スタッフの不足等、ボランティア運営の難しさに悩みながら、スタッフ同士がコミュニケーションを図ることを運営の基本に据え、子供たちに寄り添った活動を展開している。狭山台小の中で放課後子供教室は大切な活動として位置づけられており、保護者のボランティアも徐々に増えている。学童保育室スタッフからも、児童が貴重な体験ができると連携の意義が認識されている。今後も、子供たちが地域の大人と関わることの意義を確認しながら、3者で連携し、事業を進めていきたいと考える。

放課後子供教室（一体型事例）

市町村名	入間市			
実施教室数 (うち一体型・連携型での実施教室数)	22 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	5 人 51 人
平均年間開催日数	38 日			

【活動事例の紹介】

教室名	わく☆ドキッ！ ひがしかねこ				
登録児童数	33 人	登録 スタッフ数	2 人	児童クラブ 連携状況	一体型
開催日	毎週金曜日 (うち一体型) 同上	年間開催日数	23 日 (うち一体型) 同上	平均参加者数	20 人 (うち児童クラブ参加者) 10 人

一体型で実施の取組内容

(1) 実施内容

入間市立東金子小学校の教室1室を借り、原則毎週金曜日に子どもたちがリラックスして楽しめる活動や、体験を取り入れて実施している。学期ごとにプログラムを作成し、学校経由でチラシを全校児童に配付し参加者を募集している。4月・9月の募集期間及び長期休業時は実施していない。

(2) 当日の様子

地元の狭山茶業者関係者6人が教育活動推進員となり、「お茶をおいしく入れてみよう！」と題し、入間市特産の狭山茶の話やお茶の入れ方についての体験事業を実施した。4人ずつが班になり、2人ずつ入れて飲んだ。その後お茶ようかんをいただきながら、お茶の効用についての話をした。



【お茶をおいしく入れてみよう！】

第5「放課後子供教室推進事業」
の実践事例（実施市町の取組）

実施までの流れ・ポイント

- 放課後児童クラブへは、参加児童が決定後に参加者名簿を渡し、情報共有している。
- 学識経験者等から成る放課後子ども教室事業運営協議会委員を通じて、狭山茶に関する事業を実現することができた。
- 帰りの際は保護者のお迎えをお願いしている。放課後児童クラブ参加児童については、スタッフが放課後児童クラブへ送っている。
- 年に一度振り返る場として、学校長・教頭、放課後児童クラブ、放課後子ども教室の3者で話し合う場を設けている。

成果・今後の展望

- 参加児童からは、「家で飲むお茶より濃い」「おいしい」「温度が熱くない」などの感想があり、狭山茶の良さを感じていた。
- 放課後児童クラブ参加予定児童が放課後子ども教室に参加している際に途中で体調が悪くなった場合等、細かい対応を調整していく必要がある。
- 来年度以降も、地域に根差した様々な体験事業を提供していきたい。



【お茶をおいしく入れてみよう！】

放課後子供教室（一体型事例）

市町村名	富士見市			
実施教室数 (うち一体型・連携型での実施教室数)	11 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	14 人 107 人
平均年間開催日数	19 日			

【活動事例の紹介】

教室名	かつせらんど（勝瀬小学校区）				
登録児童数	180 人	登録 スタッフ数	16 人	児童クラブ 連携状況	一体型
開催日	毎週月・火・ 金曜日 (うち一体型) 同上	年間開催日数	87 日 (うち一体型) 同上	平均参加者数	36 人 (うち児童クラブ参加者) 3 人

一体型で実施の取組内容

勝瀬小学校運営支援者会議を組織し、学校運営の支援や家庭学習支援、地域活動と連携、防災教育活動、学校応援団・子供教室（かつせらんど・ミニかつせらんど）を一体的に行っている。

《子供教室のおもな取組》

- かつせらんど（子供教室）：放課後居場所づくり毎月1回と体験教室を年2～4回実施

- *対象児童：全児童のうち登録希望者（放課後児童クラブも含む）と参観家庭の兄弟
- *活動日：月曜日・低学年の参観懇談会開催日に開催
- *活動場所：体育館・校庭・図書室等
- *主な活動：自由遊び・読書・自学
- *体験教室：名栗げんきプラザの野外活動体験、大宮アルディージャサッカー教室の実施
- *その他：放課後児童クラブと連携協力し、学校全体で見守り

- ミニかつせらんど（子供教室）：居場所づくりにおける家庭学習支援

- *対象児童：かつせらんど登録の希望者（各曜日20名程度）
- *活動日：毎週月・火・金 週3回 年間100日以上
- *活動場所：学習室・図書室
- *主な活動：学習支援（自習）・家庭学習支援、読書や読み聞かせ、常設の居場所づくり
- *その他：埼玉県家庭教育/家庭学習アドバイザーを複数配置し放課後の学習支援を実施



【室内遊びの風景】



【ミニかつせらんどの様子】

実施までの流れ・ポイント

- 学校運営支援者会議（年4回）は、学校行事や地域行事の子供教室の調整を行い、個々の活動の関係者で協議する。出来る限り少ない会議回数で実施して学校・家庭・地域の連絡調整と共有を図っている。毎活動終了時に次回活動の連絡調整の打合せを実施している。
- 関わっている方々は、教職員やPTA・各地域ボランティア・児童クラブ指導員・自治会役員・民児委員・消防団員・スクールガードリーダー・本校卒業の中高生ボランティアなど。
- 学校応援団・子供教室・放課後児童クラブや地域活動事業など、行政施策は別々の取組であるが、学校・家庭・地域の連携を深めて皆で協力する気持ちから一元化で連携を図る。
- コーディネーターを3名にして、総括のコーディネーターと学校応援団・子供教室コーディネーターを配置して、それぞれの活動のサポートや相互連携を図れるようにしている。

成果・今後の展望

- 子どもの遊びの幅が広がったこと、学校では学べない体験教室。家庭学習支援活動により学習意欲の向上となった。（保護者）
- 一目でわかる開かれた学校になってきた。学校の存在が身近。地域の方々に支えられ安心感も増え子供の学びになっている。（保護者）
- 家庭の教育力も高まり、地域のコミュニティーの良さを感じ、安心して学校運営をでき、地域の方々が関わり教育活動が充実。（学校）
- 今後は、誰もができる「コーディネーター」を増やし、学校・家庭・地域連携の充実を図る。

放課後子供教室（一体型事例）

市町村名	日高市			
実施教室数 (うち一体型・連携型での実施教室数)	6 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	10 人 0 人
平均年間開催日数	10 日			

【活動事例の紹介】

教室名	高萩小学校区放課後子供教室				
登録児童数	120 人	登録 スタッフ数	32 人	児童クラブ 連携状況	一体型
開催日	月1回 (うち一体型)	年間開催日数	9 日 (うち一体型)	平均参加者数	110 人 (うち児童クラブ参加者)
	同上		同上		18 人

一体型で実施の取組内容

(1) 実施内容

6月から3月までの間、夏休みを除き月1回のペースで実施した。全ての回において、学童保育室に通う児童も参加した。

(2) 当日の様子

今年度、学童保育室からの参加児童は18名で、初回の名札作りから始まり、途中インフルエンザ流行の影響により中止した教室があったものの、毎回、実行委員が試行錯誤の用意したテーマで、工作や体験を楽しんだ。

7月に行った教室では工作をテーマに日本の伝統であるうちわ作りを楽しんだ。児童は、自由な発想の下、皆思い思いの絵をうちわに描きこみ、自分の作ったうちわで涼を感じていた。

また、10月には市のオリジナルである「ひだか郷土かるた」を使ったかるた大会で盛り上がった。このかるたには、日高市の歴史文化や観光名所が描かれており、楽しみながら学習することが出来た。



【“オリジナルうちわをつくろう”の様子】



【“郷土かるたをたのしもう”の様子】

第5「放課後子供教室推進事業」
の実践事例（実施市町の取組）

実施までの流れ・ポイント

学童保育室には、事前に教室スケジュールや内容など伝えるとともに、教室当日の児童の行動などについて打ち合わせを行い、学童保育室に通う児童も円滑に参加できるように調整した。

保護者に対しては、教室の参加申込時に、学童保育室登録の有無と、教室当日における児童引き渡し方法などを確認し、教室当日、児童が安心して参加できるように配慮した。

これらの調整に基づき、放課後子供教室当日、学童保育室に通う児童は、学校の授業終了後、まずはそのまま放課後子供教室に参加し、教室終了後には、迎えに来た学童保育室の指導員とともに学童保育室へ向かった。

成果・今後の展望

参加した児童からは「楽しかった」などの感想や、「次はこんなことをやってみたい」などのリクエストの声も聞かれた。

また、児童と一緒に活動するスタッフの姿にも笑顔が見られ、世代間の交流の場としても、有益な教室となった。

参加を希望する児童数からすると、まだまだスタッフが不足している感があり、登録数を増やすことが急務となっている。保護者への呼びかけはもとより、地域への情報発信を効果的に行い、地域全体で支える教室を目指していきたいと考えている。

放課後子供教室（一体型事例）

市町村名	毛呂山町			
実施教室数 (うち一体型・連携型での実施教室数)	2 教室 1 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	2 人 12 人
平均年間開催日数	32 日			

【活動事例の紹介】

教室名	木曜のあそびクラブ				
登録児童数	40 人	登録 スタッフ数	7 人	児童クラブ 連携状況	一体型
開催日	木曜日 (うち一体型)	年間開催日数	32 日 (うち一体型)	平均参加者数	40 人 (うち児童クラブ参加者)
	同上		同上		8 人

一体型で実施の取組内容

(1) 実施内容

木曜のあそびクラブは、町立図書館の視聴覚教室を拠点に活動を行っている。8月の夏休み期間を除き、概ね月3回程度開催している。学年による下校時間の差を利用した個人活動と全員が揃ってから行う全体活動にプログラムを分けている。

木曜のあそびクラブは、日頃の活動拠点を図書館に置いており、図書館の利用方法やルールを低学年のうちから学び、図書館ボランティアの協力を得て、紙芝居・お話の読み聞かせ等活動場所の利点を活かし、本に親しむ下地が作られていく。また、至近に位置する毛呂山小学校の協力により、体育館で思い切り体を使う運動の日を設けている。

(2) 当日の様子

木曜のあそびクラブには、毛呂山小学校の空き教室で活動する岩井学童保育所の児童8名が登録している。

登録した児童は、木曜日はあそびクラブ、他の曜日は学童保育所の活動に参加している。

子ども教室と学童保育所が共通のプログラムを設けるのではなく、学童保育所の児童のうち希望者が木曜のあそびクラブに参加している。



【体育館での活動のようす】

異年齢の児童と一緒に自由に遊ぶ

実施までの流れ・ポイント

放課後子ども教室への登録は、学童保育所を介すことなく、直接参加児童及び保護者の希望に委ねている。学童保育所と放課後子ども教室の活動場所が至近にあることが、保護者の意向を反映しやすくしている。

成果・今後の展望

教室の活動プログラムに、個人活動と全体活動の時間を採用していることから、時間の切り替え、区切りがはっきりしており、参加児童は、一連の活動の中で自由と規律を体感していく。

保護者からは、「異学年との交流が良い体験になっている」「地域のスタッフの参画に安心感がある」「体育館の遊びは大勢の子どもと交流が図れて良い」「子ども自身で自分のことを考え、決められるようになった」等の感想があった。また、参加した児童は、「楽しかった」「また参加したい」との声があった。

「木曜のあそびクラブ」の活動は、保護者の感想にもあるように、放課後子ども教室の「安心安全な放課後の子どもの居場所」という趣旨に適っており、内容についても、拠点の利点を十分活かしたものとなっている。これは指導者の優れた指導力に拠るところが大きいといえる。

今後、少子高齢化が急激に進むことを考えると、あらゆる地域活動の拠点に学校を位置づけ、関連施設を有効に利用しながら、文化活動やスポーツ分野等に取り組む地域の多くの人材の参画を得て事業展開されることが求められる。

放課後子供教室（一体型事例）

市町村名	熊谷市			
実施教室数 <small>（うち一体型・連携型での実施教室数）</small>	29 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	29 人 3150 人
平均年間開催日数	18 日			

【活動事例の紹介】

教室名	東小ふれあいスクール				
登録児童数	635 人	登録 スタッフ数	11 人	児童クラブ 連携状況	一体型
開催日	定期イベント時 <small>（うち一体型）</small> 同上	年間開催日数	6 日 <small>（うち一体型）</small> 同上	平均参加者数	100 人 <small>（うち児童クラブ参加者）</small> 20 人

一体型で実施の取組内容

（1）実施内容

- ① 親子ドッジボール大会の開催。低学年の親子を中心に1回開催。
- ② 熊谷女子高等学校ラクロス部の生徒による学習支援。補充学習「ステップアップタイム」での学習支援。年間10回開催のうち夏季休業日中の3回における学習支援。
- ③ 熊谷女子高等学校水泳部の生徒による学習支援。夏期休業中の2日間（1回2時間）行われる「水泳教室」（水泳の苦手な3年生以上の児童）における水泳指導補助。

（2）当日の様子

- ① おやじの会の協力によりボールの投げ方や取り方を教えてもらいゲームを行った。親子での参加者が多く、前半は親子での練習や友達親子と一緒に練習をした。後半はいろいろなチームをつくってたくさんゲームをして楽しんだ。
- ② 学習支援の生徒を6学年に分け、丸付けやつまみのある児童への個別の支援をもらった。児童たちも分かるまで教えてもらい満足そうであった。
- ③ 水泳の苦手な3年生以上の児童を対象に開催した水泳教室で、体を水に浮かせるコツや泳ぎ方のポイントの手本を見せながら教えてもらった。児童は、手を取り、声をかけてもらって練習し、泳力を伸ばすことができた。

実施までの流れ・ポイント

- ドッジボール大会では、入学間もない1・2年生の親子に呼びかけて実施した。休日の学校施設を利用して親子・教職員・放課後子供教室運営委員がスポーツを通じて交流し、親睦を図ることを目指して企画したものである。参加者の親睦が深まり、大好評であった。
- 熊谷女子高等学校は熊谷東小学校の隣にある。ラクロス部は、熊谷東小学校の運動場で放課後に部活動を行っている。また、熊谷女子高等学校は、将来、教員になることを希望している生徒が多くいる。そこで、ステップアップタイムではラクロス部、水泳教室では水泳部の生徒に学習支援者としての協力を依頼した。

成果・今後の展望

- 今年度からおやじの会を中心に親子ドッジボール大会を活動に加えた。休日に学校の体育館で友達の親子と一緒にスポーツをすることで親睦が深まったり、体力の向上に繋がったりと良い結果が表れた。今後は全学年が参加できるように複数回開催できるようにしていく。
- 熊谷女子高等学校の生徒の協力により、児童はステップアップタイム時に支援者と一対一に近い状態で学習することができた。そのため、一人一人のつまみに応じた学習支援が充実し、児童も楽しみながら学習をすることができた。漢字や計算力等、国語・算数における基礎的・基本的な学力の向上が図れた。水泳教室では、高校生の泳ぎの手本や一人一人の泳力に応じた支援により、多くの児童の泳力向上に繋がった。
- 課題としては、学校がすべての窓口になっているため開催に際しての学校側の負担が大きくなっている。今後はコーディネーターを中心とした運営体制を整えていく必要がある。



【親子ドッジボール大会の様子】



【ステップアップタイムの様子】



【水泳教室の様子】

放課後子供教室（一体型事例）

市町村名	上里町			
実施教室数 (うち一体型・連携型での実施教室数)	5 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	10 人 50 人
平均年間開催日数	50 日			

【活動事例の紹介】

教室名	上里町放課後子供教室 上里東小学校のびっこ教室				
登録児童数	40 人	登録 スタッフ数	15 人	児童クラブ 連携状況	一体型
開催日 (うち一体型)	毎週火・金 1年に1日	年間開催日数	45 日 (うち一体型)	平均参加者数	35 人 (うち児童クラブ参加者)
			1 日		64 人

一体型で実施の取組内容

(1) 実施内容

上里町放課後子供教室（上里東小学校のびっこ教室）は、放課後の空き教室等を利用し、週2日間、子供達が放課後に、異年齢の仲間と安全かつ安心して学習や体験活動、様々な遊び等を通して、異年齢交流を図れる居場所づくりを実施している。

上里町放課後児童クラブとの一体型事業は、1年に1日設け、実施する。放課後子供教室（のびっこ教室）の日々のプログラムである、体育館での活動に上里町放課後児童クラブ生に参加を促し一体型事業とした。一体型事業当日は、レクリエーションの講師を招き、体育館でのレクリエーションを行った。



【放課後子供教室・児童クラブ一体型事業体育館でのレクリエーション(のびっこたいむ)の様子】

(2) 当日の様子

当日は、上里町放課後子供児童クラブ生が約60名参加し、総勢100名での事業を行った。集団ゲーム等を中心に行い、参加した生徒はもちろん、スタッフ同士の交流も生まれた。

実施までの流れ・ポイント

- 年度当初に、放課後児童クラブ担当課と、今年度の一体型事業の趣旨、方向性を確認。
- 詳細、日時、場所等について、打合せを行う。
- 上里町放課後子供教室、上里町放課後児童クラブ、両担当課の事業運営の負担にならないこと、来年度以降、継続可能な事業運営をすることを重要視し、事業計画の立案を行った。

成果・今後の展望

放課後子供教室では、毎年、スタッフの方々にアンケートを実施している。一体型事業についても、もっと実施していくべきだとの意見が多く見受けられた。

見学に来ていた保護者からも、一体感を感じて、とても子供達が楽しそうだ、との意見も聞かれた。

両担当課の、事業運営の負担にならないことを念頭に、事業を実施したことにより、来年度以降もスムーズに継続可能な事業として実施していきたいと考える。

上里町放課後子供教室と上里町放課後児童クラブでは、平成30年度までに町内全ての学校で一体型事業を実施する計画であった。今年度、全ての小学校において、一体型事業を実施できたことにより、今後、どのように、継続可能な事業にしていくか、内容を充実させていくか、担当課間で協議調整を積極的に行っていきたいと考える。

放課後子供教室（一体型事例）

市町村名	春日部市			
実施教室数 (うち一体型・連携型での実施教室数)	18 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	22 人 0 人
平均年間開催日数	7 日			

【活動事例の紹介】

教室名	桜っ子アフタースクール（桜川放課後子ども教室）				
登録児童数	200 人	登録 スタッフ数	18 人	児童クラブ 連携状況	一体型
開催日	月曜日 (うち一体型) 同上	年間開催日数	4 日 (うち一体型) 同上	平均参加者数	185 人 (うち児童クラブ参加者) 34 人

一体型で実施の取組内容

文化系8講座、運動系3講座の計11種もの講座が、4日間にわたって対象学年毎、または定員を設けて実施している。1日のみの参加も可能であり、都合に合わせて参加しやすいカリキュラム構成となっている。バルーンアート、生け花、昔遊び、科学、茶道、陶芸など日常では経験することが難しい体験ができるものから、算数など苦手教科の克服につながる学習教室まで多岐にわたっており、毎年多数の参加希望がある。

放課後児童クラブに所属している児童も多数参加しているが、放課後子ども教室終了後には、スタッフが放課後児童クラブまで送ることで、確実に引渡できるよう徹底している。



【生け花教室】

実施までの流れ・ポイント

放課後に、地域のみなさまを講師としてお迎えし、子供達に様々な体験と交流をしてもらおうという活動であるが、それに加えて、お手伝い下さる保護者や学校の先生方、地元大学の学生等ともあたたかい交流ができています。

毎年、開講前には講師を含め関係者全員で実行委員会を開催し、終了後にも同メンバーにて反省会も行っている。そのため、スタッフ全員共通認識のもと、万全を期して児童を受け入れている。



【昔遊び】

成果・今後の展望

参加児童からは、楽しかったはもちろん、ためになった、普段できない体験ができたとうれしい感想が多数寄せられている。講師やスタッフからも、子供の笑顔を見ることができてよかった、これからも協力したいなど好意的な感想が多く、子供達と地域の交流という大きな目的を果たしていると実感している。

児童の安全を第一に考え、放課後子ども教室終了後は、保護者のお迎えを義務としているが、それに伴う学校近隣の渋滞や、指定の時間にお迎えに来ない保護者がいることなどが、差し迫った問題点である。校門近くの駐車場の確保や、お迎えについてのルールの周知を徹底し、安全かつスムーズに児童の引渡を完了できるよう努力していく。

放課後子供教室（一体型事例）

市町村名	羽生市			
実施教室数 (うち一体型・連携型での実施教室数)	6 教室 5 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	38 人 0 人
平均年間開催日数	33 日			

【活動事例の紹介】

教室名	手子林小学校放課後子ども教室				
登録児童数	8 人	登録 スタッフ数	5 人	児童クラブ 連携状況	連携型
開催日	毎週月曜日 (うち一体型) 不定期 イベント時	年間開催日数	30 日 (うち一体型) 1 日	平均参加者数	8 人 (うち児童クラブ参加者) 65 人

一体型で実施の取組内容

(1) 実施内容

南羽生学童クラブと手子林小学校放課後子ども教室の共同イベント「お楽しみ会」を実施

(2) 当日の様子

放課後子ども教室の児童（4～6年生）8人と南羽生学童クラブ（1～3年生）65人が参加。会場は、南羽生学童クラブの通称「ロケットの庭」で放課後子ども教室の児童が中心になり、司会進行・遊び・ゲームの説明を行い、スタッフは補助程度で参加した。学童クラブ（低学年）は人数が多いため、8つのグループに分け放課後子ども教室の児童がリーダーとなりグループを良くまとめた。

(3) 内容

はじめのことば（放課後子ども教室の児童）

- 1 ゲーム「人間知恵の輪」
- 2 「ビンゴ大会」
- 3 しっぽとり（鬼ごっこ）
- 4 じゃんけん大会

おわりのことば（放課後子ども教室の児童）



【鬼ごっこ】

実施までの流れ・ポイント

- 活動の2ヶ月前に学童クラブと打ち合わせを行った。
- 保護者への会の案内文を作成し事前に配布した。
- 学童クラブ（低学年）65人と放課後子ども教室（高学年）8人全員で楽しむ「お楽しみ会」にするため、プログラムを考えた。
- 前の週には、児童が中心になり、係や担当を決め、「人間知恵の輪」「ビンゴ」等のリハーサルを行った。あいさつや司会の進行も児童たちで考え、お楽しみ会を自分たちで行うことを自覚した。

成果・今後の展望

- 学童クラブの低学年全員が楽しめる会にするため何回か打ち合わせしたが、その場面でも放課後子ども教室の児童（8人）の積極性、自発性がみられた。
- 会の当日は、8人が司会・進行、説明等も分担して行い、また、各グループのリーダーとして、メンバーをよくまとめた。8人全員の行動を見て、積極性、協調性、自主性など、予想以上に多くの成長を感じることができた。
- スタッフも、児童を温かく見守り良き支援者として対応できた。
- 学童クラブからも「みんなで新しい遊びを教わったり、ゲームをしたり、外遊びをする機会を作ってもらいとても楽しかった」という感想があった。
- 放課後子ども教室の児童も会を成功させることができ達成感を味わった。

放課後子供教室（一体型事例）

市町村名	蓮田市			
実施教室数 (うち一体型・連携型での実施教室数)	4 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	1 人 37 人
平均年間開催日数	73 日			

【活動事例の紹介】

教室名	蓮田市立平野小学校放課後子供教室 (ひらりんきっず)				
登録児童数	34 人	登録 スタッフ数	11 人	児童クラブ 連携状況	一体型
開催日	水・金曜日 (うち一体型)	年間開催日数	27 日 (うち一体型)	平均参加者数	34 人 (うち児童クラブ参加者)
	同上		同上		5 人

一体型で実施の取組内容

(1) 実施内容

教室の前半は、スタッフと宿題や読書、手遊び、ボードゲーム等自由時間を過ごし、後半は、スタッフ手作りのおやつを食べ、体育館へ移動しドッチボールやリレー等をしている。また、季節ごとの行事を行ったり、「お話し会」の先生を招いて季節ごとのお話を聴かせてもらっている。

(2) 活動の様子

放課後児童クラブの子と活動場所が異なるため、教室の児童と放課後児童クラブの児童が共通に過ごす時間はない。放課後児童クラブに入所している児童も教室に参加しているが、18時までに迎えに間に合う家庭がほとんどであるため、教室の後に放課後児童クラブに通所する児童はおらず、まれに放課後児童クラブへ通所する児童がいた場合は、保護者から放課後児童クラブへの通所の付き添いの要望を確認し、児童を送ることになっている。



【各々の自由時間】



【体育館でみんなで遊ぼう！】

第5「放課後子供教室推進事業」
の実践事例（実施市町の取組）

実施までの流れ・ポイント

- 放課後児童クラブの児童の参加にあたっては、保護者から放課後児童クラブに事前に連絡することになっている。
- ケガや事故時には、放課後子供教室で加入している保険で対応している。
- 放課後児童クラブとは、活動場所が異なるため、共通プログラムの実施は、今のところない。

成果・今後の展望

- 児童からは、「体育館でおもいきり先生たちとドッチボールやバドミントンをやるのが楽しみ」や「他の学年の子とも遊べるので楽しい」といった感想があった。
- 保護者からは、「放課後児童クラブに入所していなくても、放課後の安心して子供がみんなで遊べる場所があるので嬉しい。」との声や「放課後児童クラブに行く場合は、放課後子供教室の先生に送ってもらえるので安心。」との声が寄せられた。
- スタッフからは、「集団行動が苦手な児童が異学年の子と交流することで、リーダーシップを発揮し、成長していく姿が見られて嬉しい。」との声や「放課後児童クラブとの連携がもっとできれば。」との声があった。
- 来年度以降の事業継続に向けては、若い人材を探し、活動的な放課後子供教室にしていくこと、放課後児童クラブの指導員と教室のスタッフの情報共有をもっとできるようにしたい。

放課後子供教室（一体型事例）

市町村名	杉戸町			
実施教室数 <small>（うち一体型・連携型での実施教室数）</small>	3 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	12 人 19 人
平均年間開催日数	23 日			

【活動事例の紹介】

教室名	泉小学校放課後子供教室				
登録児童数	24 人	登録 スタッフ数	3 人	児童クラブ 連携状況	一体型
開催日	月曜日 <small>（うち一体型）</small> 年 1 回	年間開催日数	10 日 <small>（うち一体型）</small> 1 日	平均参加者数	24 人 <small>（うち児童クラブ参加者）</small> 4 人

一体型で実施の取組内容

（1）実施内容

町内で放課後子供教室は3校実施しており、そのうち泉小学校放課後子供教室は今年度から開設した。当町において放課後児童クラブとの連携事業は昨年度から実施している。今年度、泉小学校では「フロアカーリング・昔遊び教室」を行った。

フロアカーリングでは、簡易なルールで順番に一人一投ずつ行い、チームでの得点を競った。昔遊び教室では、講師の指導の下、紙ヒコーキ・竹とんぼ等を作り、実際に飛ばすまでを体験した。

（2）当日の様子

昔遊びでは参加した児童たちの遊びに興じる様子が見られ、また、フロアカーリングでも的まで到達した距離で加点する方式をとって、チームの点数を競うこととし、互いを応援するなどのチームの意識ができた。

実施までの流れ・ポイント

- 連携事業を実施することで、事前に放課後児童クラブの担当者との協議を図り、当日、4チームを編成し、2部構成で進行した。昔遊びとフロアカーリングとで、体育館の半面ずつを使い、同時進行することで、役割分担などを協議した。
昔遊びの指導をしてくださる講師を招いて指導していただいたので、放課後児童クラブ支援員と放課後子供教室指導員は、昔遊び、フロアカーリングの進行と各チームの誘導を行い、スムーズな進行ができた。
- チーム編成では、放課後児童クラブ21名、放課後子供教室24名の参加を予定し、混合で、男女、学年が偏らないような配慮をした。



【フロアカーリング】

成果・今後の展望

- 参加した児童からは、「楽しかった」という感想が得られた。
- 2つのプログラムで、時間配分の考慮が必要になるが、今回は片方がゲームでなかったので、調整が図れた。二つのゲームを行う場合、時間の考慮が必要となる。
- 来年度も新たなプログラムを取り入れるなどの工夫をし、交流を図れる機会としたい。

放課後子供教室（一体型事例）

市町村名	松伏町			
実施教室数 (うち一体型・連携型での実施教室数)	1 教室 1 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	1 人 8 人
平均年間開催日数	54 日			

【活動事例の紹介】

教室名	金杉小学校放課後子ども教室				
登録児童数	25 人	登録 スタッフ数	8 人	児童クラブ 連携状況	一体型
開催日	課業日の月木 (うち一体型) 同上	年間開催日数	54 日 (うち一体型) 同上	平均参加者数	22 人 (うち児童クラブ参加者) 3 人

一体型で実施の取組内容

(1) 実施内容

登録制による参加とし、学童クラブ3人、一般参加22人が登録している。

前半は宿題を中心とした学習活動、後半を学校では学習しないスポーツ体験活動を行っている。活動時間については、前半を15:00～15:40、後半を15:50～16:30としている。

(2) 安全配慮

児童の欠席や早退、緊急時の連絡のため、携帯電話を常備し対応している。

(3) 当日の様子

毎回学童クラブからの児童が3人程度参加して、学習活動・体験活動をしている。参加者は、放課後子ども教室に直接来て活動し、後半の活動終了後、学童クラブの児童は校地内の学童クラブに行き、それ以外の児童は保護者の迎えで帰宅している。



【宿題を中心とした学習活動】

第5「放課後子供教室推進事業」
の実践事例（実施市町の取組）

実施までの流れ・ポイント

(1) 協議打合

学童クラブに校庭利用の約束内容を確認し、放課後子ども教室も同様に行っている。特別な支援を要する児童について、学童クラブ指導員に対応を確認し、指導の参考にしている。

(2) 保険

参加児童のけがに対応するため、スポーツ安全保険に加入している。学童クラブの児童はそちらで加入している保険で対応する。

(3) 学校との関係

生徒指導上の課題がある児童の言動について学校と協議し、教頭から児童全員に指導していただいた。



【学校で習わないスポーツ体験】

成果・今後の展望

(1) 参加児童

放課後子ども教室に来るとすぐ宿題に取り組む姿が見られ活動が順調に進んでいる。集中力が続かない児童が周囲の児童の活動の妨げである。

(2) 課題への対応

興味関心を高める活動内容を検討し実施していく。児童への接し方を学校や学童クラブ指導員に伺う。指導スタッフ間で話し合いを進め、統一した対応を行う。

(3) 来年度以降の取組

地域の指導者を招いて、登録していない学童クラブ児童も参加できる活動を計画していく。



【地域の方による体験活動】

放課後子供教室

市町村名	鴻巣市			
実施教室数	13 教室	登録	コーディネーター数	11 人
(うち一体型・連携型での実施教室数)	11 教室	スタッフ数	ボランティア数	280 人
平均年間開催日数	36 日			

【活動事例の紹介】

教室名	田間宮小学校放課後子ども教室			
登録児童数	21 人	登録 スタッフ数	21 人	児童クラブ 連携状況

取組内容

週1回（木曜日）、1・2年生を対象に学習支援の活動を行っている。学習内容は、月1回の「田間宮小学校読み聞かせの会」による活動と宿題（家庭学習）、漢字プリント・算数プリントを行っている。

(1) 事前の準備

スタッフ会議を開催し、指導方法を確認し共通理解を図る。

(2) 当日の活動

活動前に活動場所である家庭科室が適切な学習の場となるよう環境整備をし、その後、スタッフの打合せを行いスムーズな活動ができるようにしている。また、支援スタッフは、常に10名以上となるように調整を図っている。

児童2名に1名の割合でスタッフを配置し、宿題（家庭学習）は、音読・漢字・計算ドリル・かけ算の暗唱などにきめ細かに対応できるようにしている。

(3) 活動後

スタッフ同士で活動の様子について話し合っている。また、活動記録簿に記録し、当日活動に参加していないスタッフにもその日の取組内容や参加した児童の様子を伝えている。



【学習の様子】

工夫した点・ポイント

- 20名中17名のスタッフが教員経験者であり、児童に学習内容を教えることには慣れている。
- 国語・算数プリントの教材は、「埼玉県学力向上ワークシート」を活用し学力の向上を目指している。
- 月1回「読み聞かせ」の時間を設定し、集中力、想像力、知的好奇心を育てることを目指している。

成果・今後の展望

- 学校に全面的に放課後子ども教室の活動に協力していただくことで、教室の確保や用具等の使用が容易となり、初年度にもかかわらず、順調に放課後子ども教室が行われている。
- 「宿題を早くするようになった」「友達が増えた」「教室の先生とあいさつや話をするようになった」等、児童に学習規律が身に付いてきていることを実感している。
- 学習内容を工夫し、「かるたづくり」「問題づくり」などの児童が主体的に学ぶ場の工夫をしている。



【読み聞かせの様子】

市町村名	志木市			
実施教室数 (うち一体型・連携型での実施教室数)	6 教室 6 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	4 人 42 人
平均年間開催日数	150 日			

【活動事例の紹介】

教室名	宗岡りんくす（宗岡地区）・志木りんくす（志木地区）				
登録児童数	285 人	登録 スタッフ数	42 人	児童クラブ 連携状況	一体型

取組内容

志木市の放課後子ども教室は、子供たちの安心・安全な活動拠点の居場所づくりとして、地域の方々の参画を得ながら、宗岡地区と志木地区で、それぞれ特色のある教室を実施している。

【地域性を生かしたそれぞれの取り組み】

- 宗岡りんくす（宗岡地区）年間 50 回開催
「大人の背中を見せて行こう!」を合言葉に大人も子供と同じように全力で子供と遊び・学んでいる。学童保育クラブと連携した取り組みも実施。コーディネーターと学童保育クラブの指導員とで、「みんなで年末お楽しみ会」を企画し、サーキット形式のスポーツ、昔の遊び、プラバン、スティックダーツ等を行い、子供たちにとっては、とても有意義な時間となった。



【学童との連携事業】

- 志木りんくす（志木地区）多世代交流事業を含み年間 250 回開催
多世代交流を重視し、普通の生活体験をプログラムの中に取り入れた「納屋プログラム」「縁側プログラム」「台所プログラム」として、木工や昔遊び、お月見団子づくりなどを実施。多世代の方と一緒に経験し、「暮らしの中の学び」を大切にしている。多世代交流事業で、「うたの会」を月に 2 回実施。「うたの会」の発表会では、志木第四小学校の共同事業として、児童が、授業の一環で鑑賞した。



【木工風景】

工夫した点・ポイント

- 学童保育クラブと連携したイベントを実施。
- 保護者層の参画を引き出すため、子供も大人も一緒に楽しめる事業を展開。
- イベント等の周知を図るため、チラシ・ポスターの作成や通信の発行など、積極的に実施。
- 「暮らしの中の学び」を重視し、子供の体験したいものを提供、実施。
- 身近な地域で草木の散策をし、自然の地図作りためのお散歩事業を展開。
- まちぐるみで子供たちを見守り、本事業を継続するために、地域の大人の力（経験・能力）を引き出すため、保護者及び大人をスタッフとして参画できるよう促している。

成果・今後の展望

放課後子ども教室は、地域の市民団体が運営を担っており、それぞれの地域の特性を生かした形で運営が出来ており、子供たちと地域の方々が、日常的に顔を合わせることで、コミュニティが形成され自然と新たな居場所づくりに繋がっている。子供たちは、両親や学校の先生、習い事の先生とは、一味も二味も違ったぬくもりを体験し、また、さまざまな世代にとっても、生きがいの場となっている。

放課後子供教室

市町村名	所沢市			
実施教室数	11 教室	登録	コーディネーター数	14 人
(うち一休型・連携型での実施教室数)	4 教室	スタッフ数	ボランティア数	111 人
平均年間開催日数	186 日			

【活動事例の紹介】

教室名	所沢市放課後支援事業(松井小学校ほうかごまつい)			
登録児童数	306 人	登録スタッフ数	12 人	児童クラブ連携状況

取組内容

(1) 実施内容

平日(月～金曜日)の給食のある授業日に、授業終了後から16時30分まで活動をしている。子供たちは体育館入口の受付を済ませると、どこで、何をして遊ぶのかを主体的に考え、スタッフの見守りの中で、宿題をしたり異年齢で遊んだり、自分たちでルールを決め、思い切り放課後の生活を満喫している。

(2) 日常の活動場所と内容の紹介

① 校庭

サッカー・野球・砂場遊び・ブランコ・鉄棒・ジャングルジム・のぼり棒・なわとび・鬼ごっこ・フラフープ・バドミントン等元気に遊ぶ。

② 室内運動場(アリーナ)を活用した遊び

手打ち野球・ドッジボール・バスケットボール・紙飛行機飛ばし等、体を思い切り動かし、遊びや試合を行う。

③ 室内運動場(トレーニングルーム)を活用した遊び

なわとび・輪投げ・トランプ・将棋・オセロ・ブロック的あて・ボール遊びなどで遊ぶ。

④ 読書室

宿題の他、読書、折り紙、地図パズル、ぬり絵等で遊ぶ。

⑤ 松井小学校図書室

地域開放型の学校図書館として開館。司書が見守る中、子供たちは読書を楽しむ。

⑥ 多目的室

雨で校庭が使えない時に開放。卓球を行うことができる。



【トレーニングルームでの活動】



【盛況だったトランポリン大会】

工夫した点・ポイント

- トランポリン教室の開催。9月9日(土)に3回に分けて開催。子供たちは99名の参加。土曜日の開催であったが、PTAの環境美化活動の日に合わせて設定したことで保護者も見守る中、大盛況となった。

成果・今後の展望

- ほうかごまついのめざす「遊び」は子供の成長にとって大切なものである。「ほうかごまつい」の子供たちは、放課後に学校の施設を使い、思い切り自由な時間を楽しんでいる。その中で、創造性を養い、異年齢の遊びの中等で思いやりの心も育まれている。
- 松井小学校には、所沢市教育委員会のモデル事業として設立された「学校開放委員会」がある。これは、地域の方たちと学校が一体となり、学校を地域の方に開放する目的で設立されたものである。現在、この委員会に関わる方、PTA、後援会、育成会、民生委員会の方が一体となって、毎日、活動場所の一つである松井小学校図書館の見守りボランティアも行っている。今後も地域が一体となり、子供たちの安心・安全な遊びの場を見守り、子供たちの健やかな成長を支えていく。

市町村名	東松山市			
実施教室数	8 教室	登録	コーディネーター数	8 人
(うち一体型・連携型での実施教室数)	0 教室	スタッフ数	ボランティア数	58 人
平均年間開催日数	58 日			

【活動事例の紹介】

教室名	新宿小学校放課後子ども教室「パステルKids」			
登録児童数	24 人	登録 スタッフ数	9 人	児童クラブ 連携状況

取組内容

(1) 実施内容

- ① サツマイモの栽培と収穫
- ② 外部講師を招いての取組

(2) 準備と工程

- ① サツマイモの栽培と収穫について

教室前の花壇を「サツマイモ畑」として利用し、5月に1人一本ずつ苗の観察を記録してから植える。水やりや除草作業を参加児童で行い、夏休み期間中はスタッフや参加児童保護者の協力を得て管理し、10月の収穫後は関係者を招いて収穫したサツマイモの試食会を実施している。

- ② 外部講師を招いての取組について

毎月1回程度、外部講師を招いて、活動の活性化を図っている。事前に講師との打ち合わせを行い、参加児童が安全に参加できるようスタッフ数を増やすなどの対応をしたうえで、バルーン、室内合奏団、なぎなた教室等、参加児童にとって初めての体験になるようなものを取り入れている。



【サツマイモ収穫時の様子】

工夫した点・ポイント

- ① サツマイモの栽培と収穫について

- ・ サツマイモ畑に、参加児童手作りの立札を設置し、水やりや除草作業なども参加児童が行うことで「自分たちのサツマイモ畑」の意識を持つように工夫している。
- ・ 毎年行っているイベントで、教室サポーターOBや保護者も参加しており、教室の特徴的な活動として定着させている。

- ② 外部講師を招いての取組について

- ・ 外部講師の選定は、他校の情報を参考にして、地域で活躍している方へ依頼をしている。
- ・ 外部講師へのお礼のお手紙（絵と短い文）を毎回送っており、協力をいただいている地域の方々とのつながりが持てるようにしている。

成果・今後の展望

- ① サツマイモの栽培と収穫について

- ・ サツマイモ畑の観察を通して、自発的行動を取り、責任を持って、取り組めるようになった。
- ・ 保護者や学校関係者との関わりを持てる取組となっているため、今後も教室の特徴的な活動としていきたい。

- ② 外部講師を招いての取組について

- ・ 外部講師を招いての活動では、初めての体験を通して、様々な経験をすることが出来ている。なぎなた教室では、礼を重んじる指導に、普段とは違う緊張感を体験した。今後も様々な分野の講師を招き、参加児童の体験の場を作っていきたい。



【なぎなた教室（外部講師）】

放課後子供教室

市町村名	坂戸市			
実施教室数 (うち一体型・連携型での実施教室数)	3 教室 3 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	3 人 53 人
平均年間開催日数	35 日			

【活動事例の紹介】

教室名	クリスマス会（三芳野げんき教室）				
登録児童数	55 人	登録 スタッフ数	17 人	児童クラブ 連携状況	連携型

取組内容

(1) クリスマス飾りの作成

クリスマスツリーの飾りつけを行うとともに、高学年の児童がサンタクロース役をすることで、低学年から高学年まで参加できるプログラムを実施している。

(2) クリスマスプレゼントの配布

サンタクロース役以外の児童が、クリスマスソングを歌い、場の雰囲気盛り上げてから、サンタクロースが体育館内に登場し、プレゼントを配布する。



【クリスマス会の様子】

工夫した点・ポイント

- 季節の行事やイベントについて子どもたちの興味や関心を深めるために、年間を通じ、七夕やクリスマス会などのプログラムを実施している。今回は、その一環としてクリスマス会を企画した。
- 市内の他の2つのげんき教室では、一斉下校となる月曜日にげんき教室を実施しているため、全学年が同時に活動を始め、活動時間は同じである。しかし、三芳野げんき教室では火曜日に実施しているため高学年の活動開始時間が遅く、高学年の活動時間が短い。そのため、全学年が参加するイベントにあたっては、スムーズに進行できるように、開始前のスタッフ会議で、イベントの流れをよく確認するようにしている。

成果・今後の展望

- 普段遊ばない友達と遊べて楽しい、教室のある日が楽しみだという声が多い。子どもたちにとって、他の学年や普段遊ばない友達、地域の大人と接することで、友達や遊びの幅が広がり、思いやりや人間関係を学ぶ良い場所となっている。
- 子どもたちは受付を済ませた後、宿題に取りかかる。遊ぶ時間を長くするために、どの子も熱心に宿題をこなし、スタッフに国語の音読を披露する。
- 竹馬や将棋、オセロなど、今の子どもがあまりやらない遊びも、三芳野げんき教室では盛んである。日本の古来からの伝統的な遊びの伝承にも役に立っている。
- スタッフの確保が課題となっている。三芳野げんき教室では、三芳野地区の更生保護女性会にも協力してもらい、スタッフを確保している。



【受付の様子】



【一緒に宿題】



【将棋にも本気です】

市町村名	鶴ヶ島市					
実施教室数	13	教室	登録	コーディネーター数	13	人
(うち一体型・連携型での実施教室数)	13	教室	スタッフ数	ボランティア数	70	人
平均年間開催日数	115	日				

【活動事例の紹介】

教室名	杉下子どもサロン						
登録児童数	79	人	登録 スタッフ数	6	人	児童クラブ 連携状況	連携型

取組内容

(1) 実施内容

杉下子どもサロンは、杉下地域支え合い協議会の子ども委員会のメンバーを中心に、毎週水曜日の15時から夕焼け放送まで、東市民センターを会場として、子供たちの自主的な学習の支援と遊びの見守りを行っている。

(2) 事前準備

教員経験のあるスタッフを中心に、参加する子供たちに合わせた学習用のプリントを選定している。



【学習タイム】



【プレイタイム】

工夫した点・ポイント

- プログラムを学習タイムとプレイタイムに分けて、2部屋の会場を使用することで落ち着いて学習に取り組めるようにしている。
- プレイタイムでは、ボードゲームや卓球などのほか、クリスマスやつるがしま郷土かるた、豆まきなどの季節の行事を取り入れることで、子供たちの自主性を尊重しつつも興味・関心を惹きつけられるプログラムとなるように工夫している。
- 夏休み後半には宿題応援サロンを、卒業式の日には低学年向けのサロンを実施して、家庭のニーズに応える企画を行っている。
- サロンの終了後にスタッフで反省会を行い、その日の出来事を振り返るとともに、情報の共有とコミュニケーションを図っている。

成果・今後の展望

- 参加した子供たちからは、「楽しく勉強ができた」「参加して良かった」などの感想が寄せられており、スタッフとしても地域に貢献していることへの手ごたえを感じている。
- サロンの終了時間は夕焼け放送としており、10月から3月の実施時間が短くなるため、実施内容の工夫が求められていることと、参加児童の減少への対応が課題となっている。
- 参加する子供たちが増えていることは喜ばしいが、一方で、運営面では会場やスタッフの確保を考えていく必要がある。

放課後子供教室

市町村名	ふじみ野市			
実施教室数	13 教室	登録	コーディネーター数	14 人
(うち一体型・連携型での実施教室数)	13 教室	スタッフ数	ボランティア数	84 人
平均年間開催日数	33 日			

【活動事例の紹介】

教室名	駒西小学校放課後子ども教室				
登録児童数	75 人	登録 スタッフ数	13 人	児童クラブ 連携状況	一体型

取組内容

(1) 実施内容

体育館を会場とし、4コーナー（ペンシルバルーンロケット、ペットボトルボーリング、輪投げ、金魚すくい）を設置し、児童はスタンプカードを持ち、各コーナーを回るという形で行った。

(2) 事前準備

当日使うものは、放課後子ども教室の指導員が事前から準備を行った。当日の運営方法については、どのようにすれば子供が楽しめるか指導員で考えて行った。

(3) 当日の様子

児童クラブの児童も参加し、一体型の活動となり、大人数の参加となったが、皆とても楽しんで盛り上がっていた。



【ペンシルバルーンロケット】

工夫した点・ポイント

- ただ行うのではなく、スタンプカードを用意することで、各コーナーを回る楽しさが増えるとともに、児童が全てのコーナーを行うように促した。

成果・今後の展望

- 色々なコーナーを設置し、スタンプカードを用意することで、皆大変盛り上がり楽しく活動できていた。
- 夏の体育館を使用したためかなり暑かった。今後同様のイベントを実施する場合には、季節を考えて計画していく必要がある。
- 放課後子ども教室の指導員がメインとなり準備から運営まで行ったが、今後は児童クラブ支援員にも協力してもらい、一緒に準備・実施を行う。
- 一体型の活動となると人数も多くなってくるので、いかに安全を確保しながら行っていか検討していく必要がある。



【ペットボトルボーリング】

市町村名	嵐山町			
実施教室数 (うち一休型・連携型での実施教室数)	1 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	1 人 33 人
平均年間開催日数	26 日			

【活動事例の紹介】

教室名	嵐山町放課後子ども教室スイミー				
登録児童数	41 人	登録 スタッフ数	6 人	児童クラブ 連携状況	連携型

取組内容

- 地元老人会の協力の下、サツマイモの苗植えや芋ほり、餅つきなどの季節を楽しめる行事を開催した。他にも、町内外のボランティアを活用し、「オカリナ教室」や「マジック教室」「工作教室」を実施した。
町内にある私立中高一貫校の援助を得て、講師の高校の理科担当教諭とサイエンス部の高校生の協力の下「かがく教室」としてスライムの実験を行った。
- 町内3校の児童クラブとの連携事業として、外部講師を招聘して「かけっこ教室」「体操&ダンス教室」「漢字であそぼう！」の身体を動かして楽しめる3事業を行った。
- 他に平日の事業として「クッキング教室」、土日の事業としてバスを使っでの体験研修を2回（製菓工場見学と水族園訪問）行った。

工夫した点・ポイント

- 町のボランティアセンターの仲介により「オカリナ教室」「工作教室」の2事業をボランティアの斡旋をして貰って行った。
- 私立中高一貫校の地域貢献の方針を活用して行事を開催できた。
- 参加者の多い児童クラブとの連携事業は、小学校の学期末の短縮授業日に日程を入れ、平日でも長時間を使ってじっくりと事業に取り組んだ。

成果・今後の展望

- 前年度の保護者アンケートにより、要望のあった水族園を体験学習として訪問した。また、製菓工場見学の体験学習も子どもたちに好評で、家庭で楽しい話題になったらしく、複数の保護者から家庭での楽しい語らいの様子を聞くことができた。
- 地元老人会、シニア世代のボランティアとの異世代コミュニケーションを持つことができた。ボランティアと子どもとその保護者の3者に、子育ては地域全体で行うという認識が自然と出来上がった。
- 児童クラブの子どもたちと身体を動かす行事を共にすることで、楽しい交流を持つことができた。
- 地域のボランティアを更にいろいろな場面で活用し、子育て支援をしてもらうことでコミュニケーションの輪を更に広げてゆきたい。



【児童クラブとの連携事業 輪になって…】



【老人会と餅つき 大きく振りかぶって】

放課後子供教室

市町村名	小川町			
実施教室数 (うち一体型・連携型での実施教室数)	1 教室 1 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	1 人 13 人
平均年間開催日数	21 日			

【活動事例の紹介】

教室名	小川町放課後子供教室おおかわキッズ				
登録児童数	41 人	登録 スタッフ数	13 人	児童クラブ 連携状況	連携型

取組内容

(1) 活動時間

毎週月曜日（学校が休みの日を除く）
午後2時50分～午後4時30分

(2) 通常活動

放課後子供教室入室後は、はじめに午後3時20分まで宿題を行う。宿題が終えた児童には、学習プリント（100マス計算・漢字検定プリント等）を配布したり、教育活動推進員が学習の指導を行ったりと、学習に集中しやすいように環境を整えている。

午後3時20分～午後4時15分までは児童・スタッフが一緒になって遊びやスポーツを行っている。



【クリスマス会の様子】

(3) 特別活動

月に1回、特別講師を招聘し、書道教室・英語教室などの特別活動を行っている。小学校の授業で書き初めを行い始めた12月は、小川町生涯学習指導者に登録している書道及びペン字講師を招き、書き初め教室を行った。外部講師からの指導が新鮮だったようで、子供は楽しんで活動に参加した。また、同月には5・6年生が企画・運営を行うクリスマス会を実施し、皆で会を楽しんだ。



【講師を招いての書道教室】

工夫した点・ポイント

- 町内初の放課後子供教室である。5月から9月25日の開設日までに全13回の実行委員会議を持ち、放課後子供教室の名称をはじめ、一からスタッフと職員が話し合っ決めていった。
- 大人だけで企画を行うのではなく、子供たちにも企画・運営を行ってもらい、子供たちの主体性を伸ばせる機会をつくった。
- 連絡手段にSNSの「LINE」を使用することで、活動時間外でも保護者の方に欠席・早退等の連絡をいただけるようにし、保護者の負担軽減を図った。また、台風対応など自然災害時の連絡も速やかに行うことができた。

成果・今後の展望

- 学年・年齢を超えてスポーツなどの共通の活動をすることで、子供たちにとっては地域の方々と触れ合い、社会性を育てる機会となり、スタッフにとっては、健康維持・増進につながっている。
- 参加児童の「楽しい」という評判を聞いて、「自分も参加したい」という子供が増えた。
- 小学校を会場に実施することで、ボール遊びなど自由にのびのびと行うことができた。

市町村名	川島町			
実施教室数	6 教室	登録	コーディネーター数	6 人
(うち一体型・連携型での実施教室数)	6 教室	スタッフ数	ボランティア数	126 人
平均年間開催日数	74 日			

【活動事例の紹介】

教室名	三保谷っ子くらぶ・出丸たんけんクラブ（2つの教室の交流活動）				
登録児童数	24 人	登録 スタッフ数	20 人	児童クラブ 連携状況	連携型

取組内容

(1) 実施の経緯

川島町の放課後子供教室は、各小学校区を母体に設置され、主に学区内の地域住民が主体となり11年間活動を続けてきた。ところが、平成30年度には、全6小学校のうち4小学校が2小学校へと統合される。その影響により、放課後子供教室の統合も検討せざるを得ない状況にある。しかし、本教室を運営する地域住民は、百年以上の伝統がある学校を核にした学区内の人間関係を基盤に、具体的にはコーディネーターや指導者の友人関係で運営スタッフを確保してきた経緯がある。

そのために、2つの地区が一体となって面識がない者同士が教室を運営することは容易ではない。そこで、コーディネーターと事務局で検討を重ねた結果、統合開催ではなく、まずは統合対象校区の教室同士の、年2回の交流活動を本年度より試行的に実施することとした。

(2) 事前準備

2教室の交流活動ということで、まず相互のスタッフの事前打合せを実施した。互いに共通理解・共通認識を持った上で取り組めるよう、特に、活動内容、スタッフの役割、配慮すべき事柄などの打合せを入念に行った。今回の活動では、教室（小学校区）が異なる子供同士でも楽しめる「スポーツ体験（グラウンドゴルフ、ドッジボール）」を行うこととした。活動場所（小学校体育館及び校庭）の確保や道具（スティックやボール）の借用の手配など、関係諸機関との連絡・調整に努めた。

(3) 当日の様子

当日は天候に恵まれ、楽しくスポーツ体験を実施することが出来た。子供・大人の混成チームで班分けを行い、相互に交流を深められるように配慮した。教室が異なっても高学年の子が低学年の子の面倒を見る場面が見られたり、子供も大人も参加者が相互に協力したり談笑したりするなど、はじめての取組としては手ごたえを得ることができた。



【うまくホールに入るかな】

工夫した点・ポイント

- 事前に両教室のコーディネーターを中心としたスタッフ間の事前打合せを行うとともに、活動後のアンケートを実施し、今後の交流活動に生かせるように努めた。

成果・今後の展望

- コーディネーターや運営スタッフが、将来的な運営の在り方を自ら意識し、考える契機となった。
- 2教室を統合開催する場合には、両者の信頼関係が基盤となる。本事例で紹介したプロセスを経ることで、少しずつではあるが両者の信頼関係を構築する契機となった。
- 今後は、地域住民の関係性が基盤になり運営されていることを大切にしながらも、交流活動を継続することで、運営スタッフ同士の交流を深め、2地区が一体となった活動としていきたい。

放課後子供教室

市町村名	吉見町			
実施教室数	2 教室	登録	コーディネーター数	1 人
(うち一体型・連携型での実施教室数)	0 教室	スタッフ数	ボランティア数	0 人
平均年間開催日数	60 日			

【活動事例の紹介】

教室名	南小放課後こども教室（福祉の体験教室—アイマスク体験—）			
登録児童数	24 人	登録 スタッフ数	8 人	児童クラブ 連携状況

取組内容

(1) 実施内容

教室の前半ではレクリエーション・文化活動等を、後半では自主学習を行っている。

今回は前半の部分に社会福祉協議会に協力をいただき福祉体験（アイマスク体験）をプログラムに導入した。講師には視覚障害者の方（盲導犬も同伴）に来てもらい目が見えなくなった頃のお話や、普段の生活の様子などのお話をしていただいた。またアイマスクの体験を実施した。

(2) 事前準備

事前に数回、社会福祉協議会の担当者と打ち合わせを行い講師の決定や、当日の内容、時間配分など検討した。

(3) 当日の様子

当日は放課後子ども教室の指導者のほか、社会福祉協議会のボランティアの方にも協力をしていただき実施した。

まず初めに、講師から目が見えなくなった頃のお話や、その後、目が見えなくなったことによってこれまでと全く変わってしまった生活の様子などについてのお話をしていただいた。

次に、アイマスク体験を行った。児童はアイマスクをつけながら、ランドセルの中から筆箱を出し、さらにその中から鉛筆を取り出し机の上に用意してある紙に自分の名前を書いた。児童たちは見えない世界の感覚に戸惑いながらも自分の名前を真剣に書いていた。

次に、盲導犬の紹介と仕事の説明や盲導犬を見かけたときの注意事項などのお話があった。その後、盲導犬とのふれあい体験をおこない、児童たちは盲導犬を撫でたり触ったりしていた。最後に児童から教室の感想と先生に向けた手紙を書いて終了となった。



【講師と盲導犬の紹介】

工夫した点・ポイント

- 社会福祉協議会に講師との調整や道具の準備、また、当日の補助など大幅に御協力をいただいた。

成果・今後の展望

- 目が見えない人はいろいろと工夫していることがわかりました。（児童）
- 目が見えないけれど、いろんなできることを見つけてやっている事がすごいと思いました。わたしにもできることはやってみようと思いました。（児童）
- アイマスクの装着で、日常体験したことの無い世界を体験することができた。この体験を通して日常生活における思いやりの心や共に生きる力などにつなげる一助となった。今後もこのような事業を取り入れていきたい。



【アイマスクをして名前を書きます】

放課後子供教室

市町村名	ときがわ町			
実施教室数 (うち一体型・連携型での実施教室数)	2 教室 1 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	9 人 4 人
平均年間開催日数	190 日			

【活動事例の紹介】

教室名	萩ヶ丘いきいき教室				
登録児童数	24 人	登録 スタッフ数	7 人	児童クラブ 連携状況	連携型

取組内容

- 「萩ヶ丘いきいき教室」は、給食のある放課後に毎日実施しており、児童が安心・安全に過ごせる場所と環境を提供することを目的とし、主に児童の自由遊びを見守る活動を中心に運営している。
- 隣接する児童クラブ「学童保育所やまびこ」に入所している児童も遊びに加わり、学年・性別の区別なく、和気あいあいと活動している。
- 月に2回程度、地域の方を講師として「萩いき野球」(軟式野球)を実施し、キャッチボールを始めとした、野球を通じた基礎体力づくりを行っている。

工夫した点・ポイント

- 学校との連携を図り、授業や学校行事との調整を行っている。
- 教育活動推進員と学童スタッフとの連絡を取りながら、日々の放課後の時間帯を安全・安心に過ごせるようにしている。

成果・今後の展望

- 放課後の安心・安全な居場所づくりができた。
- 今後も全校児童数50人以下という、小規模校の実情にあった活動を維持していく。



【異学年との遊び】



【児童クラブの子と一緒に】

放課後子供教室

市町村名	秩父市			
実施教室数 (うち一体型・連携型での実施教室数)	13 教室 8 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	13 人 130 人
平均年間開催日数	290 日			

【活動事例の紹介】

教室名	吉田小ふれあい学校（お楽しみ会）				
登録児童数	24 人	登録 スタッフ数	3 人	児童クラブ 連携状況	一体型

取組内容

- お楽しみ会の準備
クリスマスツリー壁画と折り紙の妖精を沢山作り、ツリーに見立てて廊下に飾った。教室には、輪飾りや子どもたち一人一人が描いた絵を飾った。教室スタッフの指導の下、子どもたちは楽しみながら作成を行った。
- お楽しみ会の実施
クリスマス飾りの中で、クリスマスカード作りを楽しみ、校長先生が扮するサンタクロースからプレゼントをいただき、子どもたちがお礼のカードを渡すなどして、子どもたちとの交流を深めた。



【クリスマスツリー壁画】



【クリスマスカード】

工夫した点・ポイント

- お楽しみ会の他、季節や行事に応じて、子どもたちが中心となって楽しめる内容を取り入れた活動を実施している。
- 創作活動を積極的に活動プログラムに取り入れることにより、様々な学年の児童の交流や多様な体験活動を支援している。
- 吉田小ふれあい学校では、同一敷地内に設置されている吉田学童保育室の児童と、共通の遊びや創作活動を行っている。西秩父消防署にお願いしての安全教室を共同で行うなど積極的に、教室同士の共同事業を計画するなどして、児童の交流も行っている。



【クリスマスカード作りの様子】

成果・今後の展望

- 季節感を得られる文化的行事を行うことができ、子どもたちに興味・関心を持たせ、参加する楽しさを味わわせることができた。
- 一つの行事をふれあい学校の仲間と共に準備し、実施することで、子供たちの共働の精神や、思いやりの心、所属感、交流の歓びを深めることができた。



【お楽しみ会】

市町村名	横瀬町			
実施教室数 (うち一体型・連携型での実施教室数)	1 教室 0 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	1 人 133 人
平均年間開催日数	250 日			

【活動事例の紹介】

教室名	横瀬町放課後等子ども教室			
登録児童数	40 人	登録 スタッフ数	37 人	児童クラブ 連携状況

取組内容

【月1回の活動】

- 作って遊ぼう…講師の指導により、身近な材料を活用し工作をして遊ぶ。厚紙を小さい形に切って遊ぶ吹きコマ、ストローの切り方を工夫して大きなシャボン玉を作って遊ぶ等。
- 折り紙教室…季節感のある折り紙を折る。ぴよんぴよんカエル、たなばた飾り、ハロウィン、おひな様等。
- 軽スポーツ…集団で遊べるかんたんなスポーツ。ドッジボール、ラケットリレー、なわとび等。



【絵本づくり】

【夏休みの活動】

- 絵本づくり
講師1名、中学生ボランティア4名、支援員の協力を得、夏休みの始めに絵本の作り方について学び、夏休み後半に完成させる取組。始めに物語と題名を考える。主人公は人物、動物、虫、花、何でも良い。構想を考え1回目は終了。一人6場面6枚に絵を仕上げる。2回目は作品を貼り合わせ、表紙を付け完成させ、その後発表会を行う。長時間過ぎず夏休みだからできる取組。支援を受け、全員仕上げる事ができた。
- 点字・手話体験
福祉体験の一環として実施している。低学年の児童で構成されている教室のため、点字カルタという形で遊びながら学ぶ。点字を打つ体験も行う。手話でのあいさつ、自己紹介の仕方、かんたんな曲に合わせた手話の表現を学ぶ。
- かんたんクッキング、お話会、エコ小物づくり
一週間に2回、1時間程度の行事を実施している。

【その他の活動】

- 菊づくり…菊作り愛好会の協力のもと、一人一鉢菊苗を育てる活動。町内の施設に展示、文化祭へも出品。
- 昔遊び…老人クラブの協力のもと、室内遊びと体育館遊びの2回にわたり一緒に遊ぶ。
- まんじゅう作り…指導者が収穫した小豆のあんこを提供いただき、皮をつくり、あんを包み、蒸して仕上げる行程を体験する。



【まんじゅう作り】

工夫した点・ポイント

- 小学校休業日の放課後に実施しているため、参加希望者が多く、低学年を中心に受け入れている。そのため、月1行事は時間も短く、簡単にできる内容のものにしている。
- 長期休業日の行事は、学校応援団の全面協力のもと、コーディネーターと事前打ち合わせを十分行う。日時、場所、準備するもの、中学生ボランティアの有無等を確認する。また、行事が偏らないようにする。

成果・今後の展望

- 「学校応援団」と名簿を共有することにより、積極的な人材活用が図られている。
- 毎年、同じ時期に行事を実施しているため、指導者の方々も心待ちにしている様子である。
- 町の社会福祉協議会、学童との交流をさらに進めていきたい。

放課後子供教室

市町村名	小鹿野町			
実施教室数 (うち一体型・連携型での実施教室数)	4 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	4 人 157 人
平均年間開催日数	25 日			

【活動事例の紹介】

教室名	三田川小学校いきいき教室			
登録児童数	7 人	登録 スタッフ数	22 人	児童クラブ 連携状況

取組内容

(1) 実施内容

1年生を対象に毎週火曜日の6校時に「いきいき教室」を実施し、他学年との集団下校を行っている。今年度は、4月25日から3月13日まで年間33回の実施計画でスタッフ22名で実施している。毎回1～2名のスタッフが創意工夫して、子どもたちに遊びの場・体験の場・学習の場を提供している。今年度実施した主な内容は次の通りである。「あんどん作り」「牛乳パックごま作り」「はしふくろロケット」「七夕かざり」「空とぶえんぱん」「カレンダー作り」「クリスマスかざり」「昔の遊び」などを実施した。

(2) 事前準備

5月23日にスタッフとの打合せ会を行い、担当日を分担した。昨年度の活動内容を一覽にまとめ今年度の活動計画を立てる資料にしてもらった。準備してほしい物がある場合は前日までに学校へ連絡してもらい当日までに準備した。

(3) 当日の様子

スタッフが毎回児童が喜びそうな内容を創意工夫してくれるので児童が興味・関心を高めいきいきと活動することができている。



【手品】

工夫した点・ポイント

- 登録スタッフは、学校コーディネーター、学校応援団、民生児童委員、保護者に依頼した。
- 5月に説明会を行い1年間の計画を立てた。
- 4月から活動を開始した。(説明会で計画を立てるまでは、学校コーディネーターが実施)

成果・今後の展望

- スタッフの創意工夫に富んだ活動を毎回実施していただき、児童は楽しみながら体験・経験を重ね、知識や技能が身に付いている。
- 教室を実施することで、1年生が他学年の児童と集団下校することができ、下校時における不審者対策の一環となっている。

市町村名	寄居町			
実施教室数 (うち一体型・連携型での実施教室数)	6 教室 0 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	1 人 0 人
平均年間開催日数	29 日			

【活動事例の紹介】

教室名	より・E放課後塾			
登録児童数	466 人	登録 スタッフ数	31 人	児童クラブ 連携状況

取組内容

(1) 実施内容

町内全小学校の2、3年生全員を対象に「より・E放課後塾」を実施した。この事業の主な目的は、基礎基本の学習内容が多い低学年に、学習内容の定着と学習意欲の向上を図ることである。各校の現状に応じて45分間の算数の学習時間を設定した。5月から3月初旬まで原則週1回、年間29回実施した。指導者は、各校に配属されている教員免許や教員経験のある学習サポーターが放課後学習サポーターとなって行っている。各学年に複数の指導者を配置し、少人数体制によって個に応じたきめ細かい指導を行った。指導は、通常の算数授業で行っている単元に関わる内容を、個々の理解度に応じて補充的・発展的な学習として取り組んだ。学期に1回程度各校に指導主事が訪問し、サポーターの相談に対応したり、他校の取組を情報提供したりした。

(2) 事前準備

年度当初にサポーターの連絡協議会で、「より・E放課後塾」の事業内容を説明し、運営や指導事項を共通理解した。学習サポーターの勤務時間と滑らかな接続ができるように校長にサポーターの勤務時間の割り振りを設定させた。また、予算の執行のことについて事務職員に説明した。消耗品の購入による相談や指導上の課題、生徒指導上の問題による対応が予想されることから、教職員の中で「より・E放課後塾」担当者を放課後学習サポーターのパイプ役として位置づけた。

(3) 当日の様子

通常の算数の授業で、多くの児童がつまづいている学習内容を一斉授業で共通理解を図ったり、個々の理解度に応じてプリントを進め、苦手な児童に対して、個別指導を行ったりした。進んでいる児童には、自己採点させ、より発展的な学習内容に取り組ませた。授業終了後、放課後学習サポーターは、児童のプリントの答え合わせや進度の確認をし、今回の授業の成果と課題を生かし、今回の指導内容と教材を協議した。



工夫した点・ポイント

【放課後学習サポーターの個別指導】

- 全児童が参加できるよう、授業時間を6校時に実施した。
- 通常の算数の授業では時間内で実施できない「コバトン問題集」や町作成「評価問題」、練習問題プリントで補充的な学習ができた。
- 各学年の全学習内容の補充学習ができるよう、5月から通年で実施できるようにした。
- 実施にあたり、年度当初の学級懇談会で保護者に学級担任から説明し、理解を得た。
- 放課後学習サポーターの中で教職員や教育委員会との連絡調整役として塾長を任命した。

成果・今後の展望

- 授業時間を6校時に実施したので、全児童が参加できた。
- 5月から1年間を通して、事業を実施したので、全児童に復習する時間を確保できた。
- 習熟度別で学習を進めているので、わかる、できるようになったという声が聞かれた。
- 学習サポーターと放課後学習サポーターの勤務校が同じ場合、放課後塾の学習内容を学級担任と相談できたり、児童の理解度を把握した上で指導できたりした。

放課後子供教室

市町村名	行田市			
実施教室数	4 教室	登録	コーディネーター数	4 人
(うち一体型・連携型での実施教室数)	2 教室	スタッフ数	ボランティア数	39 人
平均年間開催日数	27 日			

【活動事例の紹介】

教室名	北河原小学校わくわくクラブ			
登録児童数	10 人	登録 スタッフ数	8 人	児童クラブ 連携状況

取組内容

(1) 豊かな自然環境を生かした特色ある活動の実践

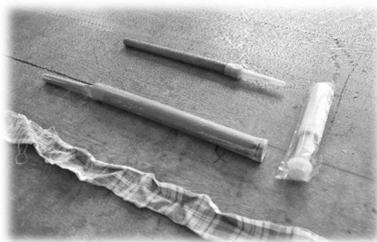
学校の近くには、大きな川沿いの土手の草むら、やぎの小屋、神社など豊かな自然環境が数多く存在している。この特性を生かした地域に根差した活動が本教室の特色である。具体的には、土手の斜面を使ったそり遊び、凧あげ、やぎの飼育体験、神社の豆まきなど特色ある活動を実践している。自然豊かな校庭での自由遊び、落ち葉遊びは、子どもたちにとって人気のある活動である。特に、学校の近くにあるやぎの小屋の訪問では、子どもたちは歓声をあげて活動に熱中していた。



【学校近隣のやぎ小屋への訪問】

(2) 手作り教材を活用した昔遊びの実践

少人数で実施している教室のため、参加児童1人ひとりにきめ細やかな教材を準備できるのも本教室の利点である。指導スタッフの思いのこもった教材や昔ならではの遊びを体験できるのも特色である。具体的には、七夕かざり、竹とんぼ、水でっぼう、たこ、鬼のお面、ひな人形など、季節感や手作り感あふれる教材を使った遊びを実践している。この他にも、活動中に作成した折り紙を使った子どもたちの作品は、近所の公民館に活動紹介コーナーとして展示し、本教室の成果を地域に発信することができた。



【水でっぼうづくりの材料】

工夫した点・ポイント

- 全学年対象の募集を行っているため、1～3年生と4～6年生の放課後の時間に差がある。そこで、4年生以上が活動に合流するまでの間は、指導スタッフの考案で自由活動時間を設定している。具体的には、宿題、折り紙、ボードゲーム、教材・教具を使った遊びなどに取り組み、十分な見守りのある安全・安心な活動環境のもと有意義な放課後の時間を過ごしている。
- 指導スタッフは、4人×2班の8人体制でチームを編成し、隔週で子どもたちの指導にあたっている。コーディネーターが指導スタッフのよきパイプ役、アドバイザーとして調整を図っている。少人数ならではの活動環境を活かし、子どもたちの声や主体性を反映させた活動を実践している。



【フリータイムの様子：1～3年生】

成果・今後の展望

- 子どもたちの主体性が生まれ、毎回の活動を楽しみにしながら、いきいきと活動する姿が見られた。さらに、高学年から低学年の子どもたちへの教え合いの場面や思いやりのある言葉かけが見られ、参加児童の交流が深まった。
- 地域交流を意識した訪問、自然体験、遊び等が計画され、自然豊かな地域の特色を生かした活動が実践された。
- 今後は、地域の協力をさらに深めるとともに、小規模校の利点、コーディネーターを中心とした充実した指導体制を継続していきたい。

市町村名	久喜市			
実施教室数	23 教室	登録	コーディネーター数	28 人
(うち一体型・連携型での実施教室数)	23 教室	スタッフ数	ボランティア数	2,645 人
平均年間開催日数	18 日			

【活動事例の紹介】

教室名	けやきっ子ゆうゆうプラザ(久喜市立東鷲宮小学校)				
登録児童数	267 人	登録 スタッフ数	220 人	児童クラブ 連携状況	一体型

取組内容

開設から7年目となる今年、在校生の約41%、267名が参加する市内有数の参加児童をもつ当プラザは、児童の多様なニーズに応えられるよう年々講座数を増し、現在では自然観察や理科遊びなどの学習、スポーツからロボット作り、パソコンへの挑戦まで多彩な分野の21講座を展開している。

学校と協議し、月曜日放課後の活動日は全15日、延べ講座数は6月から2月までの間に223回。講座の指導は主として地域から32名(うち11名は実施委員を兼務)。他に地域サポーター16名、保護者サポーター161名と、運営の実施委員22名で講座を支えている。実施委員は必ず講座担当となり、指導者と児童・保護者との橋渡し。メンバーは地域とPTA(本部経験者を含む)が半々でいいバランスを保っている。

工夫した点・ポイント

特定の講座に児童が偏らないようにしているのが工夫のひとつのポイント。講座によっては参加人数だけでなく高学年限定などとして募集、「理科遊び」は3年生限定としたところかえって、人数が37名も集まってしまったという嬉しい悲鳴も出た。

年度末に児童から「新たに加えてもらいたい(やってみたい)講座」についてのアンケートをとっているが、その声から今年生まれたのが「チャレンジ!パソコン」(参加児童14名)と「集まれ!絵かきっ子」(同25名)だ。講座への興味を児童に持ってもらうためには、ネーミングは重要な要素であり、指導者や実施委員の知恵の出どころだと思う。

講座活動日には実施委員長が毎回、「指導者・サポーター通信」を発行。実施委員会からその日の要望事項や各講座の内容や無事故アピールなどを行っている。講座終了後に各講座の担当実施委員が記入するのが「講座運営シート」。その日の講座について、指導者や地域・保護者サポーターの感想、児童の講座に取り組む態度、実施委員会への要望や次回までに改善すべきことなどを報告する。

児童のみならず取り巻く様々な関係者に理解促進していただくことが当プラザを存続させ支えてくれるという認識で、PR活動にも力を入れている。学習参観日等の校内放送、ゆうゆう新聞の発行(年2回)、学校・PTA主催の「東小けやき祭」への模擬店出店と写真や作品の展示など、いろいろな場面をとらえて伝えている。

成果・今後の展望

保護者アンケートを毎年実施しその成果や反省点を確認しているが、放課後子供教室の目的を十分達していると評価を得ている。参加児童からは指導者や地域の皆さんへの「お礼の手紙」を出してもらい、その全文を「けやきっ子ゆうゆう新聞」に掲載しているが、『ゆうゆうがあるから月曜日に学校に行くのが楽しみ』という一文は今でも心に残っている。学校の先生も定期的な見学や講座参加時に、児童の別の一面にふれ目を見張ったということも聞いている。

講座参加人数に比して空き教室が少なく、現在も隣接のコミュニティセンターを活用し講座を展開しているが、次の課題は土曜講座の開設と学童との連携だと思っている。



【新設のパソコン講座】



【「室内ゲーム」でのびのびと放課後を楽しむ】

放課後子供教室

市町村名	三郷市			
実施教室数 (うち一体型・連携型での実施教室数)	4 教室 1 教室	登録 スタッフ数	コーディネーター数 ボランティア数	2 人 30 人
平均年間開催日数	60 日			

【活動事例の紹介】

教室名	わくわく砦たかす			
登録児童数	64 人	登録 スタッフ数	11 人	児童クラブ 連携状況

取組内容

(1) 実施日

平成 29 年 8 月 24 日（木）、8 月 29 日（火）に実施した夏休みイベントについて取り上げる。

(2) 実施内容（夏休みイベント）

1 日目

◎小麦粘土づくり

2 日目

◎ペットボトル水族館

◎エコバッグの型染め

◎囲碁入門体験教室



【ペットボトル水族館】

工夫した点・ポイント

- 普段のわくわく砦たかすの参加者だけではなく、近隣の小学校にもイベントの案内を配布し、イベントの周知と登録案内に努めた。
- 2 日間の夏休みイベントの開催にあたり、同じイベントをやるのではなく、1 日目と 2 日目で異なる内容とした。2 日目については、3 種類のイベントメニューを用意し、各自で興味あるメニューに参加した。

成果・今後の展望

- わくわく砦たかすは学校の長期休暇の間は休室となっている。このイベントを開催することにより、普段からわくわく砦たかすを楽しみにしている児童にとって、夏休みでも異学年や他校の児童と触れ合える貴重な機会となった。
- 市内で活動する囲碁サークルの市民による「囲碁入門教室」は、児童と市民にとって地域内での世代間交流の場となった。また、普段なかなか体験することのない囲碁を行うことにより、児童にとって貴重な体験活動の機会となった。

市町村名	上尾市			
実施教室数	6 教室	登録	コーディネーター数	6 人
対象学校数	22 校	スタッフ数	ボランティア数	0 人
平均年間開催日数	4 日			

【活動事例の紹介】

教室名	スパイス工場見学とカレー作り教室			
登録児童数	16 人	登録スタッフ数	1 人	

取組内容

公民館の近くにあるスパイス工場へ行き、カレールウと瓶のスパイスの製造工程を見学した。その後、公民館で「夏野菜カレーとナン」を調理し、皆で会食した。

工夫した点・ポイント

- スパイス会社の会長がスパイス探検隊長になり、社員も探検隊員として子供たちと一緒に探検した。
- 工場までの引率として公民館で活躍しているボランティアが安全を図った。
- 公民館のサークル指導者が調理の指導をした。サークルのメンバー3人もアシスタントとして子供たちの指導をした。
- 他小学校、異学年で工場見学、カレー作りのグループを構成した。

成果・今後の展望

- 市内の企業や公民館で活動する講師・サークルメンバー、ボランティアなどいろいろな大人の支援を受け、交流を図ることができた。
- 他小学校、異学年で工場見学、カレー作りのグループを構成したことで、高学年は低学年の世話をしたりと交流が出来た。
- 調理の時も役割分担を進める一方で、「自分のナンは自分で焼こう」など、人任せではなく、全員が参加し、作る楽しさ、達成感、美味しさを実感した。
- 参加した児童から、また参加したいとの声を多くいただいたが、毎年同じ内容ならぬよう企画に変化をつけることが難しい。



【スパイス探検】



【SPICE TOWN】



【調理実習】

土曜日の教育支援

市町村名	蕨市			
実施教室数	7 教室	登録	コーディネーター数	7 人
対象学校数	7 校	スタッフ数	ボランティア数	110 人
平均年間開催日数	22 日			

【活動事例の紹介】

教室名	笑顔かがやく 塚小っ子土曜塾（塚越小学校区わらび学校土曜塾）			
登録児童数	26 人	登録スタッフ数	19 人	

取組内容

- 行政・家庭・地域が連携協力し、子どもを育む環境づくりを推進する。児童の自主的な学習（宿題・課題・ものづくり）をサポートし、子どもたちに学ぶ楽しさを教え、学習習慣の定着や基礎学力の向上を図る。
- 事業実施にあたり、元教員の方が全体を統括する塾長（コーディネーター）を担っている。宿題やドリルのわからない所を教える学習アドバイザーと欠席者への連絡や出入り口の管理等を行う安全管理員（見守り役）を元教員やPTAの方から協力を得ている。
- 毎回、百マス計算や熟語クイズ、身近なものを使用した理科実験等、遊びの中に学習を取り入れることで、楽しみながら学べるだけでなく、新しい発見の機会を創っている。
- 体験活動は、流しそうめんや将棋教室、科学教室、焼き芋大会、カルタ大会等を父親クラブが主体となって計画しており、人気のイベントとなっている。



【体験教室の様子（流しそうめん）】

工夫した点・ポイント

- 学校の休業日に開設するため、出入りがしやすい1階であること、冷暖房が完備されていること、お手洗いが近くにあること等の条件を満たす教室を実施場所とした。
- 会場が図工室のため、机の上がデコボコしているので、A3サイズのデスクマットを敷いて対応した。
- 小学校の授業時間と同じく、1コマ45分とし、休憩（10分程度）を挟み、2コマで実施することにした。
- 毎月2回、土曜日の午前中に開設した。また、宿題の多い夏休み期間中にも実施した。
- ドリルを準備し、その教材をコピーするためにスキャナー付きのプリンターを設置した。
- 自主学習のほか、体験教室を各学期に1回程度実施している。



【毎回のお楽しみ、理科実験】

成果・今後の展望

- 参加者からは、「分からない所はスタッフさんが丁寧に教えてくれるので、分かることが増えた。」「以前は土曜日に勉強をほとんどしなかったけど、勉強ができる場所があっというらしい。」「自分の課題がスムーズに終わりとてもよかった。毎回やる事リストを書いたので、効率的に勉強できた。百マス計算は友達と競い合うことでやる気がわいた。」との声があった。
- 保護者からは、「『宿題をわかりやすく教えてくれたよ！理科の実験が面白かった！』と楽しそうに話してくれた。宿題を土曜日に済ませたことで、日曜日は気持ちもゆっくり過ごせたと思う。」「テレビを見ていた時、『これ！土曜塾でやった実験！！』とうれしそうに教えてくれた。以前より勉強する時間が長くなった。」「土曜塾で何を勉強しようか、自分で考えて計画をたててから参加するので、日頃の勉強がより計画的になった。」との感想があった。
- 元教員の方が塾長や学習アドバイザーを務めているため、学習面でのサポートはもちろんのこと、学校との連絡調整等が大変スムーズである。PTAの方や父親クラブからサポートもあるので、安心して学ぶことができる環境にあるといえる。

市町村名	朝霞市			
実施教室数	6 教室	登録	コーディネーター数	1 人
対象学校数	10 校	スタッフ数	ボランティア数	7 人
平均年間開催日数	12 日			

【活動事例の紹介】

教室名	あこがれのスポーツ選手になろう！（運動神経向上スクール）			
登録児童数	30 人	登録スタッフ数	7 人	

取組内容

(1) 実施内容

「自分が思うように身体を動かせるようになること」を目標に、マット運動や縄跳び等を活用した体幹トレーニングを中心に小学1年生から6年生まで参加する教室。講師は、参加する児童の学年等の発達段階を考慮して、12回分のカリキュラムを決定している。

(2) 事前準備

本教室は、市内6校ある教室の中でも、1、2を争う人気となっている。在籍する小学校に関わらず、好きな教室を選択できるため、市内全域から児童が参加している。

そのため、より多くの児童が参加できるように、講師とも相談の上、25名程度の定員を30名に増やして実施している。

(3) 教室の様子

教室では、準備体操を念入りに行っている。マット運動等を行う場合は運動量が多いため、体力や集中力に考慮して、合間にドッジボールやミニゲームを取り入れている。今年度は、新たにリズム体操に挑戦している。

工夫した点・ポイント

- 低学年の参加者が多いため、運動の得意な児童や高学年にも対応できるよう難易度を設けて、それぞれがレベルに応じた運動に取り組んでいる。
- 身体を動かすこと自体に苦手意識を感じたり、「スポーツ＝運動ができる子がやるもの」と考えたりする子どもが多いと思われるので、自分の身体を動かすことを身近に感じてもらえるようカリキュラムを設定していただいている。

成果・今後の展望

- 昨年度のアンケートでは、授業とは違う運動を楽しむ声が多く、合間にやったポートボール等のミニゲームも人気だった。中には、体育やスポーツに対して苦手意識が減り、以前より自信をもてるようになったようだという保護者の声もあった。
- 普段、運動ができる子は自分の目標に集中してしまいがちであるが、教室内ではリズム体操などで、高学年の子が低学年の子等に教える場面もよく見られ、リーダーシップやチームワークを学ぶ面でも成果が見られる。
- 身体を動かすことを楽しむ気持ちがあれば、スポーツを楽しむことができることを教室を通じて感じて欲しいと考えている。スポーツを始めるきっかけづくりとして、来年度以降も継続していきたい。



【せーので、立つよ！】



【片足で立つのって難しい？】

第5「放課後子供教室推進事業」の実践事例（実施市の取組）

土曜日の教育支援

市町村名	新座市			
実施教室数	17 教室	登録	コーディネーター数	1 人
対象学校数	17 校	スタッフ数	ボランティア数	196 人
平均年間開催日数	13 日			

【活動事例の紹介】

教室名	新座市児童センター--こどもK G K（新座っ子ぱわーあっぷぐらぶ）			
登録児童数	32 人	登録スタッフ数	5 人	

取組内容

- 「観察、グルメ、工作」を軸として、その頭文字をとった「K G K」を教室名に入れ、森林散策、竹トンボ作り、流しそうめん体験、薪割りや火起こしを含むキャンプ体験、バウムクーヘン作り、クラフト、焼き芋作り、花炭焼き作り、落ち葉プール作り等、地域のボランティアの方に指導していただきながら様々なアウトドア活動を実施している。
- 特に流しそうめん体験は、竹を加工して樋や箸、椀などを作成するところから始め、本格的なものとなった。

工夫した点・ポイント

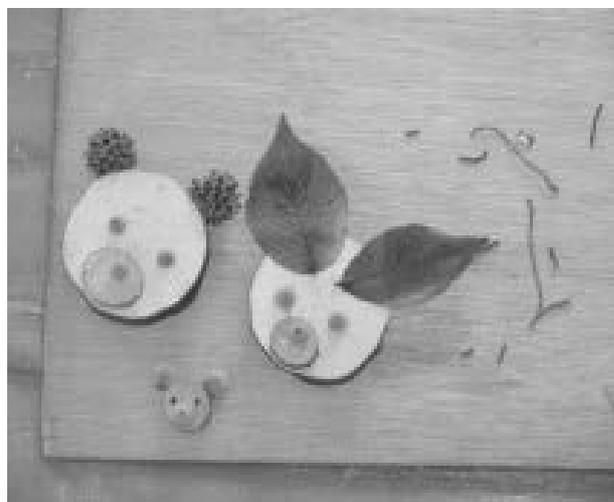
- 「学校では体験できない楽しいこと」を意識して活動内容を考え、提供している。
- 保護者も児童と一緒に活動に参加して頂き、スタッフの指示に従うだけでなく、時には自主的に行動して頂いた。
- 近隣大学の学生にボランティアで活動に協力頂いた。

成果・今後の展望

- アウトドアで普段の生活では体験できない活動をし、自ら考えて行動する力が身に付いた。
- 異学年同士、また保護者を含む大人と触れ合うことで、コミュニケーション能力や思いやりの心が身に付いた。また、親子同士のふれあいの時間を持つことができた。
- 自然の中で体を動かすことにより、自然を大切にする心や感受性が育っただけでなく、体力づくりにもつながった。



【バウムクーヘン作りの様子】



【クラフトの作品】

市町村名	北本市			
実施教室数	12 教室	登録	コーディネーター数	12 人
対象学校数	12 校	スタッフ数	ボランティア数	219 人
平均年間開催日数	10 日			

【活動事例の紹介】

教室名	中学校土曜補習事業（北本市立北本中学校）			
登録児童数	16 人	登録スタッフ数	22 人	

取組内容

- 実施日・回数 平成 29 年 9 月から 12 月まで
土曜日 9 日間 全 27 講座

○ 実施内容

国語	文章読解（物語文・説明文） 作文（グラフの読み取り、意見選択）
数学	正負の数・文字式の計算 方程式 展開・因数分解・平方根 関数 証明
社会	歴史的分野の復習 地理的分野の復習 問題演習
理科	化学分野の復習 生物分野の復習 地学・物理分野の復習
英語	動詞 時制 肯定・否定文 疑問文・答え方 英作文

工夫した点・ポイント

- 本校の土曜補習授業は、進路選択に向けて学力向上をめざす 3 年生に対し、基礎学力の定着を図る授業を実施している。
- 三者面談等で、個々の学習上の課題を生徒と保護者と話し合い、適切な講座を紹介することで、参加意欲を高めている。
- 指導は本校教員があたっているが、3 年生の教員や 5 教科の教員だけでなく、1・2 年生の教員や実技担当の教員もサポートし、学校全体で取り組んでいる。
- 内容については、公立高校の入試対策とし、家庭の事情で学習塾等を利用できない生徒でも、進路決定に向けて学力向上の機会を保障している。
- 5 教科の基礎・基本について、前半で講義を行い、後半でプリントやワークシートを活用し、定着を図る形式にしている。
- 後半部分では、複数の教員が個別に生徒の学習をサポートすることで、個に応じたきめ細やかな指導を行っている。

成果・今後の展望

- 講義形式を前半に取り入れることで、後半の個別学習がスムーズに行われた。
 - ・中学校 1 年生の内容からの復習など、基礎・基本の内容に特化したため、授業内容を精選し、生徒の個々の学習上の課題を解決できた。
 - ・より多くの生徒に参加してもらえるように、応用コースも設定し、生徒個々の学習上の課題を解決できるようにしたい。



【数学の講義の様子】



【個別学習の支援の様子】

土曜日の教育支援

市町村名	所沢市			
実施教室数	1 教室	登録	コーディネーター数	1 人
対象学校数	1 校	スタッフ数	ボランティア数	58 人
平均年間開催日数	44 日			

【活動事例の紹介】

教室名	所沢市放課後支援事業（所沢小学校ほうかごところ）			
登録児童数	687 人	登録スタッフ数	14 人	

取組内容

（１）土曜日の活動の様子

保護者の要望により平成 18 年度より土曜日の活動を実施している。活動時間は、学校開放活動が使用していない時間の 9 時～12 時で、体育館を主な活動場所としている。長期休業中と 1～3 月の土曜日は、活動を休止している。

参加児童数は、一回に 10 名前後と少なめであるが、当該校の卒業生のスタッフやボランティアが児童の見守りや支援を行う貴重な機会となっている。

（２）特色ある活動の紹介

① 体育館の遊具等を活用した活動

土曜日は参加人数が少ないため、スタッフの目がよく行き届くため、子供が思い切り体を動かすことができ、異年齢で遊んでいる。

② 時間延長の活動の実施

保護者の要望により平成 18 年度より実施している。やむを得ない理由など保護者のお迎えが遅れる場合、子供の安全への配慮から保護者の申し出とお迎えを条件として最大 19 時まで実施。体育館 2 階で読書やゲームを中心に静かに活動を行っている。

③ プール活動

長期休業中の活動実施に伴い、平成 18 年度より学校・PTA 支部活動で使用しない日の午後(13 時～15 時)に実施している。29 年度は、10 日間実施。安全面から実施日を低学年(1・2 年)と中高学年(3～6 年)に分け、スタッフを増員して対応。平成 29 年度は延べ 581 名が参加。



【ボランティアが見守る
プール】

工夫した点・ポイント

○ 保護者への情報提供

- ・ 毎月中旬(8 月を除く)に情報誌“ほうかごところ”を発行(平成 29 年 12 月現在、V o1.157)、学校を通して全世帯に配布。活動内容の紹介や活動変更のお知らせなどを中心に掲載している。体育館玄関を利用し、“インフォメーションコーナー”を設置、活動変更のお知らせをするとともに、半月更新でカレンダーを貼って中・長期のお知らせに利用している。
- ・ ツイッターを利用して活動カレンダーや行事予定の写真を配信。パソコン・スマホ等でいつでも子供たちの活動を知ることができる。



【インフォメーションコーナーの
有効活用】

成果・今後の展望

“ほうかごところ”をきっかけとして異年齢での遊びが広がり、帰宅時間・約束した時間に対して年齢なりの意識が生まれている。開設から 10 年以上が経っているため、卒業生が大学生になってスタッフに入ったり、中高校生がボランティアスタッフとして手伝いに来たりしてくれるようになってきている。今後も、遊びや学びを通して児童の創造性、自主性、社会性などを養う機会を増やすため、安心して活動できる居場所を提供していく。

市町村名	東松山市			
実施教室数	2 教室	登録	コーディネーター数	4 人
対象学校数	2 校	スタッフ数	ボランティア数	58 人
平均年間開催日数	12 日			

【活動事例の紹介】

教室名	English 寺子屋			
登録児童数	62 人	登録スタッフ数	22 人	

取組内容

小学校中学年・高学年児童の外国語を用いたコミュニケーション能力の基礎を養うとともに、外国語を通して、体験的に理解を深める活動をより多く取り入れることを目指している。

(1) 実施内容

毎回テーマを決め、English 寺子屋指導案を作成している。指導案には、Greeting, Warm-up から始まり、様々な活動を用意し、体験的に英語に触れられるような計画を立てている。

ハロウィンやクリスマスの時期には、その時期に見合った様々な言語活動や製作活動を用意し、子供たちが楽しんで取り組めるような工夫を行っている。



【クリスマス・アクティビティの様子】

(2) 事前準備

近隣の大学・学習塾等にボランティア募集のプレゼンテーションを行い、ボランティアの人数確保を行った。当日の参加人数を把握するために、SNS やメール等を使い、実施日の2週間前にスケジュールの登録をお願いしている。

参加児童数は予定の40名を大幅に超える62名の応募があったため、クラスを3年生、4年生、5・6年生の3つに分けて対応している。

工夫した点・ポイント

- 市内桜山小学校の第3学年～第6学年の希望者を対象とした英語教室である。
- 隣接している桜山小学校と白山中学校の「小中連携教育特設校制度」における中心となる取組の1つである。
- ALTの派遣会社が主体となって、アクティビティを行っている。
- 個々のホルダーを作成し、活動で使用したワークシート類をファイリングしている。
- 発達段階に応じて活動の内容を工夫するとともに、高学年の授業はすべて英語で行い、個々の児童に応じて、ボランティアが支援を行っている。
- ボランティアの学生は、SNSを使って出欠の確認を行えるようにしている。
- 学期に1回授業参観日を設け、保護者に英語活動の様子を公開している。



【高学年児童の活動の様子】

成果・今後の展望

- 異なる学年の児童や、ボランティアと外国語活動で交流することで、コミュニケーション能力の向上につながった。
- ボランティアの多くは近隣の大学生で、将来的には子供と関わる仕事につきたいと考えている。その方々には、子供と交流する良い機会になっている。
- 安定したボランティアの確保のためにも、様々な方にお手伝いできる体制を整えることが課題である。

土曜日の教育支援

市町村名	坂戸市			
実施教室数	12 教室	登録	コーディネーター数	13※ 人
対象学校数	12 校	スタッフ数	ボランティア数	54 人
平均年間開催日数	17 日	※統括コーディネーターを含む		

【活動事例の紹介】

教室名	学力のびのび塾		
登録児童数	187 人	登録スタッフ数	66 人

取組内容

対象 坂戸市内の公立学校に通う小学4年生及び5年生

期間 平成29年5月から平成30年2月の土曜日

回数 4年生全18回、5年生全16回

学習内容及び目的

小学4年生が3年生の、小学5年生が4年生の国語・算数を学習する。前年度の学習を行い、「分かる」経験を積むことで、基礎学力の定着と学習意欲の向上につなげる。

また、地域の人材を学習支援員として活用することで、支援員にとっても教える喜びを感じ、地域へ貢献する機会として機能し、活力ある地域づくりの一助とする。



【学習の様子】

工夫した点・ポイント

- 教室は地域の公民館等を使用し、小学校の土曜日授業等を考慮したうえで日程を設定した。参加児童の所属する学区の会場を確保できるよう、前年度より会場数を増やした。
- 土曜日授業などの都合で不定期の実施となるため、事前にメールアドレスを登録した保護者宛に、「今週末は学力のびのび塾があります」といったメールを配信した。
- 各教室のリーダー（コーディネーター）を対象としたリーダー会議を開催し、情報交換を行った。特に、ゲーム形式で親しみやすい学習方法等の各教室で行っている工夫を共有し、よりよい学習環境づくりに役立てている。

成果・今後の展望

- 事業も3年目となり、定着してきている。今年度初めて対象とする全ての小学校からの参加申込があり、参加者数も増えている。
- 昨年度より各教室に配置する辞典の数を増やした。児童が分からない漢字や熟語を自分で調べるために積極的に活用している。
- 社会教育指導員の経験を持つ元校長である統括コーディネーターを配置していること、学校教育課、教育センターなどと連携していることにより、様々な視点で事業を検討できた。



【支援員による丁寧な指導】



【積極的に学習に取り組む児童】

市町村名	鶴ヶ島市			
実施教室数	1 教室	登録	コーディネーター数	1 人
対象学校数	8 校	スタッフ数	ボランティア数	3 人
平均年間開催日数	20 日			

【活動事例の紹介】

教室名	土曜学習会			
登録児童数	39 人	登録スタッフ数	3 人	

取組内容

学習内容の量が多くなるとともに、つまづきが生じやすい小学校5年生を対象にして、知識・技能の確実な定着と、活用力や応用力の一層の向上を図ることを目的に、国語と算数の2教科の学習を行っている。

具体的には、国語と算数の該当学年のプリント学習と学習支援ソフトが入っているタブレットPCを活用した学習を行っている。

児童39人をAとBの2つのグループに分けて、約半数の20人ずつで国語のプリント学習、タブレット教材、その後、算数のプリント学習、タブレット教材を用いた学習に取り組んでいる。プリント学習は、該当学年の内容に取り組むことにしているが、タブレット教材については、周囲の目を気にすることなく、自主的に内容を選んで学習に取り組むこととしている。その中で、分からないことや詳しく聞きたいことについては、学習指導員に質問し、教えてもらうこととしている。



【学習風景】



【タブレットによる学習】

工夫した点・ポイント

- 該当学年の学習内容のプリントを参加児童全員に取り組ませ、分からないことや詳しく聞きたいことについては、教員免許取得者の元教員から指導してもらえようとしている。そのため、学校での学習内容の確実な定着につながるようになっている。
- 学習支援ソフトを活用したタブレットPCでの学習では、周囲の友達の視線を気にすることなく、下学年も含めた児童の取り組みたい学年の学習に取り組めるようになっている。
- タブレットPCには、2つのタイプの学習支援ソフトを用意して、児童の意欲や学力に合わせて学習できるようにしている。
- 参加者を選考する際には、意欲を記載させ児童の意識を選考基準にした。そのため、開校式後のオリエンテーションでも、しっかりと目標を決めて、毎日目標を振り替えさせながら取り組んでいる。そのため、時間中は、集中して取り組んでいる。
- 教員資格免許を持っている学習指導員を常時配置することにより、子供たちに合わせた指導を行うことができています。

成果・今後の展望

- アンケート調査では、「難しい問題を解けるようになった」「成績が上がった」「教え方がわかりやすい」などの感想が寄せられており、情意面では、肯定的である。今後、諸調査で成果として現れるかが課題である。
- 来年度についても5年生を対象に実施する予定であるが、参加した子供たちのほとんどから、「次の5年生にも勧めたい」との感想を寄せられており、手ごたえを感じている。今年度の実施状況を踏まえて、学習内容の充実を図っていきたい。

土曜日の教育支援

市町村名	ふじみ野市			
実施教室数	6 教室	登録	コーディネーター数	10 人
対象学校数	19 校	スタッフ数	ボランティア数	22 人
平均年間開催日数	16 日			

【活動事例の紹介】

教室名	ふじみ野寺子屋（小学校コース・中学校コース）			
登録児童数	120 人	登録スタッフ数	10 人	

取組内容

（１）実施内容

《小学校コース》

- 各会場コーディネーター1名と大学生を中心とした学習アドバイザーを配置し、夏休みの宿題や、コーディネーターの用意したプリント等に取り組んだ。

《中学校コース》

- 中学校免許を有する講師6名のうち、各会場2名ずつ配置し、国語、数学、英語の3教科について、学習支援を行った。
- 参加した生徒の自主学習を基本とし、生徒からの質問を受けたり、講師が用意したプリントや県のコバトン問題集等に取り組み、個に応じた学習支援を行った。



【個に応じた学習支援】

（２）参加児童生徒の募集について

- 市内小中学校19校に案内を配布し、参加者を募った。保護者向けに説明会を行った。

工夫した点・ポイント

- 小学校コースは、これまで夏休みのみ開催していたが、今年度は2学期最初の土曜日にも開催することで、2学期当初の学校生活が円滑に始まるための一助とした。
- 中学生コースは、夏休みに加えて、9月以降も月1回、土曜日に学校や家庭以外の環境で学習する機会を提供した。
- 児童生徒が参加し易いように、小学校コースは4会場、中学校コースは2会場設定した。
- 中学校コースでは、教科を国語、算数、英語とし、中学校免許を有する講師を配置した。小・中学校コース両方で、外国語活動・英語の学習で、ALTによる英会話の学習を各会場で2～3回取り入れた。



【ALTによる英会話の学習】

成果・今後の展望

- 小学校コースは104名、中学校コースは16名、計120名の児童生徒が申込をし、自ら進んで学習する機会を設けることができた。
- 小学校コースでは、コーディネーターと学習アドバイザーで毎回平均5名、中学校コースも各会場に2名講師を配置したことにより、よりきめ細やかな学習支援をすることができた。
- 学校や家庭以外に学習する場を提供することができ、実施後のアンケートは、以下のとおり、保護者や児童生徒の満足度も高かった。

＜児童生徒＞

- ・分からないところを分かるまで教えてもらえた。
- ・違う学校の友達と交流し、刺激を受けた。

＜保護者＞

- ・今後も続けてほしい。
- ・寺子屋のおかげで集中して学習を進められた。

- 今後は、ふじみ野寺子屋を地域協働学校の取組の中で、地域とより連携した形で推進するための仕組みを整えていきたい。

市町村名	毛呂山町			
実施教室数	2 教室	登録	コーディネーター数	2 人
対象学校数	4 校	スタッフ数	ボランティア数	6 人
平均年間開催日数	20 日			

【活動事例の紹介】

教室名	もろ丸くんまなびアップ教室		
登録児童数	62 人	登録スタッフ数	16 人

取組内容

毛呂山町の土曜の教育支援事業は、毛呂山町のマスコットキャラクターの名を冠した「もろ丸くんまなびアップ教室」の名称で平成 29 年 6 月から開始した。

いわゆる「小 4 の壁」に対するケアを念頭に、小学 4 年生を中心に 5 年生、6 年生にも対象を拡大した。

毛呂山町では、小学校 4 校が 2 つの中学校区に分かれるため、中学校区毎に 1 教室ずつ、中央公民館教室と歴史民俗資料館教室の 2 教室を設け、それぞれに教員経験者の土曜教育コーディネーター、学生を中心とした学習支援員、また、経験豊富な学力向上支援員を配置した。事業は学年単位のグループ学習の形態で実施し、教科書の復習、指導者側で自主的に用意したプリント等を利用している。

工夫した点・ポイント

「もろ丸くんまなびアップ教室」は、学校とは異なる学習形態で実施している。

開校当初に参加する児童の学習カルテを作成、学習の内容と方法を検討した。4～6 人程のグループに 2 人の指導者が着き、できるだけ質問しやすい環境を整えた。

また、グループ毎にホワイトボードを備える等、児童との距離を縮め、視覚的にも理解しやすい方法をとれるように工夫した。

当日の学習のまとめとして、振り返りの時間を設け、各教室とも感想文の作成や発表を取り入れている。考えをまとめて作文し、発表することは、思考の整理が必要となり、学習効果が期待できる。



【グループ学習のようす（中央公民館教室）】

成果・今後の展望

「もろ丸くんまなびアップ教室」は、学校の休業日に学習機会の場を提供し、家庭学習を支援するとともに、基礎学力の定着を図ること、地域の人材を活用し、活力ある地域づくりを目指すことを念頭に計画した。具体的には、児童の家庭学習の習慣化、児童が解る喜びを感じることによる学習意欲及び学力の向上、指導者側の地域貢献の感受が大きな目標となる。

これまでの一つの成果として、参加児童の出席状況が挙げられる。各教室とも出席率は平均で 80%を超えており、全体の約 35%の児童が皆勤若しくは 1 日のみ欠席という状況である。また、学習意欲はあるが、何らかの理由で通学できない児童の受け皿にもなっている。

保護者からは、「児童自ら行きたいと言い出したので参加した」「学校のような集団のペースではなく、個々のペースに応じて勉強できることはありがたい」といった声が寄せられた。

今後、目標の一つに掲げられている家庭学習の習慣化が図られているのか、家庭での学習行動に変化があるのか等を検証する必要がある。また、充実した学習環境を整えるには、人的配置を検討しなければならない。学生を含め、多くの地域の人材の参画が求められる。

土曜日の教育支援

市町村名	越生町			
実施教室数	2 教室	登録	コーディネーター数	2 人
対象学校数	3 校	スタッフ数	ボランティア数	0 人
平均年間開催日数	11 日			

【活動事例の紹介】

教室名	越生町体験講座			
登録 児童数	447 人	登録 スタッフ数	12 人	

取組内容

(1) 実施内容

越生町の教育資源を活かし、様々な体験をとおして、科学的思考力や芸術性の素地を伸ばしていくことを目的とし、科学や音楽など全 11 講座を開講した。

講師は、各専門分野でご活躍されている地域の方々に依頼し、それぞれ特色あふれる講座を実施した。

○ 科学講座 ～見えない光を見てみよう～

ドライアイスを使って放射線を見る実験を行った。見えないものを見る・感じる体験をした子どもたちからは驚きの声があがり、科学への関心を持つきっかけとなった。当日は 23 名が参加した。



【科学講座の様子】

○ 音楽講座 ～みんなで和太鼓をたたいてみよう～

一人一台の太鼓が用意され、みんなで楽しく太鼓演奏をした。最後に色々な言葉を太鼓のリズムにのせて全員でオリジナル曲を完成させ、音楽を通じて一体感を感じることができた。当日は 39 名が参加した。



【音楽講座の様子】

(2) 当日の様子

さまざまな体験や実験などを通して、普段の学校生活では味わえない驚きや感動があふれる充実した講座となった。講師の方々には学年に合わせて内容を工夫していただき、全 11 講座には、延べ 268 名が参加した。

工夫した点・ポイント

- 小学生から中学生まで魅力ある講座にするため、さまざまな分野の講座を実施した。
- 講座は夏休みの土・日を中心に開催したことで、保護者も参加しやすくなった。

成果・今後の展望

- 異なる学校や学年の児童・生徒の交流ができると同時に、講座の開講にあたり、地域の様々な分野・立場の方々が繋がった。
- 来年度以降の実施継続に向けてさらに充実・発展させながら実施していくための実績となり、来年度以降の見通しがもてるようになった。

〈参加した子どもの声〉

「実験がとてもおもしろかった。」「初めて知ったことばかりで、楽しかった。」「将来の夢に向かって勉強をがんばろうと思います。」

〈参加した保護者の声〉

「子どもたちが楽しく参加できたようで大変うれしく思いました。」「息子と一緒に参加させていただきました。子どもだけでなく、大人の私も楽しく受講することができました。」「子どもがあんなに笑っているのを久しぶりに見ました。」

市町村名	熊谷市			
実施教室数	18 教室	登録	コーディネーター数	6 人
対象学校数	45 校	スタッフ数	ボランティア数	50 人
平均年間開催日数	24 日			

【活動事例の紹介】

教室名	バスで行く自然観察会「赤城山の美しい自然を探る」		
登録児童数	20 人	登録スタッフ数	4 人

取組内容

(1) 実施内容

紅葉した赤城山でハイキングを行いながら、山野草観察、宿り木観察を実施。赤城山の豊かな自然に親しみ、環境について考え、自然を愛する心を養う。

(2) 事前準備

- マイクロバスの手配（熊谷市役所－赤城山間）
- 参加者募集のチラシを熊谷市内全小・中学生の家庭に配布
- 紅葉で押し葉ができるよう、チラシに参加者の持ち物として雑誌を記載
- マイクロバスを駐車するための熊谷市役所前ロータリー開門の申請及び参加者が市役所駐車場を利用できるための申請
- 参加者の傷害保険の加入
- 事前の現地踏査（熊谷市役所、赤城山姫百合駐車場、赤城山総合観光案内所、小沼湖畔、鳥居峠、覚満淵、レークセンター赤城）

(3) 当日の様子

熊谷と比べ、ひと足早く紅葉が始まった赤城山は、赤や黄色が美しい、色鮮やかな世界が広がっていた。モミジやカエデが色付き、ナナカマドやニシキギは赤い実を付けていた。見上げたミズナラの木には、熊谷でなかなか見ることのできないヤドリギを発見することができた。足元の落ち葉は色や形が様々で、手のひらほどもある大きな葉もあった。落ち葉を拾って、本には喜んで嬉んでいる子供たちの姿が見られた。

工夫した点・ポイント

- 赤城山の紅葉が見頃となり、熊谷市内の小・中学生とその親子が参加できるように、実施日を10月中旬の週休日に設定した。また、実施日の1週間前に現地踏査を行い、ハイキングコースの安全性や紅葉の進み具合、植物の場所、トイレ等を確認した。
- 参加者が赤城山の植物や自然に興味をもてるよう、講師の先生が作成したガイドブックを活用し、山野草観察、宿り木観察を行った。

成果・今後の展望

- 参加者からは、「ハイキングの時、疑問に思ったことを先生が分かりやすく教えてくださったので、とても勉強になった。」「ハイキングの距離も低学年にちょうど良く、紅葉を楽しみながらいろいろな植物を観察できてよかった。」「美しい赤城山をいつまでも守っていききたいと思った。」等の感想があり、事業が大変好評であった。
- 木や葉の名前や特徴を教えてくださいました先生のお話の中に「赤城山が大好きで何度も来ていますが、来るたびに新しい発見があり一度でも同じ赤城山だったことはありません。」という言葉があった。秋がいっぱいの赤城山も冬を迎え、そして春夏と季節が移り変わっていく。また違う姿の赤城山を訪ね、新しい発見をしたいと思った。



【宿り木の観察】



【紅葉の観察】

土曜日の教育支援

市町村名	深谷市			
実施教室数	19 教室	登録	コーディネーター数	19 人
対象学校数	19 校	スタッフ数	ボランティア数	162 人
平均年間開催日数	32 日			

【活動事例の紹介】

教室名	小学生学習支援事業「がんばル〜ム」(豊里小学校「がんばル〜ム」)			
登録児童数	34 人	登録スタッフ数	8 人	

取組内容

- 活動では、主に算数と国語を中心に個別学習の指導・相談を行っている。
- 学習は市販のワークを使用し、学習支援は一般公募による「ちいきの先生」が指導を行う。
- 活動は、様々な学年の子供たちが一緒に学習を行い、子供同士でわからないところを教え合うなど、異学年交流の場ともなっている。
- 学校独自の活動として、ハーフタイム(休憩時間)の自由遊びや運動、学期末にお楽しみ会等を実施し、異世代・異年齢の交流を図っている。

工夫した点・ポイント

- 豊里小学校では、参加児童を一つの教室に集め、8人の「ちいきの先生」で自主学習の支援を行っている。先生方が個別に勉強を見ることで、子供のペースに合った学習をすることができる。
- 「ちいきの先生」は、子供と接するのが好きな方や、教育または学習塾等で子供を教えた経験が豊富な方等から一般公募し、教育委員会の面接を経て、登録を行っている。
- 子供の安全を確保するため、避難訓練を実施した。その際、実際の消防車や救急車が来て、身近で消防職員の話聞くなどの体験をした。

成果・今後の展望

完全学校週5日制が定着し、子供たちの休日の過ごし方は多様となり、より充実したものとなっている。本事業は、子供たちが有意義な土曜日を過ごすための一つの選択肢として、大変重要である。

子供たちへのアンケートでは、「参加して良かった」や「来年度も参加したい」との回答が多く見られ、とても好評であった。

勉強以外にも楽しめるプログラムを取り入れながら、学校・家庭と一層連携し、充実した「がんばル〜ム」へとつなげたい。



【学習の様子】



【避難訓練】

市町村名	三郷市			
実施教室数	5 教室	登録	コーディネーター数	2 人
対象学校数	27 校	スタッフ数	ボランティア数	0 人
平均年間開催日数	19 日			

【活動事例の紹介】

教室名	①おもしろ遊学館講座（おもしろ理科実験教室） ②中3入試対策講座			
登録 児童・生徒数	理科33人（のべ700人） 入試30人（のべ250人）	登録 スタッフ数	①理科21人 ②入試32人	

取組内容

(1) おもしろ理科実験教室

- 「音の出るおもちゃづくり」、「静電気で遊ぼう」「ひかりをまげてけんぴきょうをつくろう」、など児童の興味が高まるよう講師がテーマを工夫し、年間21講座を実施している。
- 1講座定員30人とし、申込みを受付している。1年間で4期に分けて募集要項を作成し、学校を通じて児童へ配布している。毎回40人を超える申込みがあるため、講座によって抽選で参加者を決定している。
- 写真の講座は4月30日（日）に実施した講座で、各自が1Lの牛乳パックを用意し、単レンズカメラを作り、写真を撮った。



【カメラをつくろう】

(2) 中3入試対策講座

- 秋と冬の週末、中3受験生を対象に補習教室として実施している。
- 秋季対策講座は、数学・英語2教科で基礎的な学習を2会場で2回ずつ実施。また、英語・数学のやや難易度の高い問題にチャレンジする英数スペシャルも2会場で2回実施した。
- 冬季対策講座は、国語・数学・英語・理科・社会の5教科を2会場で終日2回ずつ開催した。
- 使用教材は、コーディネーターを中心に市内の中学校へ呼びかけ、過去の入試問題を中心に作成している。



【冬季入試対策講座（国語）】

工夫した点・ポイント

(1) おもしろ理科実験教室

- 「不思議を解いて科学を学ぼう」をテーマに、大学教授をはじめ小・中学校の先生方や専門家を講師としてお招きし、小学生が理科に関する興味関心を高められるよう、実験を中心とした体験的な学習を実施している。また、毎年、実施講座内容を見直し、前年度講座と同内容にならないよう、講師が工夫をしている。

(2) 中3入試対策講座

- 市内の中学生がより参加しやすいように、会場を2か所に分けて実施している。
- 基礎的な学習に取り組む講座のほかに、難易度の高い問題に取り組む講座を従前の数学に加えて英語スペシャルとして新設した。
- 講師は、市内全中学校から校長を通じて募集している。身近な教員に指導を受けることができるなど、生徒が参加しやすい環境に配慮している。

成果・今後の展望

(1) おもしろ理科実験教室

- 参加児童からは、「牛乳パックと黒い紙と薄いレンズで写真が撮れて、すごくおもしろかったです。家でもできるのかと思いました。（理科実験教室）」、「先生や他校の人から良い刺激を受けました。（中3入試対策講座）」などの感想が寄せられ、本事業の目的である学習への興味関心を高めている様子が分かる。また、一人で40講座以上も参加するリーダーがいるなど事業は成果を挙げているため、次年度も工夫・改善をして継続する。

(2) 中3入試対策講座

- 講師作成の受験対策用ワークを活用し生徒にとって充実した講座となっている。次年度以降も継続し、より多くの生徒の参加ができるよう、広報活動も含め工夫していく。

中学生学力アップ教室

市町村名	川口市			
実施教室数	26 教室	登録	コーディネーター数	1 人
対象学校数	26 校	スタッフ数	ボランティア数	64 人
平均年間開催日数	13 日			

【活動事例の紹介】

教室名	川口市中学生学力アップ教室			
登録生徒数	813 人	登録スタッフ数	64 人	

取組内容

(1) 実施日時と回数

- ・10月初旬から2月下旬
土曜日もしくは日曜日、冬季休業中等
各校で13回
- ・時間は、9:30～11:30、又は、13:00～15:00
の2時間

(2) 内容

- ・埼玉県公立高校入試対策（国語・数学・英語）
の基本問題レベル
- ・指導課で作成した国・数・英のテキストを使用。
各自で取り組みたいテキストや参考書等の持ち
込みも可。

(3) 指導者

- ・学習支援員（退職教員及び教員を目指す大学生） 各校原則3人



【ある学校の学力アップ教室の様子】

工夫した点・ポイント

- 対象を「基礎学力の不足により進学に不安をもつ中学3年生」として、国語・数学・英語の3教科で実施した。
- テキストは、指導課で埼玉県公立高校入試問題の出題傾向を分析し、基礎的・基本的な内容を中心に作成し、各学校の生徒の実態に合わせて柔軟な対応が可能となるように作成した。
- 学習支援員は、経験豊富な退職教員や教員を目指す大学生（教育実習生のほか、6つの大学に協力を依頼）を対象に、広く募集し、指導課が面接・選考の上、配置を行った。
- 学習支援員説明会を実施し、諸手続きや概要説明に加えて、心構え等についても共通理解を図った。また、学校ごとに管理職と学習支援員とで打合せを行った上で、学力アップ教室を開始した。
- 学習支援員や学校からのアンケート等により運営上の課題を把握し、改善に生かした。

成果・今後の展望

- 各校での実施だったので、生徒は参加しやすかった。
- 昨年度よりも退職教員や非常勤講師の登録が多く、国語や英語の文法・作文など、生徒は専門的な指導を受けることができた。
- 保護者や学校関係者からは以下のような声が聞かれた。
 - ・「計算問題が確実に解けるようになり、本人も自信がついたようだ。他教科の学習に対しても意欲的になり、本当に感謝している。」（参加者の保護者）
 - ・「もともと計算ができていた生徒はより確実に、できていなかった生徒はできるようになっていった。その変化を実感することができた。良い取組だった。」（学校関係者）
 - ・「参加生徒とその保護者、3学年教員それぞれから『よかった。』という声を聞いた。2学年教員も来年度の実施に向けて前向きに考えているので、来年度も是非お願いしたい。」（学校関係者）
- 来年度に向けて、テキストの内容の充実、実施日や対象学年の拡大など、検討していく予定である。

市町村名	北本市			
実施教室数	2 教室	登録	コーディネーター数	2 人
対象学校数	4 校	スタッフ数	ボランティア数	15 人
平均年間開催日数	19 日			

【活動事例の紹介】

教室名	北本市営ナイトスクール			
登録児童数	43 人	登録スタッフ数	17 人	

取組内容

- (1) 中学生の学ぶ機会の確保
 学校を離れ、他校の生徒と同じ空間で、外部講師とともに日頃とは異なる環境の中、自分のペースで意欲的に取り組み、課題の解決を図っている。中学生全ての「学びたい！わかりたい！」という意欲をサポートする。
- (2) 学びやすい環境づくり
 参加は希望申込み制とし、会場は、参加しやすいように公民館を活用、土曜日の午後を実施している。
- (3) 既習事項をベースに受検を意識した学習内容
 中学3年生を対象に、数学・英語について、主に既習事項について学習する。前半は基本的な内容を行い、基礎学力を高めた上で、後半は受検を意識した内容を行っている。



【作成したテキスト】

工夫した点・ポイント

- (1) 実施形態
 個別指導を原則としており、生徒から質問が出たり、手の止まっている生徒に講師が声をかけたりして、一人一人の理解度に合わせて課題解決を図っている。
 参加生徒を2グループに分け、数学と英語を前後半で入れ替え、英語と数学を担当するそれぞれの講師が個別指導しやすくしている。
- (2) 会場選定
 土曜日の午後公民館を会場として行う。市内4校の中学校を2グループに分け、前後半で実施している。昨年度までは2会場で実施していたが、途中から1会場としたことで講師の確保が容易になった。
 (2グループで時間帯が異なるため、同一講師が別グループに入ることができる。)そのことが講師の質の向上にもつながっている。
- (3) 教材準備
 市教委にて、問題集(本年度は県教育局より提供されている「学力向上ワークシート」を活用)を作製し、ナイトスクール開始前に参加生徒及び講師の分を準備した。冊子にしたテキストを年度初めに配布し、予習や復習に活用できるようにした。また、後半は受検を意識し、市販の問題集を使用している。



【ナイトスクールの様子】

成果・今後の展望

- (1) 成果として
 個別指導を行った結果、生徒一人一人の理解度に合った指導ができた。また、自ら学習を進めることで生徒の学習に対する意識が高まった。対象を中学3年生に絞ったことで、以前に比べ講師が確保しやすくなると同時に、質を向上することができた。
- (2) 今後の展望
 これまでの成果を生かし、継続実施するとともに、テキストの改良や受講生徒数の確保、また教職員や地域の方々を生かした講師によるきめ細かな指導を実現するよう学校や地域と連携していきたい。

中学生学力アップ教室

市町村名	越生町			
実施教室数	1 教室	登録	コーディネーター数	1 人
対象学校数	1 校	スタッフ数	ボランティア数	0 人
平均年間開催日数	13 日			

【活動事例の紹介】

教室名	越生中学校学力アップ教室			
登録生徒数	268 人	登録スタッフ数	2 人	

取組内容

(1) 実施内容

長期休業中を中心に補充学習を実施するとともに、適宜確認テストを行うことで生徒の状況を把握し、きめ細やかな学習支援を行った。

補充学習では、町費の臨時講師が「基礎学力定着の時間」と「応用力を伸ばす時間」の両方を担当した。特に、応用力を伸ばす時間では、話し合い活動を取り入れ、生徒同士の教え合い・学び合いの指導も行った。



【確認テストの様子】

(2) 事前準備

指導は臨時講師が担当した。事前に教員が生徒一人一人のつまづきを分析したうえで、臨時講師との会議を密に行い、具体的な指導方法を伝えた。

また、補充学習に使用する教材は、教科書を中心に臨時講師が学習プリントを作成した。

(3) 当日の様子

事前に一人一人のつまづきを分析し、指導したことで、生徒は基礎知識の理解を深め、更に応用力を伸ばすため意欲的に学習に取り組むことができた。夏休みの補充学習では3日間で延べ198人の生徒が参加した。

工夫した点・ポイント

- 基礎学力定着に向けて、漢字や英単語の書き取り、計算問題等を繰り返し行い、臨時講師の専門性を活かせるようにした。
- 補充学習後の確認テストの採点を行い、指導した内容が理解できているかどうかを確認した。さらに、その後の授業や質問学習で再度同様の問題に取り組ませるなど、確実に基礎学力が定着するようにした。

成果・今後の展望

- 臨時講師は全学年の補充学習を担当することで、体系的な指導や支援ができ、さらに確認テストで多くの生徒の学力の伸びを把握することができた。
- 繰り返し学習や教え合いの重要性を通して、生徒がどの部分でつまづいているのかを把握することができ、それを次時の指導に役立てることができた。



【真剣に取り組む生徒たち】

〈参加した生徒の声〉

「先生方が細かく指導してくれるので、わからなかったところがわかるようになりました。」

「今まで応用問題が苦手でしたが、基礎だけでなく、応用問題も見てくれるので少しずつ理解できるようになりました。」

市町村名	熊谷市			
実施教室数	16 教室	登録	コーディネーター数	16 人
対象学校数	16 校	スタッフ数	ボランティア数	43 人
平均年間開催日数	30 日			

【活動事例の紹介】

教室名	学習支援充実くまなびスクール		
登録生徒数	534 人	登録スタッフ数	59 人

取組内容

(1) 事業内容

教員OBや教員免許状所有者、学生等の有償ボランティアによる、生徒一人一人に対するきめ細かな指導を通して、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図った。対象は市内全ての中学生で、市内の中学校（16校）が年間30回以内で週1回程度（1回2時間）実施した。学習形態は国語、数学、英語を中心とした自学自習形式で、一部講義形式も取り入れた。



【黒板を使用した指導】

(2) 情報共有の推進

① 学習支援員研修会の実施

各校の課題とその対応策、工夫した取組の紹介等、情報共有を行った。元校長の学習支援員を講師とした個別の指導方法等の講義は好評で、指導力の向上に繋がった。

② コーディネーター研修会の実施

各校の現状と課題、取組の成果、来年度の計画を策定する上での情報交換等を行った。また、学習支援員研修会における話題等も伝達し、各校の運営に生かした。

(3) 学習支援員等の人材確保

① 市報による募集

② 大学等への協力依頼

③ 各校に配置している学力向上補助員の活用

学力向上補助員は、日ごろから生徒と関わりがあることから、生徒にとっては質問しやすく、支援員にとっては生徒の実態を踏まえた指導がしやすく、有効であった。今後は、地域の人材を積極的に活用していきたい。



【個に応じた指導】

工夫した点・ポイント

- 会場は各中学校とし、実施日については各中学校が設定した。このことにより、学校の実情に応じた運営ができた。
- 学習支援員を対象とした研修を年間3回実施し、それぞれの指導力向上を図った。
- 市内の全生徒に配布してある「熊谷市学力向上テキスト」（熊谷市教育委員会作成）を各学習支援員に配布し、テキストとして活用した。
- 昨年度の参加実績を市で分析し、各学校が計画を立てる際に助言をした。
- 地元の大学の教職課程専攻の学生に「くまなびスクール」について説明をする機会を設けたことで、学生の学習支援員の確保につながった。

成果・今後の展望

- 経済的な理由等の限定をかけずに、市内全ての中学生を対象とし、学習の機会を保障し、個に応じたきめ細かな指導を行うことで、市内の中学生全体の学力の底上げに繋がった。
- 全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果において、土曜や日曜など学校が休みの日に2時間以上勉強する生徒の割合が多くなり、家庭学習の習慣が着実に定着してきた。
- 市長の政策提言に、「くまなびスクール」が盛り込まれた。熊谷市の重点事業として、更に活動の充実を図っていく。

中学生学力アップ教室

市町村名	秩父市			
実施教室数	1 教室	登録	コーディネーター数	1 人
対象学校数	8 校	スタッフ数	ボランティア数	6 人
平均年間開催日数	22 日			

【活動事例の紹介】

教室名	チチブ・アフタースクールスタディ～夜勉～			
登録生徒数	64 人	登録スタッフ数	7 人	

取組内容

秩父市の学校教育における近年の大きな課題の一つとして学力向上があげられてきた。各学校での授業改善や補充学習指導等、工夫された取組が行われている一方、個に応じた指導の複雑化、家庭教育力の低下、また家庭環境の多様化から学力向上の十分な成果が上げられていない一面もある。そこで、学校の学習指導に併せ、地域人材による学習支援の場を設けることで、中学生の更なる学力向上を図ることを目指し、学力向上に支援が必要な生徒等への学習支援策のモデル事業として行っている。

この教室の対象は中学生1年生から3年生とし、現在64名の児童生徒が登録している。市内の公民館を会場に、年間22回実施している。開講時間については、午後6時30分から8時30分までとしている。生徒たちはそれぞれの学習する内容を自分で考え、学習道具等を持参し、分からないところまたは勉強の方法など随時、質問していくという自主学習方式で学習している。

工夫した点・ポイント

この教室の特徴は、地域の教育力を活用することにより、学習ボランティアを地元に住む退職教員や大学生等をお願いしている。市報等でも公募し随時、募集をしている。講座では親しみを込めて学習ボランティアは「夜勉先生」と呼ばれ、生徒たちの学習の支援を行っている。現在、7名の夜勉先生がボランティアバンクに登録し、毎回4～5名の夜勉先生が、生徒たちの学習を支援している。また、チチブアフタースクールスタディ（ASS）コーディネーターを配置し、講座当日の会場運営や夜勉先生の配置、子供たちの出欠確認等を行っている。現在、1名のコーディネーターを配置し、夜勉先生も兼ねている。

成果・今後の展望

このような学習支援の場を夜の時間帯に行うことにどれだけの需要があるか明確ではなかったが、想定していたよりも多くの参加者があった。また、現状では、自主学習における生徒の需要には夜勉先生は応えられている。夜の講座ということで安全面には十分配慮が必要であり、保護者の送迎を可能な限りお願いしている。また、前述のように、参加者が予想を大幅に上回ったことにより、会場に余裕がないことや、学年によって子供たちの学習への意識や個々に取り組む内容・方法に差があり、その対応の難しさがあげられる。また、中学生への対応は専門科目別の夜勉先生が必要になり（特に数学、英語の対応が多い）、学習ボランティアバンクへの登録人数を増やしていくことが必要となっている。



【夜勉に取り組む中学生の様子】

市町村名	深谷市			
実施教室数	10 教室	登録	コーディネーター数	1 人
対象学校数	10 校	スタッフ数	ボランティア数	34 人
平均年間開催日数	90 日			

【活動事例の紹介】

教室名	中学生補習学習「ステップアップレッシン」			
登録児童数	68 人	登録スタッフ数	2 人	

取組内容

- 年度当初に学習に対し不安を抱えている生徒を対象に、基礎的・基本的な学習内容の補習学習を実施することで募集した。その結果、1年生5名、2年生39名、3年生14名が参加することになった。
- 1, 2年生は、国語、数学、英語を放課後1時間程度月曜日に20回程度実施した。
- 3年生は、国語、数学、英語を放課後1時間程度金曜日と土曜日に25回程度実施した。
- 夏休み中には、3年生の希望者(30名ぐらい)を対象に国語、数学、英語、理科の補習学習を実施した。冬休みも同様に3年生を対象に補充学習を実施した。
- 学習内容は、担当職員が準備した学習プリントを参加した生徒で教え合いながら理解するように進め、担当職員は、その手助けをするようにしている。



【ステップアップレッシン実施の様子】

工夫した点・ポイント

- 全国学力・学習状況調査や埼玉県学力・学習状況調査の結果をもとに、生徒の実態に応じた指導を実施した。
- 3年生では、入試を考え基礎的な内容の過去の入試問題を取り入れて学習を進めてきた。
- 夏休みや冬休みにも希望する生徒を対象に担当職員が対応した。
- 粘り強くわかるまで指導をするように心がけた。

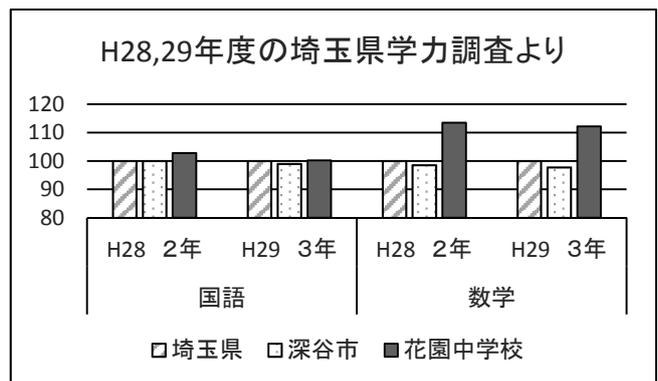
成果・今後の展望

【生徒の感想】

- わからない問題を友達と教え合いながら楽しく学習できたので良かった。
- 国語の慣用句、数学の基礎と応用問題や英語の忘れていた単語の練習など復習ができて良かった。
- 英語の単語や英文がわかるようになり良かった。回数をもっと増やして欲しい。

【県学力調査結果より】

- 現3年生の昨年からの伸びのグラフでもわかるように、放課後の補習学習で基礎基本が身につく学力が全体的に向上したようである。



中学生学力アップ教室

市町村名	小鹿野町			
実施教室数	1 教室	登録	コーディネーター数	1 人
対象学校数	1 校	スタッフ数	ボランティア数	25 人
平均年間開催日数	22 日			

【活動事例の紹介】

教室名	中学生土曜未来塾		
登録生徒数	72 人	登録スタッフ数	17 人

取組内容

- 講座は、学校授業の進み具合に合わせ、補習的な内容を行っている。
- 基礎・基本を徹底するコースでは、1 講座を2人の講師が同時に担当し、個別指導もあわせて行っている。
- 講師は、地元高校の教師・地元塾講師・教員OBが中心となり、皆地元のためにと献身的に取り組んでいる。
- 参加生徒も部活動や学習塾などの時間のやりくりをしながら積極的に参加している。
- 中学校でも未来塾の日は、部活動を午後に実施するなどの協力をしている。

工夫した点・ポイント

- 中学生が参加しやすいように、中学校・教育委員会・スポーツクラブ・地域団体が日程の調整を行っている。
- 遠方の生徒の参加のため、無料送迎バスを運行している。
- 参加者の状況把握のため、定期的に講師間の打合せを行っている。

成果・今後の展望

- 生徒の学習進度を踏まえた習熟度別コースを実施することで、生徒の学習意欲と基礎学力の向上を図ることができた。
- 学習のきめ細やかな指導に加え、生活態度や生き方についてのアドバイスも熱心に行い、キャリア教育の視点からも効果があった。
- 各講師が講座の進め方の研究を行うことで、自分のスキルアップにつながった。



【講師2人態勢によるコース】

中学生学力アップ教室

市町村名	上里町			
実施教室数	1 教室	登録	コーディネーター数	1 人
対象学校数	2 校	スタッフ数	ボランティア数	11 人
平均年間開催日数	64 日			

【活動事例の紹介】

教室名	上里町中学生学力アップ教室			
登録生徒数	30 人	登録スタッフ数	12 人	



【教室の様子】

取組内容

(1) 対象生徒 (定員 40 名)

- ① 上里町立中学校に在学する中学 3 年生
- ② 学習塾に通っていない生徒
- ③ 意欲があり、学習の不安を解消したい生徒

(2) 開催日

平成 29 年 7 月 20 日から平成 30 年 2 月 27 日までの週 2 日間 (原則月曜日・木曜日)

(3) 開催内容

町内には中学校が 2 校あることから、中学校ごとに 2 つのクラスに分けた。教科は、国語・数学・英語で、決められた時間割に従って教室を開催した。参加生徒は、学習する教科の教材を持参し、学校の宿題及び学校での学習に関する予習や復習を行い、わからないところについては、学習支援員に質問していく。

(4) 事前準備

学習支援員となる人材を探すため、近隣の大学と連携をとったが、必要とする人数に達しなかった。そこで 6 月・10 月に町内小中学校で教育実習を行った大学生や、町内小中学校でボランティアとして活動していた大学生及び退職された元教員に声をかけた。

教材、辞典、学習道具については、生徒が持参する決まりである。しかし準備ができていない生徒にも対応できるように、「学校で使用されている中学 1 年生から 3 年生までの教科書や資料」「国語辞典、漢和辞典、英和辞典、和英辞典」「コンパス・三角定規」を用意し、毎回すぐに使えるようにした。

工夫した点・ポイント

- 教室開始日を、生徒 (中学 3 年生) が参加しやすいよう、運動部活動が終了した 7 月下旬に設定した。
- 開催場所を、町の中央に位置する中央公民館にして、生徒が通いやすくした。
- 事前に参加する保護者のメールアドレスを登録し、緊急時の連絡として活用した。
- 毎回教室を開催する前に打合会を実施し、指導方法の確認等を行った。
- 「自力で家庭学習に取り組める力を育てる」をベースとして、自立解決をしながら、わからないところを訊ける態度を養う中で、学習の仕方を学ばせ、「これがわかった」と実感できるような支援を行った。
- 自力解決時に、訊き合える関係ができるまで生徒の座席は固定した。
- 7 月から国語・数学・英語の 3 教科で決められた時間割に従って教室を開催したが、高校入試に対応するため、1 月より実施教科を国語・社会・数学・理科・英語の 5 教科に広げた。時間割は設けず、5 教科のうち、勉強したい教科を持参させた。

成果・今後の展望

本年度で「上里町中学生学力アップ教室」3 年目となり、参加生徒が、平成 27 年度 23 名、平成 28 年度 27 名、平成 29 年度 30 名と増加している。参加生徒の保護者に実施したアンケートの結果では、「学力が上がったか」との質問において、「上がった」と回答した割合が、平成 27 年度 74%、平成 28 年度 76%であった。「意欲が高まったか」との質問において、「高まった」と回答した割合は、平成 27 年度 84%、平成 28 年度 86%となり、ともに増加している。今後は、保護者アンケート結果や学力アップ教室の課題を詳細に分析し、学力がさらに向上するよう改善していく。

中学生学力アップ教室

市町村名	寄居町			
実施教室数	1 教室	登録	コーディネーター数	2 人
対象学校数	3 校	スタッフ数	ボランティア数	0 人
平均年間開催日数	38 日			

【活動事例の紹介】

教室名	より・E土曜塾		
登録児童数	160 人	登録スタッフ数	2 人

取組内容

(1) 実施内容

株式会社トライグループに業務を委託して、「より・E春塾」・「より・E土曜塾」・「英検対策講座」を実施した。

「より・E春塾」では、春季休業中と4月の土日の3日間、3校の中学校3年生を対象に数学と英語を60分間ずつ補習した。「より・E土曜塾」では、7月の期末テスト対策講座から2月末まで年間30回、原則週1回、数学と英語の授業を実施した。それぞれ習熟度別の少人数グループ（3～5人）に講師1人を配置し、個別指導が行われるようにした。第1回で事前テストを実施し、その結果をもとに習熟度別のグループを作った。そして、11月、1月にもテストを実施し、学力の伸びを実感できるようにした。事業の開始時、11月に面談を実施し、学習上の悩みの相談にのったり、学習方法のアドバイスを رفتたりした。また、12月には、高校受験に向けた保護者会を実施した。中学校2、3年生を対象にして、英検受験前5回、60分間の英検対策の授業を実施した。



これらは、3校の生徒が集まりやすいよう寄居町役場内の会議室を利用して行った。また、費用については、テキスト代のみを個人負担として、あとは全て公費とした。

【習熟度別の少人数指導】

(2) 事前準備

年度当初から業者との打合せによって、細かい事業内容を詰めていった。すぐに業者と契約を結び、生徒募集を行った。

(3) 当日の様子

習熟度別のグループにより、実態にあった授業が展開されているので、わかる、できるようになったという声が聞かれた。

回を重ねるごとに講師と生徒との人間関係もでき、生徒が気軽に質問をし、自分の苦手な部分を克服している姿が見られるようになった。

工夫した点・ポイント

- より多くの生徒が参加できるよう、開始時期を早めたり、実施回数を増やしたりした。
- 定期テストに向けて、各中学校のテスト範囲に応じて授業を実施した。
- 委託業者が提供しているWEBサイトで、家庭においても学習を行うことができるようにした。
- 面談、保護者会等を実施し、勉強方法を身に付けることができるようにした。
- 英検に多く生徒が合格できるよう、「英検対策講座」を「より・E土曜塾」と同日開催した。

成果・今後の展望

- 開始時期を早め、実施回数も増やしたため、昨年度より参加人数が大幅に増加した。
- 8月の事前テスト、11月の中間テスト、1月のまとめのテストで学力の伸びを確認することができた。
- 定期テスト対策では、苦手な部分を個々に対応していたため、自信をもってテストに臨めた。
- 英検対策講座の回数の増加を希望する生徒が多く、英検の合格者数も増えた。
- 保護者会と三者面談を実施することによって、学力向上に向けた家庭の在り方について理解を図ることができた。

市町村名	加須市			
実施教室数	5 教室	登録	コーディネーター数	4 人
対象学校数	8 校	スタッフ数	ボランティア数	13 人
平均年間開催日数	38 日			

【活動事例の紹介】

教室名	加須まなび Time		
登録生徒数	153 人	登録スタッフ数	17 人

取組内容

(1) 実施内容

- ア 対象…市立中学校に通学する生徒（希望者）
- イ 指導者…コーディネーター（退職した校長及び教員）
学習サポーター（教員を希望している大学生）
- ウ 学習内容…国語、社会、数学、理科、英語の5教科を中心に、
個別の課題に沿った学習を実施
- エ 学習時間…週1回（土曜日または日曜日）
2時間（9：45～11：45または13：30～15：30）



【個別に分かるまで】

(2) 事前準備

- 学習サポーターを確保するために、前年度から中学校長へ連絡を取り、教育実習を予定している学生に声をかけたり、彼らの友人を紹介してもらったりした。
- 中学生には、小学校6年生の3月から事前に広報して、加須まなび Time の募集を促していた。
- 会場は、市内の公民館やコミュニティセンターを活用して、学校や教員に負担がかからないように配慮した。
- 教材は、市販されている参考書やドリル等を活用した。また、生徒が自宅で使用している教材を持ち込むことも許可した。

第5「放課後子供教室推進事業」
の実践事例（実施市の取組）

工夫した点・ポイント

- 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果から、本市の課題に、「学力の定着に個人差が見られる」「家庭学習の時間が十分でない」等が挙げられた。そこで、生徒が自分の学習したいものを選択して学習できるよう、自主学習の形態を採用している。
- コーディネーターや学習サポーターは、生徒が困ったときやつまずいていると思われるときに、タイミングよく支援ができるように努めている。
- 市内5会場に教室を設定し、市内どの中学校区に居住していても通いやすいように配慮している。



【みんなと一緒に学習】

成果・今後の展望

- 参加している生徒からは、「分からないことがあってもすぐ先生たちに聞けるから、すごく助かりました。」「家ではなかなか勉強に集中できなかったため、加須まなび Time に参加してよかったです。」「2時間が短く感じました。もっと長い時間やってほしい。」という感想があった。
- 1、2年生の参加者が多く、家庭学習の定着にも効果があった。3年生の参加者もいるため、受験対策として、今後は応用問題にも取り組めるような教材の準備が必要である。

中学生学力アップ教室

市町村名	久喜市			
実施教室数	3 教室	登録	コーディネーター数	2 人
対象学校数	3 校	スタッフ数	ボランティア数	0 人
平均年間開催日数	35 日			

【活動事例の紹介】

教室名	くき本樹塾		
登録児童数	110 人	登録スタッフ数	17 人

取組内容

(1) 実施内容

市内の中学校3校に無料の学習塾「くき本樹塾」を設置し、設置校の生徒30～40名に対して放課後に学習支援を行っている。基本的には毎週1回、長期休業中には特別講習期間を設定し、毎回2時間の個別学習を支援する形で取り組んでいる。

(2) 事前準備

4月～5月にかけて、指導者の募集と参加生徒の募集を行った。指導者の募集は、市の広報誌、ホームページに記事を書けるとともに、近隣大学にチラシの掲示を依頼した。その後、久喜市教育委員会で選考を行い、17名の方に委嘱した。参加生徒の募集は、設置校の保護者に向けてリーフレットを配布し、希望制で募集した。教材は、埼玉県学力向上ワークシートを利用し、国語、算数・数学・英語について、小学校5年生から中学校第3年生の分までの問題を用意した。

(3) 当日の様子

第1回目は、参加生徒も学習支援員も緊張した面持ちであったが、回を重ねるにつれ、生徒が気軽に質問するようになり、学力向上に成果が見え始めた。教育委員会で用意した学習プリントを終え、生徒自身が用意した問題に取り組む姿も見られるようになってきた。学校の行事等の関係で参加者数が少ない回もあったが、そのようなときにはより個に応じた指導の充実を心がけた。



【第1回オリエンテーションの様子】

工夫した点・ポイント

- 「埼玉県学力向上ワークシート」を教材として使用したことで、生徒個々のつまづきに合わせて、小学校の学習内容にまで戻って学ぶことができるようにした。
- 本市で毎月行っている「久喜市ステップアップテスト」を活用し、本事業に参加している生徒の学力の実態を毎月測ることができるようにするとともに、参加生徒の学力の変容と、参加していない生徒の学力の変容を比較できるようにした。
- 2教室をかけもつ学習支援員を配置することで、教室間の連携を図りやすくするとともに、それぞれの教室を比較し、自教室の課題を明らかにし、教室の質向上に役立てられるようにした。



【学習支援員による支援の様子】

成果・今後の展望

- 「久喜市ステップアップテスト」6月～12月の比較において、本教室に参加している生徒の学力の伸びの平均が、参加していない生徒の伸びの平均よりも大きかった。
- 今年度は本教室を3校に設置して取り組んできたが、今年度の成果を受けて、平成30年度は全11中学校に本教室を設置する予定である。